

平成 26 年度

# 事業報告書（抄）

自 平成 26 年 4 月 1 日

至 平成 27 年 3 月 31 日

I. 学校法人森ノ宮医療学園 平成 26 年度事業報告書.....	1
II. 森ノ宮医療学園専門学校 平成 26 年度事業報告書.....	11
III. 森ノ宮医療大学 平成 26 年度事業報告書.....	41
IV. 学校法人森ノ宮医療学園附属診療所 平成 26 年度事業報告書.....	115
V. 学校法人森ノ宮医療学園出版部 平成 26 年度事業報告書.....	119

学校法人森ノ宮医療学園

大阪市東成区中本 4 丁目 1 番 8 号

※本事業報告書については、個人情報等に関する部分について掲載を一部省略している箇所がありますことをご諒解ください。



# I. 学校法人森ノ宮医療学園 平成26年度事業報告書

## 1. 学園の経営課題に対する取り組み

森ノ宮医療学園専門学校においては、現行の定員になってからの入学者数としては最も少ない196名となり、目標と置く300名からは65.3%と非常に厳しい状況からのスタートとなった。在籍者数（及び退学率%）も直近の5年間の推移を見ると平成22年度の905名（4.6%）、平成23年度898名（4.7%）、平成24年度932名（5.4%）、平成25年度の879名（5.3%）に比べ平成26年度では725名（5.8%）と急激に減少し、退学率も最大となった。最多在籍者数であった平成24年度から比較すれば、77.8%となり収入面においても在籍者数に比例して大きく減少した年度となった。ひとり本校のみならず、全国規模においても短期大学はもとより専門学校の専攻分野によっては、さらに劇的に悪化の一途をたどる学校も増加しており、社会状況の急変に専門学校の体制が十分に追いついて対応できていないことの証左となっている。本校では、いわゆる高校から直接入学してくる新卒者の割合もこの5年間で急激に増加したことを受け、高校訪問しての営業活動やそのためのスタッフの雇入れ等、積極的に対応しているが、高校側に対しての知名度等まだ十分に機能するに至っていないのが現状と言える。

その中で文部科学省生涯政策局の先導で平成25年度から導入された、「職業実践専門課程」制度は制定当初の400校から650校に増加を見せ、厚生労働省の所轄である職業教育訓練給付金の支給に連動して、本校のような3年制の課程でも支給対象となるなど、新たな施策もより具体的な意義を持つことが期待される状況となってきている。

森ノ宮医療大学においては、平成23年度に開設した看護学科の第1期卒業生を送り出すことができた。就職先の状況においても、特定機能病院、地域医療支援病院等、病院の中でも中核的な役割をもつ病院へ多くの学生が就職することができ、加えて保健師課程を取った学生すべてが保健師資格を得、さらにその中で保健師として活躍できる保健所に就職ができたことも特筆に値すると思われる。

さらに平成28年度の開設を目指し、作業療法学科、臨床検査学科及び助産学専攻科の設置の為の準備に入り、その新学科開設のための教員について予定通り確保することができた。また、新校舎建築のための競争コンペを開催し、建築設計事務所並びに施工会社をつつがなく決定することができた。私学共済事業団では、全国私学の「大学ポートレイト」共通ホームページでの公表が開始され、本学もその項目に従って情報の公表を積極的に行った。

学園としては、中期計画実行初年度として、専門学校、大学での数値目標を核とするヒアリング実施したほか、平成27年度からの新たな人事制度の導入に向け、先行試行的に大学事務局での目標管理に基づく人事面談とそのフィードバックを実施した。

財務面においては、消費支出抑制も継続的にすすめ、在籍学生数の減少による収入の減少および、平成28年度の新学科開設準備のための費用等支出も嵩んだが、収支差額については、計画通りの数値を達成することができ、これは将来を見据えた健全な財政状況であり、適切に学校経営がなされていると思われる。

加えて、将来を見据えた、若手教員の採用と組織改編、人事異動など積極的な人事施策をとり、学園全体の質的向上に努めた。

## 2. 平成26年度の主な事業活動とその動向

1. 平成26年度も継続して専門学校、大学の教職員合同参加による人事考課研修会を実施した。
2. 専門学校の新卒国家試験合格率は「はり師」90.2%（前年度92.5%）、「きゅう師」90.9%（前年度93.3%）、「柔道整復師」65.9%（前年度90.6%）であった。
3. 大学においては同じく新卒の合格率として、「はり師」95.1%、「きゅう師」100%「理学療法士」93.4%、看護師96.9%であった。
4. 専門学校においては広報活動を積極的に推し進め、高校訪問では延べ339校を訪問したほか、校内における体験授業は8回、また校外の高校等への出前出張授業を33回、さらに柔道整復学科教員を主体とするスポーツセミナーを5回、鍼灸学科教員を主体とするツボ講座を10回実施した。またウェルエイジング（アロマ）講座では、のべ199名の参加があった。地域情報紙「ここ+から」は年4回15,000部を発行し、好評を得ている。
5. 専門学校における就職活動においては、求人数に対して紹介できる就職希望学生が少なく、求人先においても本校学生にとってもできる限りミスマッチの無いような仕組み作りを強化しており、本校における職業紹介利用者は172名、求人倍率は6.8倍となっている。大学においても、鍼灸学科、理学療法学科、大学院保健医療学研究科の就職するすべての学生は、就職が実現できた。また、看護学科の卒業生の多くは、特定機能病院、地域医療支援病院を中心としていわゆる大規模病院に就職することができた。
6. 奨学金関係については、本学園独自の奨学学費ローンの紹介の徹底をはかることにより、利用者も大きく増加した。
7. 大学においては、昨年度同様、看護学科を中心とする「地域子育て支援もりもりクラブ」の開催について毎回テーマを設定して10回開催したことはじめとして、本学専任教員及び包括提携している病院からの講師の参画も得て、「市民公開講座」を積極的に開催し、のべ114名の市民からの参加があった。さらに、学外のイベント（森ノ宮医療大学サッカー大会（通称「森ノ宮カップ」）みどりと海の咲洲ウォーキング2014、OSAKAハッピーランフェスタ、咲洲こどもフェスタ、新たに「階段垂直マラソン&ウォーキング THE RISE2014」の開催支援をした。包括連携を行っている大阪府立急性期総合医療センターにおいて定例となっている「ふれあい病院探検隊」に学生ボランティアスタッフとして派遣しているほか、3学科の広報ブースを設けて高校生日本学の活動を積極的にアピールし、社会貢献の活動をよりいっそう活発化した。
8. 大学において、本年度はさらに連携を強化し、新たに高槻市教育委員会、吹田市教育委員会、相愛大学、東大阪病院、南大阪病院と包括連携協定を締結した。
9. 研究活動においては、外部科学研究費の助成を継続して獲得した。

### 3. 森ノ宮医療学園の沿革

昭和48年(1973)	3月	厚生省より鍼灸師養成施設の認可を受ける
	4月	大阪鍼灸専門学校開校
昭和52年(1977)	4月	学校法人「森ノ宮学園」となり、あわせて専修学校医療専門課程となる
昭和57年(1982)	4月	附属診療所、附属鍼灸施術所落成
昭和60年(1985)	4月	卒後教育雑誌「鍼灸 OSAKA」創刊
昭和63年(1988)	5月	鍼灸師養成に関わる法律により修業年限3年となる
	11月	中国、大連市中医医院と学術研究提携を結ぶ
平成3年(1991)	7月	米国、Santa Barbara College of Oriental Medicine と教育提携を結ぶ
平成4年(1992)	7月	中国、南京中医薬大学と学術研究提携を結ぶ
平成7年(1995)	3月	この年の卒業生から文部省告示による専門士(医療専門課程)の称号を授与
平成8年(1996)	6月	中国江蘇省陰市中医医院と交流開始
平成12年(2000)	4月	柔道整復学科開設、法人名を学校法人森ノ宮医療学園、学校名を森ノ宮医療学園専門学校と改称
平成13年(2001)	1月	本校舎増改築工事完成
		はりきゅうミュージアム開設
平成14年(2002)	1月	はりきゅうミュージアムにて代田文誌特別展開催
	4月	緑橋校舎増設
平成15年(2003)	3月	柔道整復学科第1期生卒業 創立30周年記念式典 校歌「みどりの風」制定
	4月	全日制アドバンスコース開講
	7月	アネックス校舎(第1期)完成
平成16年(2004)	3月	中国江蘇省江陰市中医医院と学術・教育協定締結
平成17年(2005)	2月	医療法人淳良会関目病院と教育提携を結ぶ
平成19年(2007)	4月	森ノ宮医療大学開学
平成20年(2008)	2月	第1回おおさか優良緑化賞・大阪府知事賞受賞
	11月	森ノ宮医療大学コスモキャンパス第2校地取得
平成21年(2009)	4月	森ノ宮医療大学 AMRI 医療センター(アムリクリニック、アムリ鍼灸院)開院
平成22年(2010)	1月	森ノ宮医療学園附属みどりの風クリニック、みどりの風鍼灸院開院
	3月	森ノ宮医療学園アネックス校舎完成
	6月	森ノ宮医療大学メディカフェオープン
平成23年(2011)	4月	森ノ宮医療大学看護学科設置 森ノ宮医療大学大学院修士課程保健医療学研究科設置
平成24年(2012)	2月	森ノ宮医療大学鍼灸学科スポーツ特修コース設置認可
平成25年(2013)	3月	森ノ宮医療大学 公益財団法人日本高等教育評価機構による機関別認証評価受審の結果、「適合」との判定 森ノ宮医療学園専門学校 文部科学大臣より「職業実践専門課程」の認定

4. 森ノ宮医療学園の概要（平成27年4月1日現在）

1. 設置する学校

法人の 名称		学校法人森ノ宮医療学園		事務所の 所在地		大阪府大阪市東成区 中本4丁目1番8号	
設置する学校	学校名	学部・学科名等	修業 年限	入学 定員	編入 学定員	収容 定員	備考
	森ノ宮医療大学	大学院保健医療学研究科 保健医療学専攻（修士課程）	2	6	0	12	開設年度 平成23年
		保健医療学部鍼灸学科	4	60	0	240	開設年度 平成19年
		保健医療学部理学療法学科	4	60	0	240	
	森ノ宮医療学園専門学校	保健医療学部看護学科	4	80	0	320	開設年度 平成23年
		医療専門課程 鍼灸学科	3	180	0	540	開設年度 昭和48年
		医療専門課程 柔道整復学科	3	180	0	540	開設年度 平成12年

2. 役員の氏名

役員	氏名	役員就任	寄附行為上の選任区分	備考
理事長	清水尚道	平成22年4月	7-1-1	森ノ宮医療学園専門学校校長
理事	荻原俊男	平成23年4月	7-1-1	森ノ医療大学学長
理事	安田実	平成11年5月	7-1-3	
理事	三木完二	平成9年5月	7-1-2	
理事	花谷幸比古	平成9年5月	7-1-2	
理事	中田敬吾	平成14年5月	7-1-3	
理事	尾崎朋文	平成25年4月		
理事	森優也	平成25年4月		
理事	小島賢久	平成25年4月		
理事	吉川徹	平成25年7月		
監事	日根野文三	平成11年5月		
監事	小林由幸	平成14年10月		

※安雲和四郎 平成26年12月31日 退任

3. 校地・校舎の概要

学校名（所在地）	校地現有面積	校舎現有面積	備考
森ノ宮医療大学・ 大学院 (大阪市住之江区南港北1丁目39番1号)	15,995.24 m <sup>2</sup>	7,209.83 m <sup>2</sup> (東校舎)	学生食堂は平成22年6月完成。(676.67 m <sup>2</sup> ) 西(看護学棟)校舎は平成23年3月完成。(4,566.38 m <sup>2</sup> ) なお、校舎面積7,209.83 m <sup>2</sup> は大学設置認可申請書の「基本計画書」の校舎面積に加えて基準外の体育館面積433.50 m <sup>2</sup> を含む。
		676.67 (学生食堂)	
		4,566.38 (西校舎)	
森ノ宮医療大学 (大阪市東成区中本2丁目5番41号)	1,329.40	198.76 (森ノ宮校舎)	(森ノ宮校舎)
森ノ宮医療大学 計	17,324.64	12,651.64	
森ノ宮医療学園専門学校 (大阪市東成区中本4丁目1番8号)	1,560.22	5,253.67 (本校舎)	
森ノ宮医療学園専門学校 (大阪市東成区中本3丁目15番11号)	530.56	936.74 (緑橋校舎)	
森ノ宮医療学園専門学校(大阪市東成区中本2丁目5番41号)	—	1,255.43	アネックス校舎
森ノ宮医療学園専門学校 計	2,090.78	7,445.84	
(大学+専門学校) 合計	19,415.42	20,097.48	

## 5. 法人全体の決算概要

### ●正味資産の推移

(単位: 円)

	平成 26 年度	平成 25 年度	平成 24 年度	平成 23 年度	平成 22 年度
正味資産 (総資産-負債)	12,034,231,140	11,609,419,426	11,020,929,740	10,566,142,850	9,985,113,494
資産増加額	424,811,714	588,489,686	454,786,890	581,029,356	491,402,104

### ●平成 26 年度決算概要

(単位: 円)

No.		平成 26 年度	平成 25 年度	平成 24 年度	平成 23 年度	説明
1	帰属収入	2,818,708,306	2,842,770,824	2,735,524,015	2,637,110,025	消費収支(単年度) の収入合計
2	消費支出	2,394,096,562	2,254,081,168	2,280,737,125	2,056,080,669	消費収支(単年度) の支出合計
3	帰属収支差額	424,611,744	588,689,656	454,786,890	581,029,356	1-2
4	基本金組入	△ 13,960,200	△ 92,940,851	△ 27,005,220	△ 132,386,708	将来存続に向けての 最低限の設備など備え
5	差引収入超過	410,651,544	495,748,805	427,781,670	448,642,648	3+4
6	前年度繰越収入 超過額	1,142,597,102	616,848,297	183,778,597	△ 264,864,051	差引収入超過額の 累計額(支出超過は△)
7	基本金取崩	3,674,810	30,000,000	5,288,030	0	
8	翌年度繰越収入 超過額	1,556,923,456	1,142,597,102	616,848,297	183,778,597	5+6+7

### ●主な財務比率について

項目	平成 26 年度	平成 25 年度	平成 24 年度	平成 23 年度	説明
帰属収支差額比率	15.1%	20.7%	16.6%	22.0%	帰属収入—消費支出/ 帰属収入
教育研究経費比率	24.6%	23.3%	22.0%	26.7%	教育経費/ 帰属収入
管理経費比率	9.5%	8.5%	8.3%	9.3%	管理経費/ 帰属収入



## 6. 森ノ宮医療学園の主な加盟団体一覧

	加盟団体	部門	主管部署	備考
1	公益社団法人 私学経営研究会	法	本部人事室	学校関係
2	NPO法人 学校経理研究会	法	本部経営管理室	
3	全国専修学校各種学校総連合会	専	事務局	
4	社団法人 大阪府専修学校各種学校連合会	専	事務局	
5	公益財団法人 日本高等教育評価機構	大	総務室	
6	都市圏高等教育懇談会	大	総務室	
7	日本私立大学協会	大	総務室	
8	日本私立大学協会関西支部	大	総務室	
9	西日本私立大学振興協議会	大	経営企画室	
10	大阪府私立大学連絡会	大	総務室	
11	特定非営利活動法人 大学コンソーシアム大阪	大	教務室	
12	関西地区FD連絡協議会	大	経営企画室	
13	関西学生就職指導研究会	大	学生支援室	
14	日本アロマコーディネーター協会	専	事務局	
15	公益社団法人 東洋療法学校協会	専	鍼灸学科	鍼灸関係
16	公益社団法人 全日本鍼灸学会	共/大関	鍼灸学科	
17	一般社団法人 メディカル・フィットネス協会	大	鍼灸学科	
18	一般社団法人 全国リハビリテーション学校協議会	大	理学療法学科	理学療法 関係
19	一般社団法人 近畿リハビリテーション学校協議会	大	理学療法学科	
20	一般社団法人 日本私立看護系大学協議会	大	看護学科	看護関係
21	一般社団法人 日本看護系大学協議会	大	看護学科	
22	公益社団法人 全国助産師教育協議会	大	看護学科	
23	一般社団法人 全国保健師教育機関協議会	大	看護学科	
24	公益社団法人 全国柔道整復学校協会	専/大関	柔道整復学科	柔道整復 関係
25	公益社団法人 日本柔道整復接骨医学会	専	柔道整復学科	
26	私立大学図書館協会	大	図書館	図書館 関係
27	日本看護図書館協会	大	図書館	
28	一般社団法人 日本温泉気候物理学会	大	図書館	
29	一般社団法人 日本東洋医学会	大	図書館	
30	社団法人大阪市防火管理協会	専	事務局	広報関係 地域関連
31	東成防火協力会	専	事務局	
32	中本連合中本第一町会	専	事務局	
33	コスモスクエア地区開発協議会	大	経営企画室	
34	公益社団法人 日本医師会	法	附属診療所	診療所 関係
35	一般社団法人 大阪府医師会	法	附属診療所	
36	一般社団法人 東成区医師会	法	附属診療所	

※法…法人本部、大…大学、専…専門学校

## 7. 職員数について

### ●職員数(専門学校)

平成26年4月1日現在			
雇用形態	専任	兼任(またはパート)	合計
教員	35	65	100
職員	21	4	25
診療所職員	16	0	16
合計	72	69	141

### ●職員数(大学)

平成26年4月1日現在			
雇用形態	専任	兼任(またはパート)	合計
教員	87	111	198
職員	29	6	35
合計	116	117	233

## 8. 平成26年度 人事異動

( 略 )

9. 専門学校および大学の情報端末・備品について

( 略 )

## Ⅱ. 森ノ宮医療学園専門学校 平成26年度事業報告書

平成25年度の大きな課題であった学生募集については、若干の改善はみられたものの、定員充足にはまだまだおぼつかない結果となった。加えて、柔道整復学科の国試の合格率が開学以来最低の結果となった。

募集に関しては、昨年度の落ち込みが、逆に全員募集の意識を高めることに起因したことを実感することはできたが、募集の方法についての立て直しに手間取ったことが未達要因の一つとして考えられた。急遽、前半戦の途中で研修会を実施し、一部教職員に対して再度動機付けを行い、後半戦に備えたが、結果的には予定の2/3しか到達することが出来なかった。併せて、コースによってのばらつきが大きく、柔道整復学科アドバンスコースは10月で募集を締め切るまでに集中したが、その反面、夜間コースは昨年度よりは若干の改善は見られたものの、募集目標の半分にも至らなかった。夜間コースについては新たな特色を打ち出す等、見直しが必要となった。

本校の強みである「臨床重視」というところについても、鍼を受けたことのない方や、柔道整復師の本来の役割を理解せずに入学してくる学生が増加していることから、入学希望者にとってイメージにくいものになっている印象がある。また、入学生の変化に対応するために指導方法についても大きな転換期にきたのではないかと、という問題定義もされてきた。

これまでは、その「臨床」を重要視しているので「国家試験は通過点」という方針でここまでできたが、その通過点としている国家試験での結果が出せなかったことで、改めて「国家試験は通過点」とする一連の流れの再構築を迫られている。国試の結果が予想に反したことにとらわれるのではなく、入学者減、入学者の質の変化を大局的にとらえ、改善すべき点は改善し、問題意識を持つよい機会となった。

### 1. 実施行事の報告

実施月	本校での実施行事内容
4月	入学式
	管理者会議
	事務局研修会
	奨学金申込説明会
	大阪府鍼灸師会講習会
	公開講座ツボ講座
	アロマ講座
5月	緑橋第2コーポ管理組合定期総会
	アロマ講座
	柔道整復師専科教員認定講習会受講試験
	OC・入試
	大阪府高等学校進路指導研究会 第2回総会
	モクサアフリカ講演会
	管理者会議
	公開講座ツボ講座
	森ノ宮柔道整復学術集会
	募集状況報告会(リクルート社による)
	新入生歓迎会
	自己点検・評価委員会
	監査会
	理事会
評議員会	
鍼灸学科体育実習	

6月	大阪刺絡基礎講習会
	全日本鍼灸学会近畿支部会議
	アロマ講座
	柔道整復師専科教員認定講習会
	入学者アンケート報告会議
	理事会
	管理者会議
	OC・入試・AO入試
	事務局研修会
	自己点検・評価委員会
	管理者会議
	公開講座ウェルエイジング講座
	日本刺絡学会 第23回学術大会
7月	大阪刺絡基礎講習会
	OC・入試・AO入試
	管理者会議
	募集企画室会議
	サマースクール
	入学前教育報告会
	募集企画室会議
	公開講座ウェルエイジング講座
	柔道整復師専科教員認定講習会
	アロマ講座
	大阪府鍼灸師会集会
	奨学金交付式
	理事会
	サマーフェスタ
公開講座ツボ講座	
8月	鍼灸学科教務会議
	鍼灸学科職員会議
	教職員対象ハラスメントセミナー
	大阪刺絡基礎講習会
	大師流小児はり講習会
	大阪府東洋療法協同組合講習会
	保険協会大阪(療養費適正強化講習会)
	入学者アンケートに関する教職員共有ミーティング
	管理者会議
	柔道整復学科職員会議
	大阪府高等学校進路指導研究会集会
	OC・入試・AO入試
	募集企画室会議
	柔道整復学科模試
	夏季休暇
	消防設備点検
	NESTA JAPAN 説明会
	OC ウイーク
	公開講座ツボ講座
柔道整復師専科教員認定講習会	
拡大募集戦略会議	

	中本地域震災訓練
	北辰会夏季研修会
9月	公開講座お灸講座
	アロマ講座
	柔道整復学科 第1回模擬試験
	求人先対象セミナー
	OC・入試・AO入試
	管理者会議
	日本鍼灸師会講習会
	アロマ講座
	大阪刺絡基礎講習会
	柔道整復師専科教員認定講習会
	三科目模試
	自己点検・評価委員会
	公開講座お灸講座
	大阪府東洋療法協同組合講習会
	柔道整復学科実技審査
	日本小児はり学会講習会
	理事会
10月	柔道整復師専科教員認定講習会
	アロマ講座
	校友会勉強会
	就職相談会
	すこやか地域支援協会集会
	OC・入試・AO入試
	管理者会議
	全職員連絡会
	日本臨床鍼灸懇話会講習会
	校友会勉強会
	三科目模試
	鍼灸師卒後研修会
	日本臨床鍼灸懇話会講習会
	公開講座ツボ講座
	理事会
柔道整復学科 実技卒業試験	
中長期計画&専門実践教育訓練給付金制度説明会	
11月	文化祭
	アロマ講座
	校友会勉強会
	財団実技審査
	自己点検評価委員会
	募集企画室会議
	管理者会議
	三科目模試
	OC・入試・AO入試
	日本臨床鍼灸懇話会定例会
	理事会
	評議員会
鍼灸学科 第1回卒業試験	

	奨学金返還説明会
	柔道整復学科模試
	公開講座ツボ講座
	日本刺絡学会 第23回学術大会
	公開講座お灸講座
	大阪府理学療法士会講習会
	コミュニケーション研修会
	高校合同柔道練習会
	日本刺絡学会 第23回学術大会
12月	募集企画室会議
	管理者会議
	人権研修会
	公開セミナー女性向けセミナー
	アロマ講座
	柔道整復学科 第2回模擬試験
	奨学金返還説明会
	自己点検・評価委員会
	募集企画室会議
	卒業式はかま展示会
	柔道整復学科職員会議
	鍼灸学科職員会議
	三科目模試
	鍼灸師卒後研修会
	OC・入試・AO入試
	大阪府鍼灸師会講習会
	M30研修会
	公開講座ツボ講座
	労働条件セミナー
	コミュニケーション研修会
冬季休暇	
理事会	
1月	理事会
	評議員会
	永年勤続表彰式
	新年会
	柔道整復学科卒業試験
	募集企画室会議
	管理者会議
	鍼灸学科模擬試験
	卒業式はかま展示会
	三科目模試
	OC・入試・AO入試
	プレ・スクールデー
	M30研修会
	警報機練習
	消防訓練(避難訓練)
大阪府高等学校進路指導研究会集会	
アロマ講座	
2月	鍼灸学科卒業試験



	柔道整復学科模試
	管理者会議
	人権研修会
	鍼灸学科職員会議
	OC・入試・AO入試
	プレ・スクールデー
	大阪府鍼灸師会講習会
	全国鍼灸マッサージ師協会講習会
	アロマ講座
	三科目模試
	東洋はり医学会関西支部講習会
	M30 研修会
	募集企画室会議
	公開講座ウェルエイジング講座
理事会	
3月	OC・AO入試
	管理者会議
	募集企画室会議
	進路指導研究会研修会
	卒業式
	いきいき・のびのび健康フォーラム講習会
	求人先対象セミナー
	鍼灸学科職員会議
	全日本鍼灸学会近畿支部学術委員会会議
	理事会
	スプリングフェスタ
	公開講座ウェルエイジング講座
	入試
	奨学金説明会
	理事会
	評議員会
	柔道整復学科職員会議
大阪府訪問リハビリテーション振興会講習会	

## 2. 専門学校の在籍学生数と学生動向について

### ● 専門学校の在籍学生数

(単位:名)

平成 27 年 4 月 1 日現在	1年			2年			3年			合計			
	在籍	(留年)	(休学)	在籍	(留年)	(休学)	在籍	(留年)	(休学)	在籍	(留年)	(休学)	
鍼灸学科	昼	86	3	1	65	4	1	98	13	0	249	20	2
	夜	24	2	1	29	2	2	41	8	1	94	12	4
柔道整復 学科	昼	85	4	0	72	5	2	72	5	1	229	14	3
	夜	20	0	0	20	4	3	44	9	0	84	13	3
合計	215	9	2	186	15	8	255	35	2	656	59	12	

\* 留年および休学は在籍者数の内数

### ● 専門学校の年度別退学者数

(単位:名)

年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
退学者数	42	42	50	47	42
退学者比率	4.6%	4.7%	5.4%	5.3%	5.8%
在学生数	905	898	932	879	725

### 3. 専門学校の入試について

●森ノ宮医療学園専門学校 志願者数の推移

(単位:人)

入学年度			H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
学科	部	定員	志願者	志願者	志願者	志願者	志願者	志願者	志願者	志願者	志願者	志願者
鍼灸	午前	30	—	—	—	—	—	64	74	62	39	45
	ア(医療)	30	27	33	31	35	33	13	19	11	5	13
	昼	60	149	106	112	101	89	53	51	41	33	21
	夜	90	59	49	52	69	39	53	52	44	33	21
	未定	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	19
柔整	ア	30	35	31	23	22	22	30	44	43	28	34
	昼	60	189	143	115	96	90	87	96	69	58	52
	夜	90	74	71	54	57	54	68	69	60	25	22
	未定	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	6
合計		390	533	433	387	380	327	368	405	330	221	233

※ア…アドバンスコース、ア(医療)…アドバンスコースもしくは医療資格者コース

#### 4. 専門学校入試事務室の事項について

##### 専門学校募集状況について

平成 26 年度（27 年度入学）の総受験者数は 233 名であった。平成 25 年度（26 年度入学）の総受験者数は 221 名、平成 24 年度（25 年度入学）総受験者数 330 名。平成 25 年度よりは若干改善したものの、依然として入学目標 300 名にも及ばない受験者数であった。

平成 27 年度のオープンキャンパス参加者数は 308 名と平成 26 年度よりさらに低下している。これは募集後半の社会人の参加者の落ち込みが著しい。しかし個別相談は 70 名で、昨年の 63 名、一昨年の 39 名と比較すると、母数が少ないながらも大幅に増加している。

今年は高校訪問に力を入れ、のべ 335 回の高校訪問を行った。また指定校推薦入試による入学者に対して教科書を贈呈する制度を開始した。その結果、指定校推薦入試の受験者は 10 人前後であった従来に比べ、34 人と大幅に増加し、高校新卒の割合の高い柔道整復学科アドバンスコースは、10 月にて定員を充足した。

しかしながら夜間コースの募集低迷は相変わらずで、これは他校の夜間コースの学費の大幅な減額や、週 3 日制の学校の出現などの影響もあると思われる。このように周辺環境が変化する中で、あえて「昼間コースと同じカリキュラムを受けることができる」ことを前面に出しているが、成功しているとは言い難い。また学内推薦入試は H12 年度の 47 名から年々低下し、16 名となっている。在校生に対して学内進学の説明会を 2 度行ったが、効果としては現れていない。

合格者数前年度対比

		H27 年度	H26 年度	H25 年度
		入学者数	入学者数	入学者数
鍼灸学科	医療資格	13	5	9
	午前	52	35	54
	昼間	18	30	29
	夜間	22	30	35
	小計	105	100	127
柔整学科	アドバンス	33	24	32
	昼間	45	51	54
	夜間	20	15	46
	小計	101	90	132
合計		206	190	259

平成 26 年度は「入学金減免制度」を行ったことで、受験生の過半数が卒業生や在校生の紹介によるものであることが判明した。多くの方が本校を紹介してくれているのは喜ばしいことだが、口コミに依存しており、関係者以外には訴求力が弱いとも言える。そのような状況を改善するため、バス広告や映画広告、京橋駅の看板などのマス広告を開始した。未だその効果が出ているとは言い難いが、すぐに効果が出るもの出はないので、今しばらく継続する予定である。ただし漫然と継続するのではなく、参加者アンケートなどを利用し、広告効果が判定できるように工夫し、積極的なマス広告の撤退も検討したい。また卒業生の紹介が多いというメリットを生かすため、さらに卒業生、在校生との連携の充実を図る意向である。

## 5. 教務部門

平成 25 年度から、組織再編に伴い、鍼灸学科、柔道整復学科、学務課を統括する部門となったことから、各学科および学務課との連携や運営について整備に着手し始めたところである。

ゆえに、26 年度については、教務部での統括や運営がまだ充分でなく、柔道整復学科の国家試験合格率の低迷や両学科合わせて入学者が 25 年度より増加したとはいえ、205 名の入学者にとどまる結果となったことは、教務部の方針が定まっていなかったことも一因と考えられる。

以下、平成 26 年度の実績を報告する。

### 【事業内容・事業実績】

#### 1. 教員の資質向上とスキルアップについて（継続）

- ① 3 月に鍼灸学科の新任教員および専任教員に対し、教務一般に対する研修を実施した。  
外部講師を招き 8 月によるハラスメント研修、12 月に人権研修を実施した。  
27 年度から本校において NESTA PFT 認定講座開講準備のため、本校教員 3 名を講師候補として PFT 認定講座を受講させた。
- ② 学内での両学科による相互交流の推進。（継続）  
7 月の鍼灸学科 3 年生サマースクールの授業において、柔道整復学科教員による包帯実技授業を取り入れた。結果内部進学者の発掘に寄与したと考えられることから、今後も両学科において、互いの治療手法の一部を教育できないか検討して行きたい。  
8 月 9・10 日の両日で、一般市民を対象に「はりきゅう健康フェス」を鍼灸学科・柔道整復学科共同で開催し、オープンキャンパスとしても総務広報課と共同で運用した。

#### 2. アロマ講座について（継続）

平成 26 年度も講座（春・秋）を実施した。平成 27 年度も継続する。

#### 3. その他

- ① 本校独自の 3D の教材の開発と授業への応用。（継続）  
3D 教材については、オープンキャンパス模擬授業への応用にとどまっており、開発はしていない。（開発中止）
- ② 学務課の業務共有化を図る。（新規）  
26 年度については、学務課内での学生支援業務と教務事務業務の一部については共同で運営していたが、まだまだ分掌された形で運営されている。
- ③ 臨床実習  
26 年度については、鍼灸学科の臨床実習内容の検討をみどりの風鍼灸院と継続して行っている。附属診療所が、柔道整復学科の臨床実習施設として認められないかについても検討していく。
- ④ 海外研修  
海外研修では鍼灸学科はフロリダ研修（3 月）、柔道整復学科アドバンスコースが南オレゴン大学（6 月）で実施した。なお、鍼灸学科の中国研修は、社会情勢を鑑み中止とした。  
→平成 27 年度も検討継続する。
- ⑤ 卒後研修  
26 年度については、鍼灸学科において未実施であったが、27 年度 6 月から卒業生・在校生を対象とした卒後研修を毎月 1 回（計 10 回）実施予定。
- ⑥ 国内外の大学や病院との提携（継続）  
卒業生の短期研修や海外進出のアシストや日本鍼灸・柔道整復の普及や紹介のための調査研究は不十分であった。
- ⑦ NESTA PFT 認定講座の準備（新規）  
27 年度開講予定の NESTA PFT 認定校になるための、講師（本校教員 3 名＋卒業生 1 名）の養成を行った。次年度からアロマ講座と同様、教務部で管理することになる。

## (1) 鍼灸学科

### 1. 医療資格者コースについて

平成25年度は、別カリキュラムで運営してきた3年生の昼間部選択コース（医療資格者コース）の最終年度であり、14名全員卒業することができた。また、名称を継続使用している昼間部の医療資格者コースについては3学年揃ったが、大きな問題もなく運営することができた。

### 2. 昼間部・夜間部カリキュラム変更に伴う対応について

平成24年度入学生より、昼間部の定員を120名、夜間部の定員を60名に変更し、医療資格者コースを含め各コースともカリキュラムを統一して運営しているが、大きな混乱もなく順調である。

### 3. 研修・研究について

8月の東洋療法学校協会教員研修会は、信州医療専門学校が主管校となり長野にて開催された。本校からは16名の教員が参加した。

また、10月の東洋療法学校協会学術大会は、神奈川県民ホールで開催され、3年生午前コースの学生2名が発表を行った。一方、各学会および団体等の全国大会に対し、学生からの希望を募り、参加費の補助を行った。

### 4. 授業および実習等について

5月に体育実習を例年通り、午前コース・昼間部・夜間部1年生を対象に救急講習を加え実施した。また、5月に解剖見学実習を午前コース・昼・夜間部2・3年生および医療資格者コース2・3年に実施した。7月には例年通り、サマースクールを開催し2年生においては、医療面接の講座を開講した。さらに、9月には、3年生対象に東洋療法学校協会の実技評価委員による、外部評価実技試験と、11月には東洋療法学校協会による「東洋療法統一試験」（模擬試験）を実施した。

### 5. 臨床実習について

みどりの風鍼灸院にて、鍼灸学科学生360名に対し臨床実習を行った。昼間部（午前コース）は夜間の時間帯を利用し臨床実習を行った。

### 6. オープンキャンパスの開催について

平成26年度は、16回開催された学校説明会に常勤教員が担当し、参加者に対して模擬授業等を中心に企画・構成・実行してきた。平成26年度からは職業紹介よりも「学校の魅力」を伝えることを意識して実施した。

### 7. 大阪府教育センター「大学等オープン講座」について

平成26年度は開催案内が届かなかつたため、例年行われていたオープンスクールを実施しなかった。平成27年度は8月に実施予定

### 8. 出張授業・一般公開講座について

高校生を中心に、多くの出張講座を行った。内容は、「はり師きゅう師の仕事とは」「熱中症の予防」「ストレッチ」などである。また、区役所からの依頼により生野区・西区・天王寺区・西成区で出張講座を行った。内容は「ツボ講座」「艾づくり」などである。

また、4年前より実施している一般公開講座（ツボ講座）を4月～1月に10回実施した。90名の参加があった。

### 9. 学生指導等について

3年生の希望者に対し、勉強や生活、卒業後について相談のための面談を実施した。

3年生については、勉強を習慣づけるため教育教材（ドリル）を作成し、課題を提出させた。また、3年生成績不良者に対しては、時間外ゼミを実施し、個別指導を行った。（詳細は別紙参照）

10. 会議の開催について

第一回教務・職員会議（前期の出席状況および成績の報告）

第二回教務・職員会議（中期の出席状況および成績の報告）

卒業式賞決定会議

第三回教務会議・職員会議（卒業生決定）

第四回教務会議・職員会議（進級者決定）

## (2) 柔道整復学科

### 1. 研修・研究について

第56回教員研修会が8月2、3日の両日、北海道メディカル・スポーツ専門学校の主管で京王プラザホテル札幌を会場に開催され、本校から15名の教員が参加した。

また、8月20日に福岡市民体育館で開催された柔道整復学校協会の第47回柔道大会に男子10名、女子3名の学生が参加、健闘した。

### 2. 授業および実習等について

3月から9月にかけて昼・夜間部2年生、3年生がみどりの風クリニックにて実習を行った。(2・3年生とも夜間部は春期・夏期休暇中、昼間部は前期および中期に実施した)

アドバンスコース3年生では8月に河村医院(整形外科)にて実習を実施した。

5月および6月に2年生、3年生が大阪大学歯学部にて解剖見学実習を行った。

また、6月にはアドバンスコース2年生のアメリカ研修(オレゴン)を実施した。

### 3. みどりの風クリニックへの教員派遣について

みどりの風クリニックリハビリテーション科に、3名の教員をスタッフ助手として派遣した(1名は午前診、夜診で週1日、1名は夜診で週1日、もう1名は午前診で週1日)。

### 4. 会議について

定例会議(毎月1回)

第1回教務・職員会議(前期の成績および出席状況の報告)

第2回教務・職員会議(中期の成績および出席状況の報告)

第3回教務・職員会議(卒業判定)

第4回教務(卒業式賞決定)

第5回教務・職員会議(卒業追試判定)

第6回教務・職員会議(後期の成績および出席状況報告、進級者決定)

柔整教員会議(不定期開催:柔整学科のミッション・行動指針を定めるため)

### 5. オープンキャンパスの開催について

今年度は16回開催。模擬授業等について、その都度、企画、構成した。後半は「学校の魅力」を伝えることを意識して実施した。

### 6. 募集計画

アドバンスコースの募集対策として、平成20年度より継続中の高等学校への出張体験授業や説明会を実施、さらに平成22年度から広報と連携して現役受験生の増加に対する取り組みを強化した。

結果、平成24年度は全員高校新卒の36名、平成25年度もほとんどが新卒者で32名の結果を得た。平成26年度新入生は24名に留まったが、平成27年度は11月の入試で33名となり、定員を満了したため、募集停止とした。取り組みが着実に成果を上げたものと思われる。

### 7. その他

ストレッチ、体幹トレーニングやスポーツシューズ選び、さらには基礎的運動生理学等を含めた高校生や一般の方を対象とした講習会を継続して開催している。

森ノ宮柔道フェスティバルとして、清風高校、上宮高校、常翔学園高校に参加いただき高校柔道部合同練習会を開催した。今後もカップ戦開催も視野に入れ開催予定。

また、西成区役所(保健所)の依頼により健康イベントにおいて出張講座を行った。

例年行っている公益社団法人日本柔道整復師会においてNGO支援無償資金協力の支援を受け行っている海外に向けての日本伝統治療(柔道整復術)普及事業活動に支援を行った。



## 6. 森ノ宮医療学園専門学校の国家試験合格率の推移

### ●平成26年度

はり師きゆう師 国家試験(第40期)

家試験成績		平成26年度(第23回)26年2月実施		
		受験者	合格者	合格率
現役受験者	はり師	132	119	90.2%
	きゆう師	132	120	90.9%
当校のべ受験者	はり師	176	129	73.2%
	きゆう師	175	129	73.7%
全国平均	はり師	4976	3808	76.5%
	きゆう師	4893	3773	77.1%

柔道整復師国家試験(第13期)

試験成績		平成26年度(第23回)26年3月実施		
		受験者	合格者	合格率
現役受験者	柔道整復師	126	83	65.9%
全国現役受験者	柔道整復師	5289	4273	80.8%
当校のべ受験者	柔道整復師	182	90	45.9%
全国のべ平均	柔道整復師	6858	4503	65.7%

## 7. 専門学校の求人と就職状況について

### (1) 本校に対する求人倍率

平成26年度は円安で輸出関連企業をはじめ業績が好調であり景況感も上向きになってきている。外国人旅行者のインバウンド効果もあり、サービス業と製造業では慢性的な人手不足となっている。一般職業紹介状況（職業安定業務統計）によると、2月度の有効求人倍率は1.15倍で、平成26年平均の有効求人倍率は1.09倍（前年0.93倍）となった。

本校の求人倍率は求人件数と利用者数ともに増加し、平成26年度の求人倍率は6.8倍となった。

本校の職業紹介利用者	本校の求人倍率	全国の求人倍率（参考）
172人	6.8倍	1.09倍

### (2) 初任給平均額

#### 《正社員》

	月給平均（円）	最高額（円）	最低額（円）	求人数（件）
鍼灸師	200,701	380,000	63,000	677
柔道整復師	211,575	450,000	73,000	853
学生	159,415	250,000	30,000	200

#### 《アルバイト》

	時給平均（円）	最高額（円）	最低額（円）	求人数（件）
鍼灸師	974	1,800	790	306
柔道整復師	998	1,800	750	364
学生	869	1,800	700	402

平成26年賃金構造基本統計調査（初任給）によると、「医療・福祉」の産業別で19万5,800円（大卒）となっている。本校に対する有資格者の正社員給与額は、6万円から45万円と大きな開きがある。これは臨床経験の有無はもちろんのこと施術所の所在地や従業員に対するの考え方によって異なっている。

求人情報会社によると消費税増税前に独立開業し求人を募集した施術所も多い。さらに特別養護老人ホームやデイサービス等の高齢者施設での求人も増えたこともあり、今年度も有資格者の正社員募集が前年を120件上回り、求職者にとって相変わらず売り手市場である。また、関西圏以外の求人件数も増加傾向にあり、業界は全国的に人手不足の様子である。

### (3) 学生動態

全国的にグループ院を中心に年内に内定を出す傾向が強く、業界全体として就職活動が夏休みから始まるようになってきている。特に高校新卒者の入学が多い学校では夏休み中に就職先を決めるよう指導している。本校の就職活動状況は、7月に就職活動ガイダンスを実施したこともあり、学生は就職相談会を皮切りに活動をはじめ、国試前に就職先を決める学生が多く見られた。一方、慎重な学生は国試後に活動し始め順次就職先が決まっているが、残念ながら4月に入っても就職先が決まらない者もあり、継続して就職指導をしている。

平成26年度の求職者の就職条件の傾向として、社会保険制度、実労働時間や休日数を重点において就職活動をする傾向がさらに強くなった。これは、学生の就職活動に保護者が関わるようになってきていることも影響している。最近の保護者の職業は会社員が多くなり、社会保険の加入、交通費支給、有休制度等の福利厚生があることが当たり前となっており、この条件を学生の就職先に強く求め、学生の就職活動の条件にそのまま反映されている。法人化し福利厚生を整えているグループ院、クリニックや病院、高齢者施設が人気となっており、技術面の特徴や福利厚生もない個人院に対し就職希望者は少ない状況であった。

このような状況を受け求人先の待遇面改善を啓発する目的で、9月に「医療現場における採用と定着支援対策セミナー」、3月に「医療現場における『より良い採用』・『役立つ人財』の対応策～労務管理の視点から～」というタイトルで求人先対象セミナーを実施した。セミナー終了後も質問が絶えず、毎回1時間を超えて各院での悩みや問題点などを相談されていた。鍼灸師・柔道整復師の待遇面を改善するため引き続き求人先対象セミナーを実施していく。

同時に平成27年度も両学科3年生を対象に、求人票の見方や就職活動の取り組み方を中心に就職ガイダンスを実施し、学生が希望する求人先に就職できるよう引き続き一人ひとりに合った個別指導を行っていきたいと考える。

9月7日(日)

『保険請求の実情と柔道整復師を取り巻く業界事情』 受講者数 19名

3月14日(土)

『医療現場における「より良い採用」・「役立つ人財」の対応策  
～労務管理の視点から～』 受講者数 22名

#### (4) 就職・開業支援講座

平成26年度の就職・開業支援講座は、学生の強い学びの要望に応え、開業に関する講座を中心に講座時間を180分にして実施した。また、前年度好評だった現場で活躍している卒業生を講師に招く「ようこそ先輩講座」も引き続き行った。

卒業生調査の結果から、学生は就職や業界の将来に不安を感じており、就職・開業支援講座ではようこそ先輩講座や開業に向けた講座を中心に人気がある。

平成27年度はこれまで人気のあった講座を参考にしながら学生の要望も汲みとり、卒業後に役立つ就職・開業支援講座にしていきたいと考える。

7月29日(火)

『SNSでWebブランディング』 受講者数 19名

7月30日(水)

『ようこそ先輩!!講座 女性鍼灸師として  
～鍼灸整骨院の女性鍼灸師・不妊治療専門の女性鍼灸師～』 受講者数 57名

『医療現場における、接客のホスピタリティーについて』 受講者数 31名

7月31日(木)

『開業のために知っておきたいお金の流れ』(180分) 受講者数 57名

『ようこそ先輩!!講座 4つの開業の経験から  
～共同運営・在学中の開業・本院開業・分院開業～』 受講者数 42名

3月17日(火)

『保険請求の実情と柔道整復師を取り巻く業界事情』 受講者数 8名

3月18日(水)

『鍼灸の保険請求の方法について』 受講者数 15名

3月19日(木)

『開業に向けた実践セミナー』(180分) 受講者数 32名

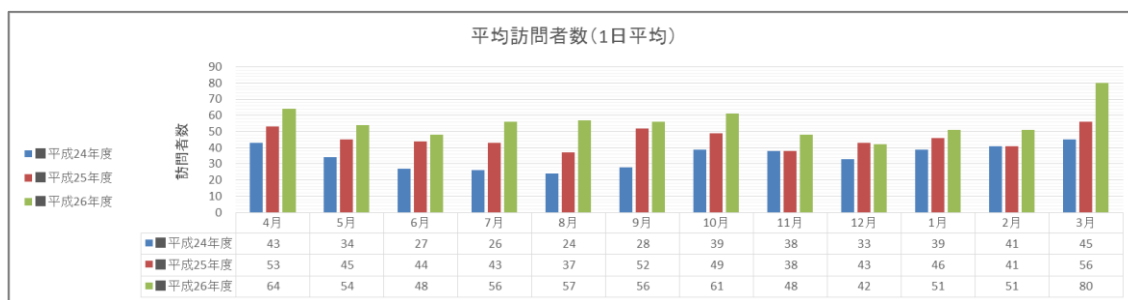
(5) 就職相談と求人検索システム（平成26年4月1日～平成27年3月31日）

前年度8月より求人検索システムをスマートフォン対応にしたことで、求人検索システムの利用率は導入前と比較すると累計アクセス数42%増、累計訪問者数59%増となった。しかし、相談件数は前年度より15%しか増えておらず、利用率と比較すると相談者数は増えていない。これは学校を介さず求人検索システムを見て学生が直接求人先に見学・面接を申し込んでいると考えられる。27年度は100%学校を介す仕組みを検討し、増えつつあるミスマッチによる早期退職を防ぎ、学生と求人先から信頼・安心した就職紹介を目指す。

また、前述の求人倍率からもわかるように本校の求人件数は就職相談者数と比べると約7倍と多くアンバランスな状況である。最近は無免許施術者問題で有資格者を希望する求人先が増えているが、卒業生の相談は毎年30件強で求人先の要望に応えられていないのが現状である。

今後も安定した求人件数を維持すると同時に求人の需要と供給の良いバランスを保つためには、有資格者の紹介を強化する必要があると考える。その施策として平成27年度は、転職を考えている卒業生と有資格者を必要とする求人先を結ぶ仕組みを求人検索システムに「転職マッチング機能」として追加したいと考える。同時に校友会報等を通じて卒業後も学校で転職相談ができることも引続き告知していきたい。卒業生の転職相談を増やし、卒業生と求人先そして本校の三者がこれまで以上に強い安心感と信頼で結ばれた就職支援を行っていききたいと考える。

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	
月間	累計アクセス数	23,545	17,470	13,487	16,293	20,582	15,197	
	累計訪問者数	1,933	1,692	1,450	1,749	1,774	1,698	
一日	アクセス数	平均	784	563	449	525	663	506
		最大	1,609	1,084	841	1,033	1,453	1,229
	訪問者数	平均	64	54	48	56	57	56
		最大	124	87	79	90	97	78
		10月	11月	12月	1月	2月	3月	
月間	累計アクセス数	16,178	10,915	11,280	16,461	12,455	29,223	
	累計訪問者数	1,918	1,450	1,324	1,586	1,429	2,494	
一日	アクセス数	平均	521	363	363	531	444	942
		最大	1,025	850	836	2,581	1,310	6,040
	訪問者数	平均	61	48	42	51	51	80
		最大	84	87	85	91	104	128



## 8. 奨学金について

### (1) 日本学生支援機構奨学金

- 平成 26 年度中に本校在学学生に貸与された奨学金総額（入学時特別増額含む）  
3 億 9,277 万円
- 奨学生数（全学年中）  
323 人
- 月額貸与額平均（併用貸与者含む）  
8 万 1,642 円

#### 《奨学生数の推移》

(前年度比)

新規採用	期末満期（卒業等）	期中異動（退学等）	次年度継続希望
95 人 (25%減)	124 人 (2%増)	22 人 (1%増)	178 人 (24%減)

#### 《新規採用者内訳》

(単位：人)

	予約採用	定期採用	追加採用	緊急応急	合計
一種	13	6	—	0	19
二種	40	41	0	0	81
合計	53	47	0	0	100

平成 26 年度の入学者数が減少したことに比例して奨学金申込者も減少し、新規採用者数は前年度の 21%減の 100 名となり、定期採用で全員が採用された。また、新規採用は減少したが本校の新規奨学生は 10 年連続 100 名超を更新することとなった。

日本学生支援機構全体での奨学金未返還者および未返還額は年々増加し続けている。平成 25 年度の奨学金未返還者は全国で約 33 万 4000 人、未返還額は 957 億円となり、毎年 5%増えている状況である。本校の延滞率は 9.2%となり前年より約 1%増え、全学校平均延滞率 9.7%に近づきつつある。延滞率の改善に向けての施策として、貸与修了者の返還について日本学生支援機構に協力するとともに、貸与中の在校生には奨学生としての自覚と返還に対する意識を高めることを継続的に指導していく。

### (2) その他の教育ローン

#### ■オリコ教育ローン 新規採用者内訳 (単位：回) (単位：円)

	件数	入金総額
平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月	13	4,755,450

#### ■ジャックス教育ローン 新規採用者

	件数	入金総額
平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月	2	906,000

平成 25 年度より学納金未納者への早期対応を経理課と共同で対応してきた。学納金面談を実施し延納書類の提出、奨学金の増額、教育ローンの案内を促してきた。その結果、学納金の納付期限を 1 ヶ月過ぎても連絡のない学生は中期で 5.3%、後期で 7.0%となり、前年度の半分程となった。未収状況は 3 名 1,040,000 円（前年度 14 名 6,596,000 円）となり、未収状況は改善された。

また、教育ローン利用者も減っており、平成 25 年度と比べ利用件数は 43%減、利用金額は 67%減となっている。これは各期に学納金面談を実施し、以前のように無断延納し続け数期分の学納金を利用するといったケースを未然に防ぐことができた結果でもある。

今後も中期計画の目標値 5%にできるよう経理課と共同で学納金未納者対応を継続して行っていく。

## 9. 学術部について

教員が学問的向上を図ることは、教員としての資質を維持するために不可欠であり、学生のみならず社会に対して専門職として責任を果たすことの担保になると考える。

そこで学術部は、教員が積極的に学会へ参加し、新しい情報を集め、学生教育に反映させながら、本校の教員が世界に向けて情報発信するための研究活動に積極的に取り組むための支援を行う。

あわせて専門学校教員への研究費支援のみならず、森ノ宮医療大学、みどりの風クリニックならびにみどりの風鍼灸院との連携をはかりつつ、いっそうの学術活動の充実を図るための環境および制度作りも行っていく。

### 1. 教職員の研究意欲の向上を支援する

学校の価値を高めると共に各自の能力を維持向上させ、教員や医療従事者としての質を保つために、自発的かつ積極的に研究活動に参加することを推進してきた。

その結果平成26年度は、査読付き学術論文6編(うち英語2編)、査読なし学術論文1編前年度よりも増加した。また学会発表20題であり、前年度並みであった。とくに論文による研究報告が増えたことは著しい成果であると考えられ、今後とも継続して支援していく

#### 1) 研究活動に対する個人学術研究費の使用について

森ノ宮医療学園専門学校個人学術研究費の規程にしたがい、個人学術研究費を支給し、研究活動の推進を図った。

支給に際しては、研究報告書ならびに計画書の提出、前年度の研究実績の報告などを義務づけており、これについて今年度は25名の提出があった。また個人学術研究費執行状況について適正に使用されていた。

	予算(前年度)	使用(前年度)	使用率(前年度)
個人学術研究費	4,550,000 円 (4,460,000 円)	3,039,111 円 (2,535,000 円)	68%(57%)
教員数	30 名	25 名	

#### 2) 学術活動の支援

昨年度研究活動のフィードバックならびに学術部主催の研修会を行う予定であったが、これについての具体的な計画が十分に立案できておらず、実施するには至らなかった。なお今後は教員のスケジュールも勘案し、具体的な計画を立案していく必要があると考える。

#### 3) 学外研究施設との連携を図る

学外研究施設については、一部の研究が森ノ宮医療大学や大阪大学医学部・歯学部、和歌山県立医科大学などの共同研究によって行われており、学外研究施設と連携することでこれまでより幅広い分野での研究活動が行われていた。なお臨床研究の実施を目指していきたいと考えているが、みどりの風クリニックやみどりの風鍼灸院との連携には倫理面などの問題もあり、実現に向けて課題があると考ええる。

#### 4) 研究活動の報告

各教員の研究活動については研究報告書の提出をもって行っており、今年度も25名の提出があり、業績をもとに次年度個人研究費の配分を決定した。これについては

なお研究発表の評価については、評価方法を十分に作成しておらず、具体的な評価には至っていないが、とくに興味深い研究をピックアップし、研究内容も含めてホームページに掲載した。

#### 5) 倫理的配慮

倫理委員会については規程の作成ならびに委員の選定を行ってきたが、十分に進まず設置には至らなかった。引き続き設置に向けて規程などの整備を行い、次年度設置を目指す。

## 2. 研究設備の充実化を図る

1) 研究機器の購入や研究室の設営など研究設備の充実を図っているが、今年度は新たな研究計画もなく、研究機器の購入などには至らなかった。これについては現状の研究内容が現在の設備内で行われていると考えられるが、今後必要に応じて検討していく。

2) アネックス校舎の研究室については、新たな研究計画もなく、使用については現状維持にとどまった。また教員が教務室の一部として使用していることもあることから、今後は教務部との交渉を行う予定である。

## 3. 研究成果を公表する

1) 研究発表の評価については、適切な評価方法が示されておらず、具体的な評価には至っていないが、とくに興味深い研究をピックアップし、研究内容も含めてホームページに掲載した。なお研究の評価についてはより教員に研究内容が明確となり、社会的にも意義があると考えられることから、引き続き継続する。

2) 本校教員が行っている研究活動を実施していることを社会にも広く公表していくために、今年度も本学ホームページ上で研究成果を報告ならびに紹介した。また学術力を大きく公表するために、今年度ホームページをリニューアルし、いくつかの研究成果をピックアップして掲載した。

3) 今年度6件の論文が報告され、そのうち2編が海外雑誌へ、4編が国内の雑誌へ投稿された。なお論文数が過去最も多かったことは、著しい成果と考える。

## 4. 知的財産の管理システムについて

1) 知的財産管理者については、知的財産管理技能士の資格を有する者を育成すべく、講習会への参加や検定試験の受験などを促した。

2) 知的財産の管理については、具体的な進展はなかったが、学園全体で取り組む内容であることから、今後学園全体で検討していくことと考える。

## 10. 専門学校図書室について

1. 登録図書数 : 18,186 冊

	01: 図書閲覧室	02: 貴重書室	04: 鍼灸室	05: 倉庫	07: 教務	合計
0 総記	388	13	0	17	0	418
1 哲学	439	13	0	8	0	460
2 歴史	257	11	0	2	0	270
3 社会科学	338	3	0	53	0	394
4 自然科学	12,857	1,211	134	1,299	1	15,502
5 技術	82	3	0	15	0	100
6 産業	36	5	0	1	0	42
7 芸術	429	4	0	47	0	480
8 言語	136	3	1	34	0	174
9 文学	76	11	0	3	0	90
その他	2	2	0	7	0	11
合計	15,040	1,279	135	1,486	1	17,941

- ①実質蔵書数 : 17,941 冊
- ②今年度購入数 : 119 冊
- ③除籍数 : 245 冊
- ④今年度寄贈図書 : 24 冊
- ⑤年間購読雑誌 : 23 誌

### 2. 年間概況

①開室 : 月～金(10:30～21:30) ※入学式など例外的に開室時間が短い日もある。

#### ②貸出利用頻度

月	稼働 日数	貸出統計								
		柔整1	柔整2	柔整3	鍼灸1	鍼灸2	鍼灸3	校友会	教職員	聴講生
4	20	20	41	64	53	136	146	77	71	1
5	20	25	38	61	44	87	100	78	60	0
6	20	5	18	35	40	52	34	48	36	0
7	22	25	44	59	48	91	77	63	35	0
8	19	1	21	34	27	55	83	42	31	0
9	19	27	29	42	31	70	87	67	67	0
10	22	12	28	20	41	78	48	69	65	0
11	20	20	7	12	41	45	25	59	46	0
12	19	19	43	6	78	107	74	45	61	0
1	19	25	39	5	56	106	37	48	35	0
2	19	34	26	4	36	60	33	60	51	0
3	20	21	39	2	51	41	0	63	16	0
合計	239	234	373	344	546	928	744	719	574	1
総合計		柔整=951			鍼灸=2,218			その他=1,294		全体=4,463



③視聴覚閲覧頻度

月	稼働 日数	視聴覚閲覧統計				
		学生	教職員	校友会	学外	聴講生
4	20	11	1	5	0	0
5	20	9	4	3	0	0
6	20	4	1	3	0	0
7	22	22	2	2	0	0
8	19	10	1	0	1	0
9	19	7	4	1	5	0
10	22	21	1	1	0	0
11	20	5	2	1	0	0
12	19	9	1	3	2	0
1	19	9	1	0	0	0
2	19	5	0	2	0	0
3	20	8	2	0	2	0
合計	239	120	20	21	10	0
総合計		全体=171				

④その他利用頻度

月	稼働 日数	学外利用者統計			コピー申込み統計				ロッカー使用状況			
		初回 利用	再利 用	計	学生・校友 会・学外	職員	職員 遅延	計	ロッカー	利用 不備	その他 貸出	計
4	20	4	2	6	80	24	2	104	133	0	1	134
5	20	2	4	6	105	47	2	152	108	2	0	108
6	20	1	3	4	65	11	0	76	170	3	1	171
7	22	0	5	5	77	3	0	80	115	0	0	115
8	19	5	1	6	97	15	1	112	98	1	0	98
9	19	1	6	7	95	17	0	112	223	5	0	223
10	22	2	3	5	62	19	1	81	154	1	0	154
11	20	1	5	6	49	14	1	63	233	8	0	233
12	19	2	3	5	156	13	1	169	169	4	1	170
1	19	2	2	4	133	13	1	146	209	1	0	209
2	19	4	6	10	74	13	0	87	199	0	0	199
3	20	1	2	3	52	19	3	71	58	0	0	58
合計	239	25	42	67	1,045	208	12	1,253	1,869	25	3	1,872

⑤医中誌利用頻度

月	稼働日数	医中誌ログイン数
4	20	
5	20	43
6	20	15
7	22	15
8	19	13
9	19	7
10	22	10
11	20	3
12	19	12

1	19	15
2	19	8
3	20	4
合計	239	145

※5月から運用の為、4月はデータなし。

### 3. 登録状況及び活動

- 4月 : 医中誌試用
- 5月 : 医中誌ならびにメディカルオンラインの導入・運用
- 1月 : 医道の日本(雑誌)の製本化
- 2月 : 本棚購入
- 3月 : 蔵書点検(3月14日(金)～20日(月))  
新規図書購入 79種80点

### 4. 蔵書点検結果

- ①点検日 : 3月14日(金)～20日(月) 5日間
- ②点検範囲 : 開書書架・鍼灸室・倉庫保管分
- ③結果 : 所在不明 1点

### 5. その他

①蔵書リクエスト数 : 8名から書籍(20点程度)についてのリクエストがあった。

#### ②概況報告

・蔵書数の増加や書架の確保が困難であったため、今年度は図書の購入が少なかったが、これに対応するため棚を購入したことでスペース確保できたので、次年度以降は冊数を増やし、学生ならびに卒業生のリクエストに対応していきたい。

・今年度から医中誌、メディカルオンラインを導入したので、学生や教職員に周知し、より積極的な活用を促していきたい。

## 11. はりきゅうミュージアムについて

- 1) はり灸ミュージアムがテレビでとりあげられたためか、利用者数が大幅に伸びた。
- 2) 11月が関西文化の日に参加していたためか、学外の見学者が目立った。前の月のテレビ取材の影響も多少あったようである。
- 3) 鍼灸情報センターとの連携については、未だ十分な協力体制は構築できていないが、引き続き協力を仰ぐ。
- 4) 日本医学会総会については、以前に出展依頼はあったものの、以降先方からの連絡もなく、実施していない。

### ・利用状況

#### (1)利用者概況

月	稼働 日数	はり灸ミュージアム統計（土日は含まれず）			
		全体	通常見学者	学校見学者	紹介・その他の見学
4	20	14	12	0	2（アーバン工房 2）
5	19	9	6	3	0
6	21	13	6	6	1（兵庫鍼灸 1）
7	22	11	9	2	0
8	18	11	1	6	4
9	20	19	12	4	3
10	22	59	46	6	7（明治東洋医学院 2 関西テレビ 3 学生 1）
11	18	19	17	2	0
12	19	11	9	2	0
1	18	7	1	4	2（医歯薬出版 2）
2	19	110	8	2	100（長野 100）
3	18	21	18	3	0
合計	234	304	145	40	119

#### 5) その他

- ①収蔵室を整理し、目録を完成させる。
- ②展示物の入れ替えなど、内容を充実させる。

## 12. 専門学校の広報・営業活動について

- (1) オープンキャンパスの実施  
次年度向けオープンキャンパスを含め24回行った。  
(詳細略)
- (2) 夜間授業見学会の実施  
夜間授業見学会を9回行った。  
(詳細略)
- (3) 個別見学会の実施  
(詳細略)
- (4) 高校内ガイダンス等、イベントの実施  
高校内ガイダンスの実施 高校内ガイダンスを68回行った。  
(詳細略)
- (5) 会場ガイダンスの実施  
会場ガイダンスに12回参加した。  
(詳細略)
- (6) 体験授業の実施  
学内において体験授業を8回行った。  
(詳細略)
- (7) 出張授業の実施  
高校等での出張授業を33回行った。  
(詳細略)
- (8) 一般公開講座の実施  
スポーツセミナー  
スポーツセミナーを5回行った。

開催日	イベント名
2014. 5. 31	「野球で発生するケガについて～成長期のスポーツ障害を防ぐために～」
2014. 7. 27	「マラソンランナーのためのコンディショニング講座／スポーツシューズ選びの重要性」
2014. 8. 23	「強くなるための体幹トレーニング／ハイパフォーマンスを維持するためのストレッチング」
2014. 12. 14	「ストレッチポールを使ったコアコンディショニング／骨盤底筋を鍛えて」
2015. 3. 15	「春のハイキングシーズンに向けた体力作り／疲労を回復するソフトなお灸について」

### ツボ講座

ツボ講座を10回行った。

開催日	イベント名
2014. 4. 17	ツボ講座「花粉症の症状を軽減しよう！」
2014. 5. 15	ツボ講座「知って得するお灸の効果！」
2014. 6. 23	スポーツケア教室「シンスプリント」

2014. 7. 30	スポーツケア教室「ねんご後のケア」
2014. 8. 22	スポーツケア教室「腰痛の予防」
2014. 9. 17	オフィスで出来るセルフケア教室「オフィスの冷えをのりきろう」
2014. 10. 15	オフィスで出来るセルフケア教室「パソコンによる目の疲れに！」
2014. 11. 26	オフィスで出来るセルフケア教室「ブーツもすっぽり！むくみ解消！」
2014. 12. 18	森ノ宮すこやか教室「お灸で脳活」
2015. 1. 22	森ノ宮すこやか教室「元気に歩けるためのお灸」

ウェルエイジング講座

ウェルエイジング講座（アロマ講座）を6回行った。

開催日	イベント名
2014. 6. 28	「紫外線の脅威“光老化”とは」
2014. 7. 18	「紫外線の脅威“光老化”とは」
2015. 2. 21	「東洋医学的体質診断&体質別アロマブレンドオイル作成」
2015. 3. 20	「東洋医学的体質診断&体質別アロマブレンドオイル作成」
2014. 12. 5	「代謝UPアロマ」
2014. 11. 22	「代謝UPアロマ」

(9) その他イベントへの参加

JAA 感謝祭「いやしの祭典 in 大阪」  
西成区健康アップフェスティバルなど（詳細略）

(10) 高校訪問の実施

高校を 339 校訪問した。（詳細略）

(11) その他の営業活動

○大阪府内の体育館へのチラシ送付  
大阪体育協会からの配布物へのチラシ同梱（2,000部）  
その他ラックの設置、チラシの配布  
（略）

○各種スポーツ大会プログラム等への広告協賛  
（略）

○ツール製作  
学校案内の作成  
入試ガイドの作成

○情報誌「ここ+から」の発行  
年4回 各 15,000部配布

○進学情報媒体への掲載  
19の進学情報媒体に情報を掲載した。  
（略）

○マス広告  
（略）

○データ管理  
(略)

○サンクスレターの送付  
(略)

○大阪府高等学校進路指導研究会への参加  
(略)

○春の南港ファミリーマラソンへの参画  
(略)

## 13. 専門学校の施設設備について

### 1. 建物管理

#### ①清掃委託

清掃業者について、次年度4月1日より(株)ビケンテクノから(株)ラ・ユニークへ委託業者を変更することに決め、両社に確認、承諾をとる。また、夜の警備・校舎施錠のアウトソーシングをラ・ユニークに委託することになり、3月より新人スタッフの研修を行う。清掃スタッフは平日6時～10時5名、16時～18時半1名（リーダー1名は7時～16時半）、土曜日6時～10時4名で実施し、夜の警備スタッフは平日のみ17時～23時1名（2名が交替勤務）で行う。

(株)ビケンテクノは3月31日で契約を終了した。

#### ②空調設備

空調機器が十数年経過して修理が頻繁に発生しているため、空調専門業者の西日本空調管理(株)と保守契約を結び、定期的な洗浄ときめ細かい保守管理により、異常を早期発見して経費削減を図る。次年度の修理に先立ち、館内の空調機器のリストアップを依頼した。（4月21日提出予定）

#### ③館内設備

\*本校舎教室のブラインドが設置後15年経過して破損しているため、劣化のひどいものをすべて交換した。（平成26年3月より順次交換）

交換場所：3F 学生ホール、306, 401, 403, 406, 501, 503, 506, 601, 603, 606 教室

\*3階学生ホール、1階ロビーに机・椅子を増設し、学生の自習環境の充実を図った。（10月24日）

\*柔道場のロッカーの扉蝶番が危険なため、防護金具を取り付けた。（11月）

\*全館のトイレ便座用クリーナーを、ノロウィルス・インフルエンザウィルスに効果があるものに変え、利便性も考慮してスプレー式に交換した。（12月17日）

\*本校舎3階給湯室の電気温水器が故障し、設置後10年経過して部品もないため、新品に取り替えた。（1月12日）

\*本校舎のエレベーター2機の床カーペット、壁面シート劣化のため、交換した。（2月28日）

\*建物定期調査で指摘のあった本校舎北側階段の手すりを設置し、安全性を向上させた。（3月21日）

\*校友室移転のため、元顧問室の床カーペットを取り換えた。（3月28日）

\*本校舎、アネックス校舎の床マットについて、価格・材質面を考慮し、委託業者をダスキンからトーカイ（リースキン）へ変更した。（4月1日より）

\*1階玄関前の福祉スロープ、校地南側の備蓄倉庫の設置、及び本校舎旧館エレベーターの改修は実施できず、次年度に持ち越す。また、アネックス校舎駐輪場などのLED化は一旦見送り、時期をみて進める。

## 2. 安全管理

- ① 入館許可証により不審者の校内侵入については防止できており、今年度盗難事案は発していないことから、入館管理システムに一定の効果があつた。引き続き校内巡回を強化するほか、電子掲示板・掲示物等により学生への防犯意識の啓発を図る。次年度へ向けて、さらなる防犯対策強化と学生の安全確保のため、夜間の警備員配置計画を進め、3月より警備スタッフ2名の研修を始めた。
- ② 入館許可証の平成26年度の発行について、卒業生132件、在校生・教職員・講師・取引業者1,300件の合計1,432件が登録されており、卒業生については個別発行式から貸与式への検討を行ったが、愛校心の観点から当面従来通りの運用とする。
- ③ 入館管理システムの出入情報から、卒業生の利用状況を分析できるか検討するが、現フェリカ入館管理では土日祝日の終日開放を実施しており、実数を把握することはできなかった。また、平日の登校時間帯の開放について、防犯上閉める対策を検討した結果、扉自体は閉めたままで、電気錠のスイッチをタイマーで切る仕組みを導入した。
- ④ 登校時の学生の安全の確保、及び近隣への配慮から、昼と夜の登校時にアネックス校舎前で警備を実施した。

## 3. 環境管理

### ①喫煙コーナーの縮小

学生、教職員の健康管理、及び受動喫煙防止対策として、本校舎4階～6階教室南側ベランダと地下駐車場の喫煙コーナーを3月末で撤去した。これによって喫煙コーナーは西側バルコニーのみとなるが、3階以外はベンチを撤去し、ガラス張りのため学校見学者等に考慮し半透明フィルムを貼った。

### ②杉の木伐採

本校舎南側の杉の木について、近隣の苦情があるため伐採した。(平成27年3月21日) 寄付者には通知し、切り出した木材でベンチを作成することにした。(平成27年4月末納品予定)

### ③柔道場の清掃

昼間コースと夜間コースで同日に柔道の授業がある時は柔道場の清掃を実施した。次年度以降はユニークに委託する。

## 4. 防火・防災管理

学生、教職員の危機管理意識向上と、火災発生時の迅速かつ安全な判断・行動のため通報訓練、避難訓練、消火訓練を実施した。

### ①防災マニュアルに基づき、一目でわかる火災発生時マニュアルを作成した。

各フロアの消火設備見取り図と共に、全教職員に回覧で告知し、火災時放送訓練時にも配布した。

### ②1月20日(火) 火災時放送訓練

消防訓練に先立ち、火災発生時の通報・校内通知の訓練をビケン立会いのもと実施した。各部署の代表教職員が参加した。

### ③1月22日(木) 消防訓練



東成消防署立会いのもと通報訓練、避難訓練、消火訓練を実施した。両学科昼間コースの学生と教職員合わせて170名がアネックス校舎へ避難して、消火器を用いて消火訓練を実施した。

### 5. 光熱費管理

使用電力については本校舎、アネックス校舎ともに不要な電灯の消灯、空調温度管理などにより前年より減少したが、電気料金値上げによりアネックスは電気料金増となった。

使用電力量・電気料金の前年対比

		平成25年	平成26年	前年対比
本校舎	使用電力量 (kwh)	574,709	<b>531,134</b>	92.4%
	電気料金 (円)	12,619,964	<b>12,577,053</b>	99.7%
アネックス校舎	使用電力量 (kwh)	99,579	<b>98,315</b>	98.7%
	電気料金 (円)	3,152,383	<b>3,525,013</b>	111.8%

当初、予定していたデマンド制御機器の取り付けは、300万円かかるため、校舎移転の件が決まるまで保留とし、一斉に空調機器を取り換える際に、デマンド制御機能付きにすることにした。

※デマンド制御：設定温度に達すると、一定時間送風のみになる省エネ機能。

※オゾン層保護法によって、2020年に現行の冷媒（R22冷媒）が使用できなくなるので、一斉に取り換える必要がある。

### 6. その他

#### ①検収制度・備品管理・郵便物管理

\*各部署への納品物を確認し、研修する。

\*机、椅子、ベッド等の備品について、経理課、学務課と連携して管理ラベルを貼り、数量管理をした。

#### ②教室等施設利用対応

セミナー等の教室使用申請を受け付け、年間を通じて使用状況を管理する。日曜当番として出勤し、各セミナーへの備品貸出等の対応を行った。

年間利用件数内訳

	利用件数
外部主催	241
学校主催	114
在校生主催	82
合計	437

年間利用団体数比較

	利用団体数
平成24年	31
平成25年	48
平成26年	61

平成26年度の教室利用団体は61団体で、前年の127%に増加した。（別紙参照）

③花壇の管理

パートタイム職員が週2回、校舎前花壇を手入れし、常に花が咲いている状態を保持している。今後、業者に玄関前リフォームの依頼を検討中。

④学生会の行事支援

5月25日（日）新入生歓迎会（アネックス校舎）

11月1日（土）文化祭

〈文化祭における管理課の担当業務〉

\*学生会と会議を開き、出店場所、レイアウト、スケジュールを決める。

\*備品の準備をする。

\*保健所、消防署への届出と立合いをする。

\*しおり、スケジュール表、模擬店マップを作成する。

\*近隣への挨拶回りをする。

\*駐輪場の使用割り振りをする。

\*物品、器材の搬入、搬出を管理する。

\*当日、校舎前で交通整理を行う。

\*ゴミの搬出。

⑤クリーンアップ大作戦

文化祭の開始前に、学生70名と教職員15名で学校周辺の道路清掃作業を行った。

⑥事務所席替え

組織変更、人事異動に伴い、3月13日～25日に事務所の一斉席替えを実施。

各部の要望を取り入れたレイアウトに変更し、列間隔の調整、LANケーブルの整理、電話配線の見直しを行った。

### Ⅲ. 森ノ宮医療大学 平成26年度事業報告書

#### 1. 全体的な事項

##### (1) 自己点検・評価・FSD活動について

平成26年度において自己点検評価・FSD委員会は11回、FSDセミナーは7回、それぞれ開催された。委員会では平成26年度に「教育方法改善研究部会」を設置し、教員のFD活動の推進に努める一方、平成25年度に引き続き公開授業週間および授業アンケートを実施し、その結果を全教員にフィードバックした。授業アンケートに関しては集計結果の所見（リフレクションペーパー）を学長あてに提出の上、公表、問題点の改善に努めた。

##### (2) 寄付金募集活動について

過去における実績と平成26年度（平成26年4月1日から平成27年3月31日）までの寄付者の内訳は次の通りであった。

##### 寄付募集状況

平成19年4月1日～平成26年3月31日		平成26年4月1日～平成27年3月31日	
区分	寄付金額	区分	寄付金額
役員	15,800,000	役員	—
教員	5,730,000	教員	—
職員	1,740,000	職員	—
非常勤	4,340,000	非常勤	—
在校生（保護者含む）	700,000	在校生（保護者含む）	—
卒業生（保護者含む）	4,010,000	卒業生（保護者含む）	180,000
法人	8,350,000	法人	1,000,000
その他	23,780,000	その他	12,099,000
計	64,450,000	計	13,279,000

##### (3) 森ノ宮医療大学の施設設備について

平成26年度は新学科設置に伴い、本学南校地に新棟を建設することから、設計事務所等と打ち合わせを重ね、平成27年3月に着工した。地上7階、延べ床面積約11,229㎡（予定）となっており、新校舎の1階フロアに新体育館、2階フロアに新図書館を整備する予定である。

既存校舎に関しては、平成26年度は空調設備など、施設設備の修繕、整備を行う一方、清掃・点検業者の入替を行い、点検作業の見直しを実行した。

情報システム関係設備については学内無線LANの整備、学内業務システムの導入などを行った。

## 2. 学生及び教育の事項について

【在学生数・定員充足率・退学者数等の推移】

学生数		H24.5.1	H25.5.1	H26.5.1	H27.4.1
鍼灸学科	1年生	59	68	68	64
	2年生	57	52	61	67
	3年生	50	53	51	58
	4年生	59	59	57	57
	計	225	232	237	246
定員		240	240	240	240
定員充足率		93.8%	96.7%	98.8%	102.5%
退学者数		14	11	9	-
退学率		6.2%	4.7%	3.7%	-

学生数		H24.5.1	H25.5.1	H26.5.1	H27.4.1
理学療法 学科	1年生	68	68	68	70
	2年生	71	67	65	67
	3年生	67	70	64	63
	4年生	64	67	82	70
	計	270	272	279	270
定員		240	240	240	240
定員充足率		112.5%	113.3%	116.3%	112.5%
退学者数		3	7	5	-
退学率		1.1%	2.6%	1.7%	-

学生数		H24.5.1	H25.5.1	H26.5.1	H27.4.1
看護学科	1年生	88	88	88	90
	2年生	88	88	85	88
	3年生		84	86	83
	4年生			82	97
	計	176	260	341	358
定員		160	240	320	320
定員充足率		110.0%	108.3%	106.6%	111.9%
退学者数		4	7	8	-
退学率		2.3%	2.7%	2.3%	-

学生数		H24.5.1	H25.5.1	H26.5.1	H27.4.1
学部計	1年生	215	224	224	224
	2年生	216	207	211	222
	3年生	117	207	201	204
	4年生	123	126	221	224
	計	671	764	857	874
定員		640	720	800	800
定員充足率		104.8%	106.1%	107.1%	109.3%
退学者数		21	25	22	-
退学率		3.1%	3.3%	2.5%	-

学生数		H24.5.1	H25.5.1	H26.5.1	H27.4.1
大学院	1年生	1	8	7	5
	2年生	5	1	8	7
	計	6	9	15	12
定員		12	12	12	12
定員充足率		50.0%	75.0%	125.0%	100%
退学者数		1	0	0	-
退学率		16.7%	0.0%	0.0%	-

### 3. 森ノ宮医療大学入学試験の状況について

【平成 27 年度入学試験受験者数】

H27 年度 鍼灸学科	志願者数				受験者数				合格者	入学者
	第 1	第 2	第 3	計	第 1	第 2	第 3	計		
AO①	18	6	2	26	18	6	2	26	20	16
AO②	8	6	1	15	8	6	1	15	11	9
スポーツ AO	4	0	0	4	4	0	0	4	3	3
公募推薦①	6	17	14	37	6	17	14	37	22	10
公募推薦②	2	5	5	12	2	5	5	12	4	2
公募推薦③	5	6	8	19	5	6	7	18	4	2
一般①A 日程	5	8	9	22	5	8	9	22	12	2
一般①B 日程	3	5	1	9	3	5	1	9	5	2
一般②	1	5	2	8	1	5	2	8	4	2
一般③	0	4	1	5	0	4	1	5	5	1
社会人①	1	0	0	1	1	0	0	1	1	1
社会人②	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
指定校推薦	14	0	0	14	14	0	0	14	14	14
学園内推薦	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
<b>計</b>	<b>67</b>	<b>62</b>	<b>43</b>	<b>172</b>	<b>67</b>	<b>62</b>	<b>42</b>	<b>171</b>	<b>105</b>	<b>64</b>

H27 年度 理学療法学科	志願者数				受験者数				合格者	入学者
	第 1	第 2	第 3	計	第 1	第 2	第 3	計		
AO①	77	2	0	79	75	2	0	77	11	11
AO②	41	1	0	42	41	1	0	42	7	7
公募推薦①	107	23	1	131	107	23	1	131	24	21
公募推薦②	59	8	0	67	58	7	0	65	3	3
公募推薦③	50	10	0	60	50	9	0	59	2	1
一般①A 日程	32	11	2	45	31	10	2	43	8	3
一般①B 日程	18	5	1	24	18	5	1	24	5	3
一般②	23	6	1	30	22	5	1	28	5	4
一般③	12	7	1	20	12	7	1	20	3	3
社会人①	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
社会人②	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
指定校推薦	14	0	0	14	14	0	0	14	14	14
学園内推薦	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
<b>計</b>	<b>433</b>	<b>73</b>	<b>6</b>	<b>512</b>	<b>428</b>	<b>69</b>	<b>6</b>	<b>503</b>	<b>82</b>	<b>70</b>

H27年度 看護学科	志願者数				受験者数				合格者	入学者
	第1	第2	第3	計	第1	第2	第3	計		
AO①	90	0	2	92	89	0	2	91	8	8
AO②	61	1	2	64	61	1	2	64	4	4
公募推薦①	178	2	2	182	176	2	2	180	41	28
公募推薦②	101	3	0	104	93	3	0	96	10	8
公募推薦③	81	3	0	84	77	3	0	80	6	3
一般①A日程	84	5	0	89	80	5	0	85	33	15
一般①B日程	64	0	0	64	62	0	0	62	26	18
一般②	73	2	0	75	69	2	0	71	5	2
一般③	43	0	0	43	38	0	0	38	5	2
社会人①	4	0	0	4	4	0	0	4	1	1
社会人②	3	0	0	3	3	0	0	3	0	0
指定校推薦	1	0	0	1	1	0	0	1	1	1
学園内推薦	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
<b>計</b>	<b>783</b>	<b>16</b>	<b>6</b>	<b>805</b>	<b>753</b>	<b>16</b>	<b>6</b>	<b>775</b>	<b>140</b>	<b>90</b>

【平成27年度入学試験受験者数（大学院）】

H27年度 大学院研究科	志願者数	受験者数	合格者	入学者
第1次募集	3	3	2	2
第2次募集	1	1	1	1
第3次募集	2	2	2	2
<b>計</b>	<b>6</b>	<b>6</b>	<b>5</b>	<b>5</b>

## 4. 保健医療学部 鍼灸学科の事項について

### (1) 学科構成

- 1) 平成 26 年度末における専任教員は、教授 14 名、准教授 5 名、講師 7 名、助教 2 名、助手 1 名であった。このうち、26 年度末で退職したものは教授 1 名、講師 3 名であった。
- 2) 研究員等については、客員教授 4 名、客員講師 3 名、客員研究員 4 名、研究員 9 名となった。26 年度末で研究員 3 名が終了した。
- 3) ティーチング・アシスタント(TA)4 名、スタディ・アシスタント(SA)4 名、実技補助者 4 名をパート雇用した。
- 4) 学科内を「臨床鍼灸部門」「基礎鍼灸部門」「教育共通部門」「スポーツ特修・教職部門」に分割し、役割分担を明確にした。「スポーツ特修・教職部門」の会議として、「スポーツ特修コース運営委員会」を構成し、定期的に会議を行った。
- 5) 学科会議を 11 回開催し、協議・報告・情報共有を行った。
- 6) 副学科長 1 名を置いた。

### (2) 行事(鍼灸学科に関連するもののみ)

- |               |   |
|---------------|---|
| 5 月 13 日      | 第 29 回森ノ宮医療大学学術セミナー担当(伊田屋先生 外部講師)               |
| 6 月 22 日      | 2014 年度第 1 回市民公開講座担当(坂本教授)                      |
| 8 月 10 日      | 2014 年度第 2 回市民公開講座担当(松熊准教授)                     |
| 8 月 27 日-28 日 | 森ノ宮カップ U-13,U-15 サッカー大会                         |
| 9 月 14 日      | 森ノ宮カップ U-10 サッカー大会                              |
| 10 月 7 日      | 第 33 回森ノ宮大学学術セミナー担当(松熊准教授)                      |
| 10 月 11 日     | 南港南中学特別講義(鍋田教授 高崎助教)                            |
| 11 月 2 日      | 港フェスティバル ATC フットサル大会にて鍼灸体験テント設営                 |
| 11 月 2 日      | 2014 年度第 3 回市民公開講座担当(鍋田教授)                      |
| 1 月 13 日      | 第 36 回森ノ宮医療大学学術セミナー担当(安田教授)                     |
| 1 月 17 日      | 大阪府立急性期・総合医療センターにおける「ふれあい病院探検隊」で「はり・きゅう施術体験」を実施 |
| 2 月 11 日      | 住之江区民マラソンにて「はりきゅう体験」を実施                         |
| 2 月 14 日-15 日 | 森ノ宮カップ U-12 サッカー大会                              |
| 2 月 22 日      | はり師・きゅう師国家試験(桃山学院大学)                            |
| 3 月 21 日      | 大阪オフィス会連携講座担当(増山講師)                             |

### (3) 教育

- 1) 担任教員は、1 年生を辻・大月、2 年生を増山・高崎、3 年生を仲西・澤田、4 年生を松熊・辻丸が担当した。3・4 年生の指導にはゼミ教員も参加した。
- 2) 1 年生はキャリアデザインに一般教養試験や面接トレーニングなどを継続して実施した。
- 3) 業界セミナーを学生の仕事に対するモチベーションアップを目的として 3 回開催した(スポーツトレーナー、医療機関内での鍼灸師勤務、婦人科鍼灸)。
- 4) 新カリキュラム(1 年生)における学外実習 I の履修指導としてボランティア活動および報告書作成を指導し、1 年生の約半数が学外にて活動した。
- 5) 2 年次に附属施術所実習前評価として、客観的臨床能力試験(OSCE)を 2 月に実施した。
- 6) 4 年次に卒業実技試験として、客観的臨床能力試験(OSCE)を 8 月に実施した。外部評価者として、明治国際医療大学 2 名、関西医療大学 1 名、宝塚医療大学 3 名を招聘した。
- 7) 国家試験対策の一環として実力試験 1 回、模擬試験 2 回、後期開講の鍼灸総合演習Ⅱ・Ⅲの単位認定試験 6 回を実施した。模擬試験および単位認定試験問題は専任教員がローテーションで分担して作成した。
- 8) 国家試験対策の補助として夏季(8-9 月)および直前(2 月)に補習授業を行った。



- 9) 模擬試験の結果を踏まえて、学習支援センターと連動して学習支援センターアシスタントによる個別指導を行った。
- 10) はり師・きゅう師国家試験の結果、受験者41名のうちはり師合格者は39名(95.1%)、きゅう師合格者は41名(100%)であった。国家試験を受験した私立大学内では、はり師3位、きゅう師1位であった。
- 11) 既卒者を対象として、国家試験対策授業の聴講生を受け入れた。聴講生は前期卒業生3名であった。既卒者でははり師を16名受験して4名合格(25%)、きゅう師を14名受験して3名合格(21.4%)であった。聴講生は全員不合格であった。
- 12) 卒業研究論文抄録集を発行した。

#### (4) 研究

##### A. 論文・著書

1. 査読つき学術論文 31
2. 査読なし学術論文(総説など) 14
3. 著書 4
4. 専門分野における解説・記事 9
5. 一般向け解説・記事 1
6. その他の出版物など 2

##### B. 発表・講演

1. 国際学会発表 8
2. 国内学会発表 54
3. 研修会・講習会等における発表・講演 33
4. その他の発表・作品出展など 1

##### C. 社会貢献

1. 公開講座・啓発活動 10
2. 学外団体ボランティア・役員・委員活動 12
3. マスメディアにおける活動 1
4. その他 3

#### (5) 社会貢献・国際交流

- 1) 本学開催の3回の市民公開講座において、理学療法学科・看護学科とともに本学科の講師を派遣した。
- 2) 森ノ宮カップサッカー大会を開催し、スポーツを通じて小中学生の心身の育成に貢献した。

#### (6) その他

- 1) 9月16,17日に1泊で教員研修会を開催した。学科のユニット構成、授業指導および今後の方針について協議した。
- 2) 9月17日に実技系の講師会議を開催した。兼任講師を交えて学科の実技教育における方針を確認した。
- 3) スポーツ特修コース運営委員会を9回開催した。
- 4) 就職指導の一環として、学科内就職ガイダンスを3年生および4年生を対象として実施した。

## 5. 保健医療学部 理学療法学科の事項について

### 1. 人員配置について

略

### 2. 実施事業

#### 1) 業務と人員配置 (◎は主担者)

略

#### 2) 臨床実習報告

##### (1) 臨床実習

1年次：アーリーエクスポージャーを基礎ゼミナールの一環として施設見学を実施し、理学療法士の活動を知ることと勉学への意欲作りを目的に行った。実施は、平成26年8、9月に半日実施した。

2年次：臨床見学実習として、下記の計画通りに1週間の実習を行った。患者との触れあい、コミュニケーションをとること、施設での理学療法士の役割や理学療法部門の位置づけなど学習させた。

実施期間 1期：平成26年8月4日(月)～8月8日(金) 1週間  
2期：平成26年8月18日(月)～8月22日(金) 1週間  
3期：平成26年8月25日(月)～8月29日(金) 1週間

3年次：臨床評価実習として、3週間の実習を行った。患者の検査測定、問題点抽出、理学療法プログラムの立案など症例レポートとして障害をまとめ考察させた。

実施期間 1期：平成26年8月4日(月)～8月22日(金) 3週間  
2期：平成26年8月18日(月)～9月5日(金) 3週間  
3期：平成27年2月2日(月)～2月20日(金) 3週間

4年次：臨床総合実習として、8週間の実習を2回行う。学内および学外での実習の集大成として、理学療法の実施を含めて行わせた。

実施期間 1期：平成26年4月7日(月)～5月30日(金) 8週間  
2期：平成26年6月2日(月)～7月25日(金) 8週間  
3期：平成26年9月1日(月)～10月24日(金) 8週間

臨床実習における学生の教育効果について、各々の学生個人の到達目標を明確にし、実習指導者と教員の役割を明確にして連携を深めた。また、臨床実習評価表を改定し、臨床見学実習から臨床総合実習までの流れをよりわかりやすく充実したものにした。

実習指導者会議を開催して、本学の実習について指導方針や実習マニュアルの説明を行い、実習地との連携をとった。

学生の持つ資料として、レポートの書き方、デイリーノートの作成方法など印刷物として携帯させ、実習地での提出物を円滑に作成・報告できるようにした。

##### (2) 錦秀会阪和第二泉北病院研修センターでの実習

3期に分け4年生60名の臨床総合実習を実施した。この実習にて、高齢者医療を経験させ、積極的に学習させた。また、研修センターにおいて、教員ならびに実習担当者における臨床講義を実施し、学内教育から学外教育(臨床)への連携した指導を行った。

##### (3) 国家試験結果

第50回理学療法士国家試験に出願者(現役61名、秋卒11名、既卒5名)が受験した。結果、3月卒業現役生は57名/61名、秋卒7名/11名、既卒1名/5名が合格した。

国家試験に至るまでの対策として、3年生から国家試験対策に取り組み、既卒希望者も対象として対策に組んだ。4年生においては、前期と後期に2回の臨床総合実習があるが、実習期間においても国家試験対策の対象として取り組ませた。

学内における国家試験対策授業および模擬試験を実施し、学生の目標までの進捗状況の把握、学生個別の問題点の抽出、個人面談、問題点克服の個人指導を実施した。既卒者希望者については、聴講生として、4年生と同様に実施した。国家試験の100%合格を目指すため、国家試験の分析業務を充実させ、また、学習支援センターの協力のもと、国家試験対策講座などを積極的に開催したが、当初より目標としていた合格率100%ラインを下回った。この原因として不合格者の点数分析を実施すると、解剖、生理、運動学の基礎分野での取りこぼしが響いた。個別指導を4年から実施したのでは間に合わない可能性がある。学習支援センターとの更なる連携、学科内での補講授業の追加が必要である。

実施した模擬試験、講義、補講を以下に示す。

(略)

#### (4) 学生支援

カウンセラーとの連携強化を実施し、面談機会増加、就職支援重点化施設をリスト化し、学生支援室に報告した。

学生の生活面や行動について、より把握するための面談の機会を増やした。また、学生支援室との連携をより高め、精神的サポート体制を充実させた。さらに、就職支援として、合同就職企業説明会開催時に指導を行った。

#### (5) 教員の教育力向上

月に1回の学科内検討会に加えて、教育研究大会への参加、全国学会での発表を行った。臨床実習における教育力向上のため、研究会を立ち上げ臨床実習の在り方や学生対応について取り組んだ。また、教育技法、教育評価、教育倫理などの研修会講習会に積極的に参加し、学科の教育力の向上を図った。

## 6. 保健医療学部 看護学科の事項について

### 1. 学科構成

略

### 2. 学生の教育について

(1) 平成 26 年度末の在籍者は次のとおりである。

1 期生：88 名入学、8 名退学（10.0%）、65 名卒業、15 名留年

2 期生：88 名入学、5 名退学（5.7%）、3 名休学、80 名在籍

3 期生：88 名入学、6 名退学（6.8%）、1 名休学、82 名在籍

4 期生：88 名入学、88 名在籍（0%）

※（ ）内はその学年の退学率を示す

◎課題 退学生、留年生が多い。主な退学理由は看護の学修に対する不適応、進路変更等であった。留年の理由は、出席日数の不足による学修不足で単位が取得できなかった学生が、再履修することにより、先修条件が隘路となって留年に至るというものが多い。また、学年が進むと奨学金が大きくなり返済ができないために留まる傾向もある。これらから、受験生に看護大の特徴をよく知ってもらうこと、初年次教育の充実、先修条件の見直し等が必要である。

(2) 平成 26 年度の教育プログラム

1) 1～4 年の講義は計画通り行われた。

講義内容や定期試験に関し、3 年次生の科目について学生から相談があったので、講師と話し合って対応した。

また、2 年次生からカンニングの指摘があり、学科長が当事者と面談した。

2) 臨地実習

（略）

3) 4 年次プログラム

・在宅看護論実習：13 の訪問看護ステーションで行った

・主題実習Ⅰ：9 領域、各領域 2～4 サブカテゴリーで行った

・主題実習Ⅱ：9 名が行った

・地域看護活動論実習：9 名が行った

・卒業研究：9 領域において 65 名が卒業研究に取り組んだ。全員が論文・抄録を提出した。ほとんどの領域が発表会を設けた。なお取り組んだテーマは、主題実習Ⅰと関連するものが多い傾向であった。抄録集を作成、配布した。論文は製本の上大学で保管する。

4) 国家試験対策

国家試験対策委員会が立案した計画が次のように実践された。

・1 年次生：ガイダンス＋基礎医学定期試験対策講義（前期 4 回・後期 2 回）

・2 年次生：ガイダンス＋8 月、1 月の模試（2 回対策講義）、基礎医学強化を 15 回

・3 年次生：ガイダンス＋前期に解剖生理・病態学講義 14 回（下位 20%は+7 回）

後期は臨地実習に専念させるため対策は行わなかった。

・4 年次生：ガイダンス＋103 回（直近）国試問題を実施し、解説講義をした。

模試は 6 月、8 月、9 月、10 月、12 月、1 月と 6 回実施した。

7 月は下位 20%対象の模試を行った。

後期は対策講義を 60 回（下位 20%は+30 回）実施した。

下位 20%の学生の支援と、「寺子屋」対象学生の支援に腐心した。

自習の部屋を確保し、大学に来て学習するようチューター等を通して伝えたが、成績不良の学生の出席は悪かった。チューターと卒業研究担当の教員が担当学生を指導した。保健師課程の 9 名は模試を 3 回、公衆衛生看護学教員による補講が行われた。看護師国家試験 65 名受験、63 名合格、

合格率 96.9%で目標の 100%の達成には至らなかった。全国の新卒者合格率の平均は 95.5%であった。

保健師国家試験 9名受験、全員合格、100%の目標達成した。

- ◎反省と課題 当初、教員全体に対策の内容が浸透しておらず、国家試験対策委員の負担が大きかった。学生のなかには4年後期になっても過去問を解いてない者、問題集を買っていない者、レビューブックを見ているだけの者が少なからず認められた。

実際に国家試験対策に取り組む時期が遅かった(1か月)学生への対応については、教員の足並みがそろわなかった。いつまでも教員に依存している学生が少なくないことが分かった。

#### 5) 就職活動支援

平成26年4月26日(月)4年次生に対する就職説明会を開催した。

(略)

### 3. 学科の運営

学外・学園・研究科・学部の他に看護学科に次の12委員会を設け活動した。

#### (1) 学科会議

学科会議は毎月1回、合計11回開催し、教育・運営・社会活動その他について審議・意見交換等を行った。都合で理事長・事務局の陪席があった。記録は看護学科事務の田村が行った。学科記録は管理運営会議で報告した。

#### (2) 領域代表者会議

看護学科の基礎(伊津美)・成人(急性:吉村・慢性:藤本)・老年(上西)・精神(来栖)・母性(酒井)・小児(吉川)・公衆衛生(大巻)・在宅(清水)と学科長で構成し領域に共通する問題、重要課題、大学当局からの諮問事項等を審議・伝達した。

#### (3) 基礎ゼミナール担当学会

平成26年度「基礎ゼミナール」担当教員(11グループ、22名)へゼミナール開始前に方針を伝え、終了時に単位認定に関する評価会を行った。1名が不可であった。なお、オリエンテーションゼミナール(平成26年4月12日、ボーリング→ヒルトンホテルのランチ)を実施した。

#### (4) カリキュラム委員会

各領域へ反映できるように8名で構成し、10回開催した。教務委員会と連携し、通常の課題以外に平成26年度は次の事項を検討した。

- ・平成27年度からのカリキュラム改訂と新旧対照表の作成(文科省へ)
- ・「形態機能学」「臨床病態学」の講義内容の精選と調整
- ・単位認定作業部会と三者面談について
- ・解剖見学実習担当教員6名を中心に講師以下の教員が引率し、大阪大学歯学部で看護学科3年次生が見学実習を行った。

#### (5) 臨地実習委員会

各領域10名の委員で構成した。平成26年度は4年次生の「主題実習Ⅰ」「在宅看護論実習」保健師課程学生の「主題実習Ⅱ」「公衆衛生看護活動論実習」が新たな実習であった。

本委員会では、臨地実習の進捗状態を報告し、各施設で円滑な実習環境のもとで学生の学びが深まるような意見交換を行った。これまでの役割に次のような取り組みを行った。

- ・平成25年度看護学臨地実習報告書の作成
- ・平成26年度看護学臨地実習報告書の作成

#### (6) 学生委員会

10名の委員で構成し、次のような内容について精力的に検討し、それぞれの役割を軌道に乗せた。

- ・4年次生の就職・進学に関する事項
- ・入学時からの健康管理に関する事項

- ・クラブ活動、クラブ活動、大学式典、満足度調査等に関する事項
- ・オリエンテーションゼミナールに関する事項

(7) 国家試験対策委員会

10名の委員で構成した。今年度の国家試験は本学はじめての経験、目標は保健師、看護師ともに100%を設定した。国家試験対策委員会が作成した計画にしたがって1~4年次までの対策が実施された。4年生は平成26年6月から平成27年1月までに6回の模試(保健師課程は3回)を実施し、成績下位20%に関しては別途の補講、個別対応が計画された。

補講は全60コマ、下位20%には+30コマが行われ、1月以降に急遽15コマ程度の補講が組まれた。また自習室、「寺子屋」を9:00~20:00確保した。下位20%学生や「寺子屋」のいわゆるグレーゾーンの学生の対策講義・補講への参加が悪く、自習室も終盤になって活用している状況であり、総じて学生の国家試験に対する危機感がないと言わざるを得ない状況であった。また、国家試験対策委員会の計画とその実践の全体像が必ずしも全教員に浸透していない傾向がうかがわれた。

※看護師国家試験 63/65 96.9% (全国平均 90.0%、新卒平均 95.5%)

保健師国家試験 9/9 100.0% (全国平均 99.4% 新卒平均 99.6%)

(8) 地域連携推進委員会

6名で構成した。

毎月1回の「もりもり広場」に関する企画・運営を担当した。

(9) 広報委員会

7名で構成した。

オープンキャンパス、大学説明会、学外進学相談会、高校教員対象説明会、高校生のための授業見学会、高等学校出張講義等について、広報室と連携し、内容検討と教員の配置を行い、全学科的に取り組んだ。また教授は広報室と相談して3校程度、高校を訪問した。

(10) 親睦会

看護学科教員御冠婚葬祭、歓送迎会や季節ごとの催しを企画実施した。

(11) 助産学専攻設置準備委員会

平成28年度、本学に助産学専攻を開設するために酒井(委員長)、藤本、村上の3名で構成した。文科省への書類作成と臨地実習施設の開拓、教員の選考について行った。

(12) 大学院設置準備委員会

3名で構成しているが、平成26年度は活動していない。主な理由は教員資格の問題。

◎課題 各種委員会をスリムにするとともに、会議の効率化を図る。

#### 4. 教員の活動

看護学科教員の研究業績、社会貢献に焦点をあてて述べる。

(1) 看護学科教員(年度末の業績を提出した27名)による研究業績は次のとおりである。

- 1) 学術論文16編(うち英2編)
- 2) 著書5編(うち英0編)
- 3) 学会発表16題(うち英5題)
- 4) その他

◎課題 論文、学会発表ともに教員の研究実績は極めて少ない。特に学会発表が少ない。学科の完成年次まで教育の基盤づくりという任務に重きが置かれていたが、今後は、大学院看護学専攻の設置も視野に入れて、教員の研究活動を活発にする必要がある。

(2) 外部研究費獲得(研究代表者)への応募と交付は次のとおりである。

1) 応募について

- 日本学術振興会「研究活動スタート支援」3名
- 日本学術振興会「基盤研究(C)(一般)」4名
- 日本学術振興会「挑戦的萌芽研究」1名
- 日本学術振興会「若手研究(B)」4名

2) 交付について

日本学術振興会「基盤研究(C)」3名

日本学術振興会「若手研究(B)」1名

3) 共同研究について

・平成26年度経産省ロボット介護機器開発補助事業

YMP ムンダス「介助+α移動器具」看護介護分野外部委員

・ネパール民主連邦共和国「カスキ郡でタール村の生活改善—安全な水の供給促進 (草の根技術協力事業)

◎課題 科研費への応募は全教員に課しているが達成されていない。

(3) 社会貢献・国際交流

1) 社会貢献

①研修会等講師

- ・医療施設 (泉大津市立病院・浅香山病院・済生会茨木病院)
- ・団体 (日本精神科看護技術協会・大阪市交通局外部審査者)
- ・大阪中学生サマーセミナー「骨からわかること」講師
- ・関西看護医療大学「公衆衛生学I」の一部講義
- ・大阪府看護協会
- ・救命処置コースインストラクター (大阪府医師会・市立大学・南大阪病院)
- ・大精協看護専門学校非常勤講師
- ・大阪医療センター附属看護学校非常勤講師
- ・ナース専科看護学生対象公開講座
- ・ナースフル看護学生公開講座
- ・神戸市民病院機構主催公開講座
- ・国際厚生事業団—EPA 合同研修会
- ・糖尿病重症化予防フットケア研修
- ・大阪府看護協会「看護への道」説明会
- ・府立5センター新人看護職員実地指導者研修「看護基礎教育における現象」
- ・「妊娠糖尿病女性への産後継続支援に関する研修会」講師

②中・高等学校出張講義

- ・学校法人樟蔭東高等学校 ・大阪府立豊島高等学校 ・賢明学院高等学校
- ・大阪府立今宮高等学校 ・奈良県立西ノ京高等学校 ・大阪市立南港南中学校

③ボランティア

- ・シルバーボランティア研究会 (朝日厚生事業団主催の高齢者向け講座の支援)
- ・アコースティックサークル「浜木綿苑、雛祭りコンサート」学生支援
- ・京都府看護協会「看護の日」ボランティア
- ・京都ピンクリボン協会、乳がん自己検診促進ボランティア
- ・大阪マラソン救護スタッフ
- ・栄サンサンサイト HIV/AIDS 検査、検査前後カウンセリング

④学会関係

- ・日本看護技術学会第13回学術集会 (京都) 学会委員
- ・第2回大阪府看護学会支援
- ・第51回日本糖尿病学会近畿地方会座長
- ・日本看護研究学会第40回学術集会実行委員
- ・日本健康教育学会関西支部サマーセミナー実行委員
- ・第17回母乳育児シンポジウム実行委員

⑤その他

- ・大阪府立成人病センターと「外来看護」を考える勉強会発足
- ・なにわ糖尿病看護セミナー委員会の立ち上げ
- ・箕面市介護認定審査会 委員
- ・NPO 法人 YOU 医療保健福祉研究所 副理事

2) 国際貢献・交流

- ・平成26年 デンマーク・エグモントホイスコーレン校の学生との交流会
- ・日本在住フィリピン人母子交流会相談窓口
- ・外国人母子つどいの広場
- ・外国人母子相談窓口

(4) 受賞

該当者なし



## 7. 大学院保健医療学研究科保健医療学専攻の事項について

### 1. 概要

森ノ宮医療大学（以下、本学）大学院保健医療学研究科（以下、本研究科）は、平成22年度に設置認可を受け、平成23年度4月に開設された。本研究科の目標は、科学的思考様式を身に付け、東洋伝統医療と西洋現代医療の双方の特徴と思想的背景を理解した上で、両者を尊重し統合的発想にもとづいて臨床技術の提供ができる、将来業界の指導者となり得る高度な医療専門職の育成である。

### 2. 主な行事

- 4月1日 入学式(保健医療学部入学式と合同) 入学者7名
- 7月15日 本学園専門学校鍼灸学科で研究科長による大学院紹介3回
- 8月9日 学内合同就職説明会 大学院相談ブース設置
- 9月10日 入学試験第一次募集 応募者3名、合格者2名
- 11月22日 学内合同就職説明会 大学院相談ブース設置
- 1月13日 入学試験第二次募集 応募者1名、合格者1名
- 1月15日 特別研究最終報告会(公聴会) 8名発表
- 2月25日 入学試験第三次募集 応募者2名、合格者2名
- 3月5日 特別研究中間報告会 7名発表

### 3. 教育

- 1) 2年生8名の修了および修士論文を認定し、修士（保健医療学）を授与した。
- 2) 看護系大学院生にも対応できるように新カリキュラムを策定し、学則変更届を行った。
- 3) 学生支援室により院生満足度調査を実施した。
- 4) 大学院研究室（院生控室）が勉学および研究に適した環境に保たれるよう、定期的かつ予告なしの環境評価を行い、コピー用紙やトナーなどの消耗品の在庫管理と定期的・自主的な清掃を指導した。
- 5) 大学院生には授業聴講と特別研究の活動以外に、ティーチング・アシスタント（TA）として保健医療学部の授業補助を行わせ、教育者の立場について経験させた。また、一部の大学院生をリサーチ・アシスタント（RA）として雇用し、研究補助業務を通して研究活動の実際を体得させるとともに給与による経済的支援を行った。
- 6) 事情によっては指導教員を変更できることを学則に盛り込んだ。

### 4. 研究

- 1) 特別研究によって仕上げられ提出された修士論文を短縮・整理して本学紀要その他の学術雑誌に投稿するよう奨励し、作業が進行中である。
- 2) 院生に対し、特別研究の遂行に加えて当該分野の学会・セミナー・ワークショップの発表や運営に積極的に参加することを奨励し、一部の院生は学会発表を行った。
- 3) オリエンテーションおよび一部の授業において、本学園の理念を改めて周知し、その理念にもとづく研究マインドの涵養に努めた。
- 4) オリエンテーションおよび保健医療研究方法論の授業において、研究倫理と不正防止について十分な説明を行い理解させた。

### 5. 学生募集

- 1) 平成26年度は定員6名に対して7名の入学生を受け入れた。また平成27年度入試では5名の入学予定者を確保した。

- 2) 本学学部3・4年生には学内合同就職説明会の大学院ブースにおいて、本学園専門学校鍼灸学科3年生には夏期休暇前のセミナー時間の一部をいただき、本学大学院の存在、活動内容、修士の意味などについて伝えた。また、校友会報に大学院の記事を掲載した。
- 3) 本学園教職員の入学によるキャリアアップを奨励し、勤務との両立ができるための配慮(受講時間の研修扱い、レポート評価、時間割の融通など)を行うことを説明した。

#### 6. その他

- 1) 大学院としてのFD活動を行うための方策を検討した。
- 2) 就職、進学、研修などの情報収集と提供に関して学生支援室の協力を得た。
- 3) 大学院の規程および委員会などの検討および整備について現在も進行中である。
- 4) 学費減免の対象として、本学教職員以外にも理事長の認めた者を対象とすることが授業料等減免規程に記載された。
- 5) 博士後期課程設置の可能性について日本開発構想研究所に相談し、方針の大枠を構想した。

## 8. 学術研究の事項について

### 1. 研究費の適正使用

学術研究委員会研究費配分ポリシーに則り、適正な研究費配分・使用を行い、研究活動を推進した。

### 2. 文部科学省「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」改訂に準拠し、学内規程・細則の改変・策定を実施した。

#### (1) 改訂：

- ①学術研究委員会規程
- ②森ノ宮医療大学における研究活動上の不正行為に関する細則を廃止し、森ノ宮医療大学における研究活動上の不正行為に関する規程に改訂
- ③森ノ宮医療大学学術委員会動物実験倫理審査部会を廃止し、森ノ宮医療大学学術委員会動物実験部会規程に改訂

#### (2) 新設：

- ①研究活動における不正行為に対する告発・相談に関する取扱い細則
- ②森ノ宮医療大学 研究活動における不正行為に関する特別調査委員会規程

### 3. 平成26年度の研究費執行状況 (費用詳細略)

#### (1) 個人研究費：

#### (2) 購入研究機器・購入備品・メンテナンス費・講師招聘費：

- ①脳波センサ ZA 睡眠解析ソフト(Sleep Sign-Lite)
- ②ミリQ水・蒸留水作製装置の交換備品購入
- ③セミナー講師招聘 (看護)
- ④セミナー講師招聘 (鍼灸)
- ⑤血液ガス分析装置 GE プレミア 4000 レンタル・保守料
- ⑥実験動物麻酔装置の修理・オーバーホール(SN-487-5T)
- ⑦クライオスタット(凍結薄切片作成機) CM1510S 修理費用
- ⑧超音波診断装置修理 修理調整費 1H・トラックボールユニット一式
- ⑨ミリQの備品交換・修理 UV Housing 357mm (Integral)

#### (3) 動物実験施設運営費：

#### (4) 森ノ宮医療大学紀要第7・8号：

### 4. 学術セミナーの実施

医学・保健医療研究を推進する取り組みとして、大学における研究促進・活性化を目的とした学術セミナーを平成23年度から定期的で開催している。鍼灸学科・理学療法学科・看護学科の各先生方からのレクチャーにより、異なる医療資格・研究分野の垣根を超えて知識を深め共有した。またセミナーは本学学生も自由に聴講でき、さらに市民公開講座として一般市民の参加できるものとしている。

- ・ 第29回 Moxafrica 在米メンバー 伊田屋幸子先生「Moxafrica 活動報告」
- ・ 第30回 京都橘大学大学院看護学研究科教授 小板橋 喜久代教授  
「「ぐっすり眠りたい」から出発したリラクゼーション法の研究開発」
- ・ 第31回 青木元邦教授 「病態分子メカニズム解明と分子治療戦略」
- ・ 第32回 上西洋子教授 「老年看護学における質的研究～半構造化面接と内容分析に焦点を当てて～」
- ・ 第33回 松熊秀明准教授 「お灸の抗炎症効果」
- ・ 第34回 工藤慎太郎講師 「足の解剖とバイオメカニクス」
- ・ 第35回 田中晶子講師 「新人を指導する看護師を選定する看護師長の判断基準」
- ・ 第36回 安田実教授 「私立大学の経営を取り巻く環境と今後の課題について」
- ・ 第37回 渡辺長助教 「高齢化が進むタイ地域のヘルスボランティアの役割に関する研究」
- ・ 第38回 関口敏彰助教 「保健師活動の基盤となるエビデンスの構築」

5. 下部組織に関する事項

- (1) 森ノ宮医療大学学術委員会研究倫理審査部会
  - ・ 平成26年度新規研究計画申請数29件・承認件数28件(1件は審査継続中)・継続実験計画件数33件であり、活発な研究活動が継続されていた。
  - ・ 研究の倫理性・透明性を確保するため、ヒト臨床研究に関する情報公開を本学HPにて行うこととした。
- (2) 動物実験施設・森ノ宮医療大学学術委員会動物実験倫理審査部会
  - ・ 動物実験実施者を対象に第5回動物実験訓練セミナー(平成26年6月5日)を実施した。
  - ・ 平成26年度実験動物慰霊祭(平成26年11月20日)を実施した。
  - ・ 平成26年次報告書を作成し、紀要・本学HPにて公表した。
  - ・ 関連法規・指針に則り、森ノ宮医療大学動物実験施設規程を整備し、動物実験に関する自己点検・評価報告書を策定した。
  - ・ 平成26年度新規実験計画申請数10件・承認件数10件・継続実験計画件数4件であり、活発な研究活動が継続されていた。
- (3) 紀要編集委員会
  - ・ 森ノ宮医療大学紀要を年1回継続して発刊している。

6. 文部科学省科学研究費獲得状況

「新規」6件

- ・ 基盤研究(C)「軟骨局所RA系の役割と意義：高血圧と軟骨変性疾患の相関分子メカニズム」研究代表者：青木元邦
- ・ 基盤研究(C)「立位位置が上肢運動時の予測的姿勢制御および注意・予測に関わる脳電位におよぼす影響」研究代表者：前田薫
- ・ 基盤研究(C)「慢性疾患の子どもの成人医療へのトランジションに向けた支援体制整備に関する研究」研究代表者：吉川 彰二
- ・ 基盤研究(C)「代替医療系研究論文の利益相反と結論に関するシステマティック・レビュー」研究代表者：増山 祥子
- ・ 若手研究(B)「<sup>13</sup>C安定同位体比分析を用いた高強度運動時の骨格筋糖脂質代謝動態の定量解析」研究代表者：上田 真也
- ・ 若手研究(B)「院内助産における医療の質指標の実用化に向けた研究」研究代表者：上田 佳世

「継続」9件

- ・ 基盤研究(C)「転写因子HIF-1を軸とした関節拘縮分子メカニズムの解明：新規分子治療製剤開発」研究代表者：川畑 浩久
- ・ 基盤研究(C)「肝移植後のレシピエントの妊娠・出産における心理的体験と医療支援に関する研究」研究代表者：吉村 弥須子
- ・ 基盤研究(C)「医療系大学における教員養成の意義と課題についての総合的研究」研究代表者：荻原 俊男
- ・ 基盤研究(C)「急増した鍼灸学科の医療安全教育の評価と、質の保持・向上のためのコンテンツ開発」研究代表者：山下 仁
- ・ 基盤研究(C)「21世紀型中間看護管理者の情報活用能力変革プログラムの開発」研究代表者：伊津美 孝子
- ・ 若手研究(B)「ハイリスク新生児の運動発達と育児環境が発達軌跡に及ぼす影響」研究代表者：澤田 優子
- ・ 若手研究(B)「足底への振動刺激に対する姿勢応答の刺激部位による違い」研究代表者：中 正美
- ・ 若手研究(B)「腎移植レシピエントの妊娠・出産・育児に関する看護支援モデルの開発」研究代表者：吉川 有葵
- ・ 若手研究(B)「鍼通電刺激を用いた、心血管疾患リスク軽減のための外部制御システムの探索」研究代表者：中原 英博

## 9. 大学各委員会の活動について

### 1. 自己点検評価・FSD委員会 事業報告

委員：安田（委員長）、小島、金尾、青木、山下、鍋田、村上、森谷、梶井、中川、在川、瀬川、石塚、森川、渡辺、岩崎、矢納

開催回数：11回開催

開催日：平成26年4月24日、5月29日、6月26日、7月31日、8月29日、9月25日、11月13日、12月18日、平成27年1月29日、2月26日、3月19日

事業内容：

1) 平成26年度自己点検に係るエビデンス集・データ編の作成および公開

2) 学内FSDセミナーの開催（計7回 開催場所は原則、本学西棟5階教室）

・5月15日 「平成25年度授業評価アンケート・公開授業フィードバック会」  
教務室 室長 在川洋平氏

参加人数 55名

・5月15日 「コンプライアンスセミナー」

内部監査室 参事 太田康嗣氏・研究支援室 室長 葉廣泰代氏

参加人数 55名

（※5月15日は、同日別時刻に2つのセミナーを開催）

・6月19日 「2014年度学生募集の分析・入学前教育の実施報告」

広報室 室長 石塚充弘氏・株式会社 進研アド

参加人数 約40名

・7月17日 「ハラスメントのない大学を目指して」

大阪大学 名誉教授 大和谷厚氏

参加人数 約70名

・9月3日 「看護学教育におけるFDマザーマップの活用」看護学科との共催

千葉大学大学院 看護学研究科 教授 北池正氏

参加人数 30名

・12月11日 「ルーブリック評価入門」教務委員会主催

大阪大学教育学習支援センター 副センター長 佐藤浩章氏

参加人数 58名

・1月29日 「障がいのある学生に対する具体的な配慮と取組み」学生支援室との共催  
理学療法学科 教授 上田喜敏氏

参加人数 53名

3) 平成26年度授業評価アンケート・公開授業週間の実施

・授業評価アンケートおよび公開授業週間を前期・後期に実施。

・フィードバック会は平成27年5月に開催予定。

・授業アンケートについては教員からのリフレクションペーパーとともにアンケート結果を学生向けに掲示。

4) 委員会の下部組織、「教育方法改善研究部会」の設置

サポートメンバー：(鍼灸学科) 辻、大月 (理学療法学科) 中根、中

(看護学科) 奥川、西村 (共通教育部門) 藤重

(アドバイザー) 老田、小山、松本

コアメンバー：安田、青木、老田、宮本、小山、松本、在川

5) 学生満足度アンケート結果について協議

6) 学外研修会・セミナー等の案内

### 2. 教務委員会 事業報告

委員：青木（委員長）、鍋田、前田、村上、永瀬、宮本、角田、吉川（彰）、在川、竹中

開催回数：11回開催

事業内容：

- 1) カリキュラムについて
  - (1) 平成27年度各学科カリキュラム策定に関する協議
  - (2) 単位未修得者の対応方法についての協議・特別試験の制度化・再再試験の導入
- 2) 平成27年度学事関連スケジュールの協議
- 3) ルーブリックの策定・導入
- 4) ナンバリングの検討
- 5) 授業アンケート実施等による教育手法向上に向けた取り組み
- 6) 新規兼任講師採用についての協議
- 7) 教務規程の変更についての協議

3. エンロールメント・マネジメント委員会 事業報告書

委員：小島（委員長）、管理運営会議

※以下は、EM委員会の下部組織である入試専門部会について記載

開催回数：4回開催

事業内容：

- 1) 入試専門部会 小島（委員長）、山下、鍋田、金尾、吉村、宮本、瀬川、井上
  - (1) 平成26年度入試の入試結果と入学者の成績・国試合否の関連の検討
  - (2) 平成27、28年度入試の検討

4. 学生支援委員会 事業報告

委員：宮本（委員長）、金尾、中川、三木屋、森川、上西、松熊、安田

開催回数：8回開催

事業内容：

下部組織として、課外活動部会と進路支援部会があり、各部会からの以下の議案事項について協議した。

- 1) 課外活動部会
  - (1) 一般教養対策講座の実施について
  - (2) 大学祭他イベント内容（市民公開講座、ミニオープンキャンパス（学内）、校友会、  
咲州子どもフェスタ協賛）
  - (3) 課外活動公式試合および大会の公欠について
  - (4) 卒業記念祝賀会実施の有無について
  - (5) 舞洲送迎バスの増便について
  - (6) SNSのガイドライン策定について
  - (7) 課外活動施設利用の年間スケジュール化と文化会の活動場所について
  - (8) 活動報告書等提出書類のデータ化について
  - (9) 体育館利用および野球部の南校地利用について
  - (10) 準硬式野球部昇部と南校地の利用及び2・3月の活動補助費の支給について
  - (11) 部活動団体の監督およびコーチとの契約の導入について
  - (12) 南校地の安全対策および危機管理対策について
  - (13) 学内の盗難に対する対応について
  - (14) 課外活動等の公式行事参加に伴う証明書のガイドライン設定  
（公欠の取り扱い）について
  - (15) 強化クラブ昇格に関する基準について
  - (16) 平成27年度以降の部費配分に対する予算ヒアリング実施について
- 2) 進路支援部会
  - (1) 学生支援室の新たな取り組みについて（個別面談、学科会議参加等）
  - (2) 平成26年度就職ガイダンスおよびキャリア支援セミナーの開催について

- (3) 学内合同就職説明会開催について
- (4) 平成26年度学生生活に関するアンケート実施について
- (5) 平成27年度進路支援計画について（一般教養、教員採用試験、保健師対策講座）

#### 5. 学術研究委員会 事業報告

委員：青木（委員長）、山下、森谷、永瀬、澤田、前田、来栖、葉廣

開催回数：5回開催

事業内容：

- 1) 研究推進に対応した平成25年度研究費に関する調整
- 2) 文部科学省「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」改訂に準拠し  
規程・細則の整備
  - ①学術研究委員会規程
  - ②森ノ宮医療大学における研究活動上の不正行為に関する規程
  - ③森ノ宮医療大学学術委員会動物実験部会規程
  - ④研究活動における不正行為に対する告発・相談に関する取扱い細則
  - ⑤森ノ宮医療大学 研究活動における不正行為に関する特別調査委員会規程
- 3) 学術セミナー（10回）
  - (1) 開催10回
  - (2) 学術セミナーへの外部講師の招聘(2回)
- 4) 動物実験施設・森ノ宮医療大学学術委員会研究倫理審査部会
  - (1) 適正管理と運営
  - (2) 実験計画書の適正審査による倫理性の確保
  - (3) 平成26年度新規実験計画申請数10件・承認件数10件・継続実験計画件数4件
  - (4) 関連法規・指針に対応した森ノ宮医療大学学術委員会研究倫理審査部会規程の整備
  - (5) 動物実験に関する自己点検・評価報告書の策定
  - (6) 研究の透明性確保のための本学ホームページにおける情報公開
  - (7) 動物実験実施者を対象にした第3回動物実験訓練講習の実施
  - (8) 平成26年度実験動物慰霊祭の実施
- 5) 森ノ宮医療大学学術委員会研究倫理審査部会
  - (1) 研究計画書の適正審査による倫理性の確保
  - (2) 平成26年度新規研究計画申請数29件・承認件数28件・継続実験計画件数33件
  - (3) 研究の透明性確保のための本学ホームページにおける情報公開
- 6) 森ノ宮医療大学紀要編集委員会
  - (1) 森ノ宮医療大学紀要の発行
- 7) 平成27年度の研究費について
  - (1) 個人研究費の適正配分についての協議
  - (2) 購入研究機器・購入備品・メンテナンス費についての協議
  - (3) 動物実験施設運営費の協議

#### 6. 人権問題委員会 事業報告

委員：仲西（委員長）、安田、青木、藤本、河村、中、金、奥田

開催回数：3回開催

事業内容：

- 1) 研修会について

平成27年3月 ①「ハラスメントのないキャンパスにするために」 その2

本大学広報室参事 松本秀範

②「障害を有する学生の対応について—本学の具体事例から学ぶこと—」

本大学広報室参事 小山正辰

- 2) 学内における人権問題の対応

- (1) 学生用 SNS 利用ガイドラインの作成
- (2) 教職員用 SNS 利用ガイドラインの作成
- (3) 教職員と学生の接し方ガイドラインの作成

7. 附属図書館運営委員 事業報告

委員： 中村（委員長）、松熊、開田、伊津美、森谷、横山、藤重

開催回数： 1回開催

事業内容：

- 1) 図書館の適切な管理運営
- 2) ブックハンティング開催と報告
- 3) 学科・学年ごとに分けた月毎図書館利用数のモニタリング
- 4) 3学科1年生の図書館ガイダンスの実施



## 10. 研究支援室の事項について

### 1. 研究費等に関する説明会 参加状況について

#### ① 独立行政法人日本学術振興会

「科学研究費助成事業実務担当者向け説明会」

日時：平成26年7月10日（木）

場所：京都大学（吉田キャンパス 百周年時計台記念館 百周年記念ホール）

#### ② 文部科学省

「平成27年度科学研究費助成事業公募要領等説明会」

日時：平成26年9月9日（火）

場所：同志社大学（室町キャンパス 寒梅館 B1F ハーディーホール）

### 2. 科学研究費助成事業への応募取組状況（研究計画調書提出）について （略）

### 3. 科学研究費助成事業からの交付について （略）

### 4. その他の外部資金研究費等について

（金額 単位：円）

研究者の氏名	研究種目等	交付額等	備考
前田 薫	科学研究費助成事業 （基盤研究(B)） 課題番号 23300238 研究分担者 分担金	分担金配分額 13,000 うち直接経費 10,000 間接経費 3,000	研究代表者所属・職・氏名 金沢大学 医学系 教授・藤原 勝夫
森谷 正之	科学研究費助成事業 （基盤研究(B)） 課題番号 26293391 研究分担者 分担金	分担金配分額 390,000 うち直接経費 300,000 間接経費 90,000	研究代表者所属・職・氏名 大阪大学 歯学研究科 教授・吉田 篤
宮本 忠吉	科学研究費助成事業 （基盤研究(B)） 課題番号 24300237 研究分担者 分担金	分担金配分額 65,000 うち直接経費 50,000 間接経費 15,000	研究代表者所属・職・氏名 東洋大学 理工学部 教授・小河 繁彦
永瀬 佳孝	科学研究費助成事業 （基盤研究(B)） 課題番号 26293391 研究分担者 分担金	分担金配分額 390,000 うち直接経費 300,000 間接経費 90,000	研究代表者所属・職・氏名 大阪大学 歯学研究科 教授・吉田 篤
青木 元邦	奨学研究寄付金	1,000,000	第一三共株式会社
青木 元邦	経済産業省 近畿経済産業局 平成19年度 地域コンソーシアム	補完研究	NPO 法人 近畿バイオインダストリー 振興会議

5. 調書等提出状況について

提出月	書類名	提出先
4月	「平成26年度科学研究費助成事業交付申請書」 「平成26年度科学研究費助成事業交付請求書」	独立行政法人日本学術振興会
5月	「平成25年度科学研究費助成事業実施状況報告書」 「平成25年度科学研究費助成事業実績報告書」	独立行政法人日本学術振興会
6月	科学研究費助成事業「研究成果報告書」	独立行政法人日本学術振興会
	「競争的資金に係る間接経費執行実績報告書（平成25年度）」提出	文部科学省
7月	平成26年度科学研究費助成事業に係る分担金 受領委任状・振込依頼書	大阪大学 金沢大学 東洋大学
9月	「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイド ライン（実施基準）に基づく体制整備等自己評価チ ェックリスト」提出	文部科学省
3月	平成26年度科学研究費助成事業に係る分担金 経理報告書<収支簿>	大阪大学 金沢大学 東洋大学

6. 関連規程等の整備・見直しについて

文部科学大臣決定「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）」の改正を受けて、「森ノ宮医療大学における競争的資金等の取扱いに関する規程」および「森ノ宮医療大学研究費不正防止計画」、「研究費執行の手引き」等を改訂し、体制整備を進めるとともに、透明性の確保・向上を図るため、HP等での公表（情報発信）を行った。

7. 説明会等の開催について

- ① 平成26年4月4日 新入教職員オリエンテーションにて「研究費予算執行に関するルールの説明会」を開催した。
- ② 平成26年5月15日 FSDの一環として内部監査室と共同で「平成26年度 森ノ宮医療大学 第1回コンプライアンス研修会」を開催した。
- ③ 平成26年10月16日 内部監査室と共同で「平成26年度 森ノ宮医療大学 第2回コンプライアンス研修会」を開催した。

## 11. 教務室の事項について

### (1) 学生の単位修得状況について

平成26年度における単位修得状況は以下の通りである。

#### 【1年次】

学部	学科	在籍者数	0単位		1~10単位		11~20単位		21~30単位		31~40単位		41~50単位		51単位以上		留年者数 人数	休学者数 人数
			人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%		
保健医療学部	鍼灸学科	67	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	13	19.4	41	61.2	13	19.4	0	0
	理学療法学科	68	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	1.5	44	64.7	23	33.8	0	0.0	0	0
	看護学科	88	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	1.1	87	98.9	0	0.0	0	0
保健医療学部計		223	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.4	58	26.0	151	67.7	13	5.8	0	0
合計		223	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.4	58	26.0	151	67.7	13	5.8	0	0

#### 【2年次】

学部	学科	在籍者数	0単位		1~10単位		11~20単位		21~30単位		31~40単位		41~50単位		51単位以上		留年者数 人数	休学者数 人数
			人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%		
保健医療学部	鍼灸学科	61	0	0.0	1	1.6	2	3.3	20	32.8	38	62.3	0	0.0	0	0.0	0	0
	理学療法学科	64	0	0.0	1	1.6	0	0.0	5	7.8	57	89.1	1	1.6	0	0.0	0	0
	看護学科	85	1	1.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	45	52.9	38	44.7	0	0.0	0	1
保健医療学部計		210	1	0.5	2	1.0	2	1.0	25	11.9	140	66.7	39	18.6	0	0.0	0	1
合計		210	1	0.5	2	1.0	2	1.0	25	11.9	140	66.7	39	18.6	0	0.0	0	1

#### 【3年次】

学部	学科	在籍者数	0単位		1~10単位		11~20単位		21~30単位		31~40単位		41~50単位		51単位以上		留年者数 人数	休学者数 人数
			人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%		
保健医療学部	鍼灸学科	49	0	0.0	0	0.0	1	2.0	43	87.8	5	10.2	0	0.0	0	0.0	0	1
	理学療法学科	63	0	0.0	0	0.0	8	12.7	55	87.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0
	看護学科	86	2	2.3	0	0.0	6	7.0	5	5.8	63	73.3	10	11.6	0	0.0	0	0
保健医療学部計		198	2	1.0	0	0.0	15	7.6	103	52.0	68	34.3	10	5.1	0	0.0	0	1
合計		198	2	1.0	0	0.0	15	7.6	103	52.0	68	34.3	10	5.1	0	0.0	0	1

【4年次】

学部	学科	在籍者数	0単位		1~10単位		11~20単位		21~30単位		31~40単位		41~50単位		51単位以上		留年者数	休学者数
			人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%		
保健医療学部	鍼灸学科	51	0	0.0	2	3.9	2	3.9	44	86.3	2	3.9	0	0.0	0	0.0	0	1
	理学療法学科	69	0	0.0	5	7.2	0	0.0	64	92.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0
	看護学科	82	0	0.0	62	75.6	18	22.0	2	2.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0
保健医療学部計		202	0	0.0	69	34.2	20	9.9	110	54.5	2	1.0	0	0.0	0	0.0	0	1
合計		202	0	0.0	69	34.2	20	9.9	110	54.5	2	1.0	0	0.0	0	0.0	0	1

【大学院】

年次	在籍者数	0単位		1~10単位		11~20単位		21~30単位		31~40単位		41~50単位		51単位以上		留年者数	休学者数	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%			
1年	7	0	0.0	0	0.0	1	14.3	6	85.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0	
2年	8	0	0.0	3	37.5	5	62.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0	
保健医療学研究科計		15	0	0.0	3	20.0	6	40.0	6	40.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0
合計		15	0	0.0	3	20.0	6	40.0	6	40.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0

(2) 追・再試験受験者数について

平成26年度における追・再試験受験者数、実施科目数については以下の通りである。

① 平成26年度再試験実施状況

学科	前期 後期	対象科目数 (昨年度実績)	対象者実数 (昨年実績)	対象者延べ人数 (昨年実績)
鍼灸学科	前期	50 (44)	176 (137)	507 (371)
	後期	49 (41)	156 (125)	539 (350)
理学療法学科	前期	27 (37)	169 (115)	374 (278)
	後期	36 (28)	118 (93)	267 (187)
看護学科	前期	58 (41)	199 (134)	528 (331)
	後期	27 (30)	102 (123)	225 (286)
大学院	前期	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	後期	0 (0)	0 (0)	0 (0)

② 平成26年度追試験実施状況

学科	前期 後期	対象科目数 (昨年度実績)	対象者実数 (昨年実績)	対象者延べ人数 (昨年実績)
鍼灸学科	前期	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	後期	9 (0)	4 (0)	9 (0)
理学療法学科	前期	0 (1)	0 (1)	0 (1)
	後期	1 (5)	1 (1)	1 (5)
看護学科	前期	0 (8)	0 (2)	0 (18)
	後期	5 (9)	1 (3)	1 (9)

大学院	前期	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	後期	0 (0)	0 (0)	0 (0)

(3) 再々試験特別試験受験者数について

平成26年度における再々試験受験者数、実施科目数については以下の通りである。

※昨年度実績は平成25年度特別試験の数字を引用

学科	前期 後期	対象科目数 (昨年度実績)	対象者実数 (昨年実績)	対象者延べ人数 (昨年実績)
鍼灸学科	前期	37 (27)	90 (49)	161 (94)
	後期	20 (42)	66 (100)	121 (181)
理学療法学科	前期	19 (0)	34 (0)	93 (0)
	後期	16 (17)	40 (35)	65 (47)
看護学科	前期	37 (6)	43 (15)	93 (15)
	後期	4 (16)	7 (39)	9 (54)
大学院	前期	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	後期	0 (0)	0 (0)	0 (0)

(4) 学生の資格取得状況について

平成26年度における学生の資格取得および申込状況については以下の通りである。

資格名称	学科	人数	備考
スポーツリーダー	鍼灸学科	3	資格取得者数 ※看護学科では取得不可
	理学療法学科	5	
健康食品管理士	鍼灸学科	4	申込者数
	理学療法学科	7	申込者数
	看護学科	7	申込者数
アロマコーディネーター	鍼灸学科	3	※大学での申込者
	理学療法学科	0	※本学学生の合格者数は 13名
	看護学科	0	

(5) 授業アンケートについて

平成26年度における授業アンケートについては以下の通りである。

①平成26年度授業アンケート実施概要

学科名	前期 (6/7~7/23) 後期 (11/28~ 12/19)	科目数	回答者数 (延べ)
鍼灸学科	前期	19	794
	後期	14	529
理学療法学科	前期	14	876
	後期	13	680
看護学科	前期	23	1564
	後期	12	899

③ 鍼灸学科授業アンケート結果概要（肯定意見を%で表示）

	鍼灸学科							
	4年生		3年生		2年生		1年生	
	前回	今回	前回	今回	前回	今回	前回	今回
<b>□授業運営についての評価</b>								
「問1」授業の開始・終了時間を守っていたと思うという学生は	97	→ 90 ↓	97	→ 86 ↓	92	→ 99 ↑	88	→ 83 ↓
「問2」授業の内容はよくわかったと思う学生は	97	→ 83 ↓	97	→ 71 ↓	63	→ 95 ↑	84	→ 59 ↓
「問3」シラバスにそった授業と思う学生は	98	→ 91 ↓	97	→ 91 ↓	89	→ 95 ↑	93	→ 85 ↓
「問4」教科書・教材が適切に使用されていたと思う学生は	95	→ 93 ↓	94	→ 75 ↓	83	→ 97 ↑	92	→ 77 ↓
<b>□教員について</b>								
「問5」担当教員の熱意を感じた学生は	95	→ 90 ↓	94	→ 85 ↓	83	→ 96 ↑	89	→ 88 ↓
「問6」学生の提出課題や質問等に適切に対応していると感じた学生は	92	→ 83 ↓	92	→ 80 ↓	76	→ 98 ↑	88	→ 81 ↓
「問7」教員からのプレゼンテーション（板書、映像、事前配布資料等）はわかりやすく、話し方も聞き取りやすかったですか	97	→ 90 ↓	96	→ 65 ↓	67	→ 95 ↑	82	→ 64 ↓
<b>□自らの履修態度について</b>								
「問8」わからないことは、質問をしたり、調べた学生は	70	→ 70 →	69	→ 65 ↓	65	→ 82 ↑	78	→ 64 ↓
「問9」熱意をもって授業に臨んだ学生は	90	→ 67 ↓	90	→ 68 ↓	72	→ 93 ↑	86	→ 77 ↓

③理学療法学科授業アンケート結果概要（肯定意見を%で表示）

	理学療法学科							
	4年生		3年生		2年生		1年生	
	前回	今回	前回	今回	前回	今回	前回	今回
<b>□授業運営についての評価</b>								
「問1」授業の開始・終了時間を守っていたと思うという学生は	100	→ —	100	→ 91 ↓	95	→ 95 →	88	→ 82 ↓
「問2」授業の内容はよくわかったと思う学生は	100	→ —	100	→ 96 ↓	82	→ 92 ↑	67	→ 96 ↑
「問3」シラバスにそった授業と思う学生は	100	→ —	100	→ 98 ↓	98	→ 98 →	94	→ 100 ↑
「問4」教科書・教材が適切に使用されていたと思う学生は	92	→ —	92	→ 99 ↑	91	→ 96 ↑	82	→ 99 ↑
<b>□教員について</b>								
「問5」担当教員の熱意を感じた学生は	100	→ —	100	→ 98 ↓	91	→ 96 ↑	90	→ 97 ↑
「問6」学生の提出課題や質問等に適切に対応していると感じた学生は	100	→ —	100	→ 98 ↓	90	→ 95 ↑	83	→ 99 ↑
「問7」教員からのプレゼンテーション（板書、映像、事前配布資料等）はわかりやすく、話し方も聞き取りやすかったですか	100	→ —	100	→ 93 ↓	84	→ 89 ↑	67	→ 98 ↑
<b>□自らの履修態度について</b>								
「問8」わからないことは、質問をしたり、調べた学生は	92	→ —	92	→ 95 ↑	90	→ 83 ↓	74	→ 84 ↑
「問9」熱意をもって授業に臨んだ学生は	100	→ —	100	→ 96 ↓	92	→ 94 ↑	86	→ 93 ↑

※理学療法学科4年生は後期に実施対象科目がないため、アンケートを実施していない

④看護学科授業アンケート結果概要（肯定意見を%で表示）

	看護学科											
	4年生		3年生		2年生		1年生					
	前回	今回	前回	今回	前回	今回	前回	今回				
<b>□授業運営についての評価</b>												
「問1」授業の開始・終了時間を守っていたと思うという学生は	—	→	—	94	→	—	99	→	98 ↓	96	→	93 ↑
「問2」授業の内容はよくわかったと思う学生は	—	→	—	75	→	—	96	→	83 ↓	86	→	74 ↓
「問3」シラバスにそった授業と思う学生は	—	→	—	88	→	—	97	→	94 ↓	93	→	93 →
「問4」教科書・教材が適切に使用されていたと思う学生は	—	→	—	86	→	—	93	→	92 ↓	90	→	81 ↓
<b>□教員について</b>												
「問5」担当教員の熱意を感じた学生は	—	→	—	86	→	—	98	→	92 ↓	90	→	91 ↓
「問6」学生の提出課題や質問等に適切に対応していると感じた学生は	—	→	—	81	→	—	97	→	87 ↓	89	→	90 ↓
「問7」教員からのプレゼンテーション（板書、映像、事前配布資料等）はわかりやすく、話し方も聞き取りやすかったですか	—	→	—	74	→	—	95	→	78 ↓	83	→	75 ↓
<b>□自らの履修態度について</b>												
「問8」わからないことは、質問をしたり、調べた学生は	—	→	—	79	→	—	89	→	77 ↓	66	→	66 ↓
「問9」熱意をもって授業に臨んだ学生は	—	→	—	83	→	—	96	→	86 ↓	78	→	81 ↓

※看護学科3年生は後期に実施対象科目がないため、アンケートを実施していない

⑤平成26年度授業アンケート結果概要

各質問において、ほとんどの学生が8割以上の肯定的な回答を行っている。おおむね、授業に対する満足度は高いと推測される。しかしながら、問8の設問については肯定ポイント6割代の学年も見られ、引き続き改善策の検討が必要である。教員側からは学生のニーズを拾い上げ授業改善に生かしたい、授業資料の改善などを行いたいなどの意見もあり、教員側の授業への工夫、改善の傾向がうかがえる。しかしながら、学生の能動的な学習態度については大きな改善は見られず、学生自身の学修に対する意識改革と教員側の授業運営への工夫が求められる結果となった。

(6) 公開授業について

平成26年度、公開授業を以下の通り実施した。後期より授業アンケート対象科目を公開授業対象科目とし、学生目線、教員目線の双方で授業分析を行える体制を整備した。

①平成26年度前期公開授業実施概要

日程	曜日	授業形態	区分	科目名	学科	参観者数
6月16日	月	講義	専門基礎	(選)微生物学	看護	8
		演習	専門	老年看護援助論Ⅱ	看護	13
		講義	専門基礎	解剖学Ⅰ(骨・筋)	鍼灸	5
6月17日	火	講義	専門	理学療法特論Ⅰ(脳・脊髄疾患・運動器疾患)Ⅰ期	理学	12
		講義	専門	鍼灸科学概論	鍼灸	15
6月18日	水	実習	専門	特殊鍼灸治療学実習(Aクラス)	鍼灸	14
6月19日	木	演習	教養	情報処理	理学	5
		演習	専門	回復期援助論	看護	14
6月23日	月	講義	専門	神経系理学療法学	理学	7
		講義	専門基礎	臨床病態学Ⅱ	看護	14
6月24日	火	講義	専門	介護学概論	鍼灸	6
		講義	専門	基礎運動療法学総論	理学	9

②平成26年度後期公開授業実施概要

日程	曜日	授業形態	区分	科目名	学科	参観者数
11月25日	火	講義	共通	チーム医療とリスクマネジメント	理学	7
11月26日	水	講義	専門基礎	看護関係法規	看護	5
		演習	専門	運動器系理学療法学技術論	理学	7
11月27日	木	講義	専門	公衆衛生看護学概論	看護	2
11月28日	金	講義	専門	在宅看護論	看護	5
		講義	専門	基礎鍼灸学	鍼灸	4
12月1日	月	講義	専門基礎	生理学Ⅲ(応用生理学)	鍼灸	5
		講義	教職	教育実習事前事後指導	鍼灸	7
12月2日	火	講義	専門	鍼灸経営論	鍼灸	7
		講義	教養	生命倫理学	看護	3
12月4日	木	講義	専門基礎	基礎運動学	理学	6



(7) 新カリキュラムの申請について

鍼灸学科、理学療法学科、大学院保健医療学研究科のカリキュラム改訂を文部科学省へ申請し認可された。変更箇所等は以下の通りである。

①看護学科

区分			授業科目	単位数	区分			授業科目	単位数	
教養科目群	科学的思考		基礎ゼミナール	1	科学的思考		基礎ゼミナール	2		
			学習方法論	1			生物学	2		
			生物学	2			物理学	2		
			物理学	2			情報処理	2		
			化学	2		人間理解と社会		心理学	2	
			数学	2				生命倫理学	2	
			情報処理 I	1				哲学・宗教学	2	
			情報処理 II	1				社会福祉学	2	
	人間理解と社会		心理学	2			日本国憲法	2		
			生命倫理学	2			統計学	2		
			キャリアデザイン	1	語学			英語 I (初級)	2	
			哲学・宗教学	2			英語 II (中級)	2		
			社会福祉学	2			英会話 I	2		
			社会学	2			英会話 II	2		
			日本国憲法	2			医学英語 I	2		
		統計学	1			医学英語 II	2			
		マーケティング入門	2	学部共通科目群	保健医療		スポーツ健康科学演習	2		
	語学		英語 I (初級)			1		健康科学(スポーツ社会学を含む)	2	
			英語 II (中級)			1		健康管理学 I	2	
			英会話 I			1		健康管理学 II	2	
			英会話 II			1		統合医療概論	2	
		医学英語 I	1				東洋思想史	2		
		医学英語 II	1				チーム医療とコミュニケーション	2		
							身体運動科学	2		
学部共通科目群	保健医療		スポーツ健康科学演習			2		漢方医学概論	2	
			健康科学(スポーツ社会学を含む)			2		生化学	2	
			健康管理学 I			2		栄養学	2	
			健康管理学 II			2	造と機能 人体の構		形態機能学 I	1
			統合医療概論			2			形態機能学 II	1
			東洋思想史			2				
					学科専門	専門基礎				

学 科 専 門 科 目 群	専 門 基 礎 分 野	チーム医療とリスクマネージメント	2	専 門 分 野 Ⅰ	形 態 機 能 学 Ⅲ	形態機能学Ⅲ	1	
		医療コミュニケーション	1			形態機能学Ⅳ	1	
		最新医療セミナー	2			フィジカルアセスメント	2	
		運動生理学	2			発達心理学	2	
		運動生理機能学演習	2			疾 病 の 成 り 立 ち と 回 復 の 促 進	微生物学	1
		看護のための鍼灸学・理学療法学	1				病理学	1
	身 体 の 構 造 と 機 能	形態機能学Ⅰ(運動器系)	1		臨床薬理学		1	
		形態機能学Ⅱ(脳神経系)	1		臨床病態学Ⅰ		1	
		形態機能学Ⅲ(循環・内臓系)	1		臨床病態学Ⅱ		1	
		フィジカルアセスメント	2		臨床病態学Ⅲ		1	
		生化学	1		臨床病態学Ⅳ		1	
		栄養学	1		臨床病態学Ⅴ		1	
		人間学	1		臨床心理学	2		
	人間生態学	1	健 康 支 援 と 社 会 保 障 制 度		看護のための鍼灸学・理学療法学	1		
	発達心理学	1			医療概論	1		
	疾 病 の 成 り 立 ち と 回 復 の 促 進	微生物学			1	公衆衛生学	2	
		病理学			1	看護関係法規	2	
		臨床薬理学			1	保健統計学	2	
		臨床病態学Ⅰ	1		疫学	2		
		臨床病態学Ⅱ	1		基 礎 看 護 学	看護学概論	1	
		臨床病態学Ⅲ	1			看護理論	2	
		臨床病態学Ⅳ	1			生活援助論Ⅰ	2	
		臨床心理学	1			基 礎 看 護 学	生活援助論Ⅱ	2
	患者学	1	診療援助論Ⅰ		2			
死生学	1	診療援助論Ⅱ	2					
救急・災害医療論	1	看護過程演習	1					
健 康 支 援 と 社 会 保 障 制 度	医療概論	1	実 習 臨 地	基礎看護学実習Ⅰ	1			
	公衆衛生学	1		基礎看護学実習Ⅱ	2			
	保健統計学	2	専 門 分 野 Ⅱ	成 人 看 護 学	成人看護学概論	2		
	疫学	2			成人看護援助論Ⅰ	1		
	社会生活論	1			成人看護援助論Ⅱ	1		
	地域福祉論	1			成人看護援助論Ⅲ	1		
	カウンセリング論	1			成人看護援助論Ⅳ	1		
	健康教育論	1			看 老 年 護	老年看護学概論	2	

学科専門科目群	専門分野Ⅰ	基礎看護学	看護関係法規	1	学科専門科目群	専門分野Ⅱ	母性看護学	老年看護援助論Ⅰ	1		
			看護学概論	1				老年看護援助論Ⅱ	1		
			看護理論	1				母性看護学概論	2		
			生活援助論Ⅰ	2				母性看護援助論Ⅰ	1		
			生活援助論Ⅱ	2				母性看護援助論Ⅱ	1		
			診療援助論Ⅰ	2				小児看護学	小児看護学概論	2	
			診療援助論Ⅱ	2					小児看護援助論Ⅰ	1	
			統合技術論	2					小児看護援助論Ⅱ	1	
			看護管理論	1				精神看護学	精神看護学概論	2	
			実習 臨地	基礎看護学実習Ⅰ					1	精神看護援助論Ⅰ	1
	基礎看護学実習Ⅱ	2		精神看護援助論Ⅱ	1						
	学科専門科目群	専門分野Ⅱ	成人看護学	成人看護学概論	1	学科専門科目群	専門分野Ⅲ	臨地実習	成人看護学実習Ⅰ(急性)	3	
				周手術期援助論	1				成人看護学実習Ⅱ(慢性)	3	
				急性期援助論	1				老年看護学実習Ⅰ	3	
				回復期援助論	1				老年看護学実習Ⅱ	1	
				慢性期援助論	1				母性看護学実習	2	
				終末期援助論	1				小児看護学実習	2	
			老年看護学	老年看護学概論	1				精神看護学実習	2	
				老年看護援助論Ⅰ	1				在宅看護論	在宅看護概論	2
				老年看護援助論Ⅱ	2					在宅看護援助論Ⅰ	1
母性看護学			母性看護学概論	1	在宅看護援助論Ⅱ					1	
		母性看護援助論Ⅰ	1	外来看護論	1						
		母性看護援助論Ⅱ	2	看護の統合と実践Ⅰ	健康教育論	2					
小児看護学		小児看護学概論	1		家族看護学	1					
		小児看護援助論Ⅰ	1		看護管理論	1					
		小児看護援助論Ⅱ	2		災害・国際看護論	1					
精神看護学		精神看護学概論	1	統合分野	公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論	2				
		精神看護援助論Ⅰ	1			公衆衛生看護学演習	2				
		精神看護援助論Ⅱ	2			公衆衛生看護活動論Ⅰ	2				
実習 臨地		成人看護学実習Ⅰ(急性)	3			公衆衛生看護活動論Ⅱ	2				
		成人看護学実習Ⅱ(慢性)	3			公衆衛生看護活動論Ⅲ	2				
	老年看護学実習Ⅰ	3	公衆衛生看護活動論Ⅳ			2					
	老年看護学実習Ⅱ	1	公衆衛生看護管理論			2					
	母性看護学実習	2	保健医療福祉行政論			2					

統合分野		小児看護学実習	2	卒業要件		臨地実習	在宅看護論実習	2
		精神看護学実習	2				公衆衛生看護学実習	4
	看護学Ⅰ 公衆衛生	在宅看護論	1		研究 卒業	看護研究	1	
		外来看護論	1			卒業研究	2	
		集団援助論	1			看護と統合と 実践Ⅱ	臨床看護学セミナーⅠ	2
		家族看護学	1				臨床看護学セミナーⅡ	2
	公衆衛生看護学Ⅱ 公衆衛生	公衆衛生看護学概論	2		公衆衛生看護学セミナーⅡ		1	
		公衆衛生看護学理論	2		臨床看護技術セミナーⅡ		1	
		公衆衛生看護活動論Ⅰ	2		卒業要件			
		公衆衛生看護活動論Ⅱ	2		12	5		
		公衆衛生看護活動論Ⅲ	2					
		公衆衛生看護活動論Ⅳ	2					
		公衆衛生看護管理論	2					
		保健医療福祉行政論	2					
	実習 臨地	在宅看護論実習	2					
		主題実習Ⅰ	2					
		公衆衛生看護活動論実習	4					
		主題実習Ⅱ	4					
	研究 卒業	看護研究	1					
		卒業研究	4					
	卒業要件				125			

(8) 教員の配置等について

①平成26年度教員の専兼比率について

	大学院	鍼灸学科	理学療法学科	看護学科
専兼比率	94.00%	54.85%	65.23%	66.58%

②平成26年度常勤教員の一人あたりの担当授業時間数について

教員区分	教授	准教授	講師	助教	備考
最高	28	18	17	13	
最低	1	0	1	5	1 授業時間 90 分
平均	8.53	7.5	8.85	9.3	

(9) その他、教務室の運営に関する事項について

①授業スケジュールについて

平成26年度においては1日間、祝日開講および2日間の曜日変更（木曜日に月曜授業を実施）にて授業を実施した。

④各種会議体の運営について

教務室管轄となっている教授会、研究科委員会、教務委員会について滞りなく運営業務を行った。

会議名	年間開催数
教授会	18回
研究科委員会	12回
教務委員会	11回

⑤職員の育成について

平成26年度、職員育成、自己啓発を目的とし以下の研修会に出席した。

日時	研修内容等	主催者	出席者
平成26年 7月2日(水)	ループリック評価入門	大阪大学	室員1名
平成26年 10月27日(月)～28日(火)	学務システムユーザー研修会	日本システム技術株式会社	室員1名
平成26年 10月16日(水)～18日(金)	教務担当部課長研修会	日本私立大学協会	室長1名
平成26年 12月9日(水)	学務システム勉強会	日本システム技術株式会社	室員2名
平成26年 2月19日(水)	学務システム基礎講座	日本システム技術株式会社	室員1名

## 1.2. 学生支援室の事項について

### 1. 森ノ宮医療大学キャリア支援事業について

#### 1) 卒業生の進路状況について

##### (1) 進路状況について（平成27年3月31日現在）

平成26年度就職内定および進学等の進路が決定した学生は、看護学科97%（卒業65名、就職61名、進学2名、その他2名）、理学療法学科93%（就職57名、その他4名）、鍼灸学科90%（就職32名、進学5名、その他4名）となった。その他については、国家試験不合格により就職を見送った者や、進路未希望者が含まれる。

##### (2) 就職内定先の分類について

就職内定先の業種分類については、鍼灸学科が鍼灸整骨院、理学療法学科は病院での就職を決めた学生が大半であった。看護学科は実習先である病院での就職が半数以上となり、そのなかでも大阪府立急性期・総合医療センターおよび大阪府立成人病センターへ希望が集中した。

平成27年度の求人情報提供の際には、その他実習先の情報提供も行なうとともに、各学科と連携をとり、幅広い求人情報の収集に努めたい。

#### 2) 求人情報収集について

平成26年度、下記の通り求人情報の収集を行った。

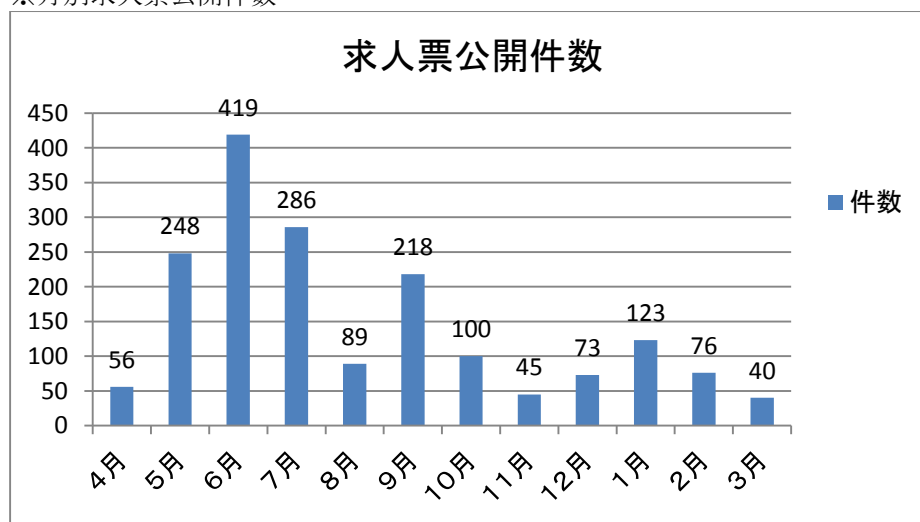
##### (1) 求人情報の収集方法について

（略）

##### (2) 求人票公開件数について（平成27年3月31日現在）

平成26年度卒業予定者に対する求人情報に関し、以下の件数の通り求人情報を公開した。公開方法は、本学学務システムの企業求人検索で公開のほか、本学1階の就職用掲示板への掲示および学生相談室の企業・施設別ファイル、求人票ファイルで学生に開示した。

※月別求人票公開件数



##### (3) 職種別求人件数について

本学宛に送付されてきた求人職種別件数は以下のとおりである。はり師、きゅう師・理学療法士・看護師・保健師に加えて、助産師・作業療法士・臨床検査技師などの求人や、柔道整復師などのその他の医療従事者、大学生卒業生を対象とする事務職、営業・販売職など多彩な求人情報が本学に寄せられた。

※職種別求人件数一覧

職種	件数
理学療法士	683
看護師	373
はり師・きゅう師	283
作業療法士	254
助産師	89
保健師	47
臨床検査技師	6
その他の医療従事者	45
事務職	24
営業職	17
介護士	17
その他	12
サービス業	5
販売職	4
総計	1,859

- (4) 有効求人倍率について（平成27年3月31日現在の国家試験合格者数）  
 本学に寄せられた各学科への求人数を求職者数より算出した学科別の求人倍率は、全国の大学卒業予定者向けの平均求人倍率を大きく上回る結果となった。

※参考数値 平成26年度大学卒業予定者の求人倍率全国平均1.61倍  
 （リクルートワークス社調べ）

	鍼灸学科	理学療法学科	看護学科
求人件数（件）	283	683	373
求職者数（人数）	39	57	63
求人倍率（倍）	7.3	12.0	5.9

- 3) キャリア支援セミナーの実施について  
 森ノ宮医療大学教育後援会の協力を得て、在学生のキャリア支援の一環として医療現場の専門家によるセミナーを以下のとおり実施した。

セミナー名称	実施日時	参加者数	協力団体	講演会概要
看護学科 就職説明会前 マナー実践講座	4月28日	62名	教育後援会	DOORS PRODUCEの中山美佐子氏を講師として招き、これから就職活動が始める看護学科の4年生に対して、就活マナー講座を行なった。
スポーツトレーナーの仕事とは	6月13日	67名	教育後援会	森ノ宮医療学園専門学校卒業生で、元セレッソ大阪トップチーム専属トレーナー百地俊文氏を招き、鍼灸師としてのトレーナーの仕事について講演いただいた。
卒業生による 就職活動体験談	8月6日	56名		理学療法学科4期生の高橋将司氏、平川雅彦氏を招き、これから就職活動が始める学生に対して、自らの体験談やアドバイスを話していただいた。

鍼灸学科 理学療法学科 就職説明会前 マナー実践講 座	8月9日	85名	教育後援会	DOORS PRODUCE の中山美佐子氏、 Balance Communion の服部裕子氏を 講師として招き、就職活動に必要な マナー等について講義および演習 を行った。
医療接遇マナ ー講座	9月19日	67名	教育後援会	中山美佐子氏を講師として招き、長 期実習に入る看護学科3年生に対 して、医療接遇のほか、患者様・職 場の方々とのコミュニケーションの 取り方や親しみやすい表情等につ いて演習を行なった。
就職マナー実 践講座	11月22 日	122名	教育後援会	CAREER LABO の小松仁美氏、大場淑 代氏を講師としてお招きし、4年生 を対象に「内定につながる面接対 策」、 3年生を対象に「就職活動に必要な マナー」について講義および演習を行 なった。
社会人として の心構え	平成27 年2月23 日 3月3日	57名	教育後援会	中山美佐子氏を講師として招き、電 話の受け方、通勤時の服装、クッ ション言葉の使い方等、社会人として の心構えについて講義を行なった。

4) 就職ガイダンスの開催について

学生支援室員による、就職に必要な知識の習得を目的とした就職ガイダンスを、合計9  
回実施した。詳細は以下のとおりである。

セミナー名称	実施日時	参加者数	ガイダンス概要
就職活動 基礎ガイダンス	4月2日	210名	4年生全員を対象に、就職活動テキストを基 に就職活動に必要な知識等の解説を行っ た。
自己分析と 求人探し方	①4月21日 ②6月23日	①27名 ②21名	病院や施設選び、履歴書を書くために必要な 自己分析について、ワークシートを用い自分 の夢や希望、自身の強みを洗い出した。 また、本学に届く求人の探し方、見方につ いて説明した。
履歴書の書き方 と自己PR	①5月12日 ②6月30日	①35名 ②26名	本学書式の履歴書を使用し、学歴・職歴など の正しい書き方や、志望動機・自己PRなど の注意事項について、例文を用い説明した。
就活のための ビジネスマナー	①5月19日 ②7月7日	①24名 ②17名	正しい言葉遣いや身だしなみのほか、電話の マナーやかけ方について演習を行なった。
看護師採用面接 ガイダンス	6月5日	14名	藤本副学科長より、採用試験時に面接官が見 ているポイントをお話いただいた。 その後、面接マナー全般について学生支援室 員より解説した。
3年生 就職活動 基礎ガイダンス	①11月13日 ②12月17日	①58名 ②65名	今後の就職活動スケジュール等について説 明したほか、進路・求職登録書の配布・説明 を行なった。



5) 学生支援室による進路に関する個別指導について

3年生および4年生全員と進路に関する個別面談を行なった。そのほか履歴書や小論文の添削、面接指導や進学相談などを実施した。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
就職相談	40	28	13	32	40	30	32	29	18	19	17	12	310
進学相談	1	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	4
学生生活相談	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
進路全般相談	1	0	2	1	0	0	0	0	2	2	1	0	9
就職ガイダンス	27	59	47	17	56	0	0	0	0	0	0	0	206
履歴書添削	7	41	31	67	22	13	16	25	15	2	35	2	276
小論文添削	0	3	3	4	0	2	2	5	2	0	0	0	21
模擬面接	0	1	17	17	13	0	7	10	8	1	4	0	78
個別面談	0	30	65	56	0	0	0	0	36	30	0	0	217
<b>合計</b>	<b>76</b>	<b>163</b>	<b>180</b>	<b>195</b>	<b>131</b>	<b>45</b>	<b>58</b>	<b>69</b>	<b>81</b>	<b>54</b>	<b>57</b>	<b>14</b>	<b>1123</b>

6) 学内就職説明会の開催について

森ノ宮医療大学教育後援会の協力を得て、本学に求人情報をご提供いただいている施設を本学に招き、学生と求人先との情報交換を目的とした学内就職説明会を開催した。

開催回数	日時	参加施設	来学施設数	来場学生数
第1回	平成26年 4月28日	看護師・保健師募集施設	15施設	53名
第2回	平成26年 8月9日	鍼灸師募集施設	19施設	93名
		理学療法士募集施設	33施設	
		企業	2社	
		森ノ宮医療大学大学院	1大学院	
第3回	平成26年 11月22日	鍼灸師募集施設	19施設	126名
		理学療法士募集施設	28施設	
		森ノ宮医療大学大学院	1大学院	
		森ノ宮医療学園専門学校	1校	

7) 専門学校入試説明会の開催について

森ノ宮医療学園専門学校の入試説明会を6月19日に開催した。川鍋前事務局長と総務広報課の岸野さんが来学され、専門学校の説明と入試内容についてお話をいただいた。参加人数は4年生2名、3年生1名であったが、説明会終了後も質疑応答が続いており、興味の高さが窺えた。平成27年度の森ノ宮医療学園専門学校入学者は1名であった。

8) 就職活動ツール

4年生に対し、就職活動に必要な知識や技術（ビジネスマナー、履歴書の書き方、労働法規等）を記載した就職活動テキストを作成し配布した。また、当テキストを就職ガイダンスや個別指導の際に持参を義務付け、学生の就職指導の際に活用した。

9) 進路支援事業総括

平成26年度は、本学の中期計画の進路支援事業の方針に則り、求人の量から進路の質へ転換し始めた年度であった。最終結果として、求人数は減ることはなく維持できた。また、進路決定の質の部分では結果が出た年度であったと考えている。看護学科は、大阪

府の実習病院を中心に大手病院に就職できた。また、保健師の地方公務員試験も3名の学生全員が合格することができた。理学療法学科については、本学の教員とつながりのある病院を中心に進路が決定した。鍼灸学科については、本学園卒業生が勤務する施設を中心に就職できた。またうち、一般就職も3名いた。特に鍼灸学科は、例年になく早期から就職活動を開始していた学生が多かったため、目標が早くに定まり、国家試験の結果に結びついたと考えている。

就職・進学情報については、学科および学生の希望する業種や職種に絞り込みを行ない、医療施設の訪問およびダイレクトメールによる求人情報の収集を実施した。平成27年度も学科および学生のニーズに沿った求人が収集できるよう、さらなる改善を行ないたい。

また、今年度も引き続き、森ノ宮医療大学教育後援会の協力を得て、大学内に医療施設を招き学内就職説明会を実施した。平成26年度も、鍼灸学科や学生が希望するクリニックや整形外科の鍼灸師求人を行なっている参加施設を増やすことができた。理学療法士求人については、学科教員と連携の強い病院に多く参加していただいた。

学生への就職指導については、医療現場で活躍している卒業生の講演やキャリアコンサルタントによる講演会など学内だけでなく、学外からの様々な情報を学生に提供することができ、学生のキャリア形成に寄与できたと考えている。平成27年度もさらに多くの現場で活躍している卒業生を招き、就職ガイダンスやキャリア支援セミナーの充実を図りたい。

## 2. 課外活動

1)平成26年度は、本学施設と舞洲スポーツアイランドに加え、大阪市立中央体育館およびセレッソ大阪グラウンドを昨年度に引続き継続利用した。また、舞洲アリーナの年間利用回数を150回、舞洲運動広場を80回利用した。

さらに、部活動の学生連盟登録等、課外活動の活発化による学生のニーズに応えるため、施設利用および送迎バスの運行の増数を行なった。平成27年度以降も全部活動が学生連盟またはそれに準ずる連盟に加盟し、活動の活性化が予想されることに加え、新校舎建築により南校地の使用が制限されるため、新たな活動施設の確保やバスの運行一部見直し等を検討している。

2)課外活動に関する規定の見直し

以下の課外活動に関する規定を見直した。

- ・森ノ宮医療大学課外活動規程
- ・森ノ宮医療大学体育施設使用細則

## 3. 学生相談

1) 産業カウンセラー有資格者を中心に、心理カウンセリングによる学生相談を実施してきた。現在の学生支援室では教員経験者2名おり、学生相談に対する初期対応も可能となっており、学生が相談しやすい環境になっている。平成26年度からは、産業カウンセラーを週3日体制に増やしており、一人でも多くの悩みをかかえている学生の早期対応ができるようにし、退学者を減らしていきたい。今後は、学科との連携の取り方を再度見直し、実習やひきこもりで悩んでいる学生に対しての適切な対応等を模索していきたい。

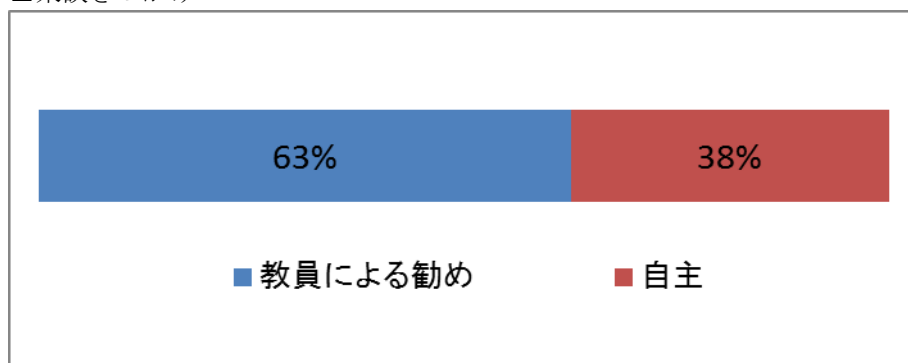
2)相談件数と学生人数

	相談件数												人数
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
鍼灸学科	0	0	0	4	2	2	4	3	1	0	0	-	2
理学療法学科	1	0	0	1	3	0	0	5	2	1	1	-	3
看護学科	2	3	0	5	1	1	2	1	1	0	0	-	3
<b>合計</b>	<b>3</b>	<b>3</b>	<b>0</b>	<b>10</b>	<b>6</b>	<b>3</b>	<b>6</b>	<b>9</b>	<b>4</b>	<b>1</b>	<b>1</b>	<b>0</b>	<b>8</b>

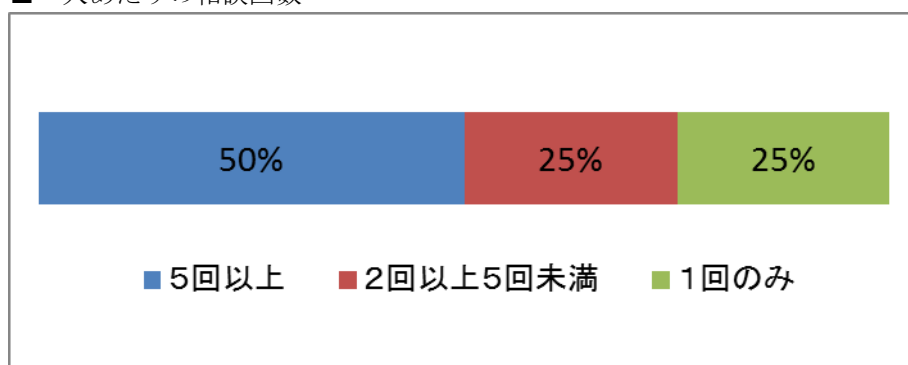
(教員からの相談、保護者面談同席等の件数は含まず。)

3)相談者の主訴（学生が話したいこと、聴いてほしいこと）

■来談きっかけ



■一人あたりの相談回数



4. 福利厚生

1) 学生食堂の運営について

学生食堂 Medi CAFE（メディカフェ）は運営6年目を迎えた。昨年同様、食堂利用満足度アンケートを実施し学生の意見を聴取した結果、多くの学生が満足しているという肯定的な意見が聞かれた。反面、メニューの多様化等に対する要望が継続的にあるため、引き続き改善に努めたい。また、食堂とは定期的に打合せを継続して情報交換や学生の意見を吸い上げる様になっている。なお、食堂運営会議は5回開催され、日々の運営についての報告や協議がなされた。

2) 売店の運営について

株式会社三省堂書店が本学内に売店を設置して3年間が経過したが、来客確保のためポスター掲示や抽選会を実施する等して利用率の維持に努めている。また、売店運営会議は5回開催され、日々の運営についての報告や協議がなされた。次年度以降の運営についても株式会社三省堂書店と日々協議しながら、さらなる学生サービスの向上に繋げたい。

5. 奨学金

1) 概況報告

<森ノ宮医療大学独自の奨学金制度>

- (1) 平成26年度採用件数は、4年間の学費全額免除型(特別特待生)奨学金が5件(内継続採用4件)、ひとり住まい支援奨学金が2件、成績優秀者(在学生特待生)奨学金が15件であった。その他キャリア活用社会人奨学金および森ノ宮医療大学教育ローン利子補給奨学金については申請者がいなかった。

<日本学生支援機構奨学金制度>

- (1) 平成26年度予約採用件数は第一種奨学金が33件、第二種奨学金が110件であった。
- (2) 平成26年度在学定期採用推薦内示数については第一種奨学生が14名、第二種奨学生が38名であった。日本学生支援機構推薦方針により、1年を優先し割り当てるこ

ととなったが、申請者数は全学年で第一種奨学金 18 件、第二種奨学金 24 件であり、奨学金規程に基づき厳選な審査を行った結果、学力および家計基準を満たす第一種奨学金 12 件、第二種奨学金 21 件が採用となった。

- (3) 平成 26 年度臨時採用希望調査が行われた結果、第一種奨学生 1 名の推薦内示数が与えられ、申請があった第一種奨学金 1 件が採用された。
- (4) 平成 26 年度臨時採用追加受付希望調査が行われた結果、第二種奨学生 1 名の推薦内示数が与えられ、申請があった第二種奨学金 1 件が採用された。
- (5) 平成 26 年度貸与満期による返還予定数は、第一種奨学金 17 件、第二種奨学金 96 件であり、対象者全員が返還に関する手続きを終えている。
- (6) 継続願提出対象者 416 名に対して適格認定を実施した結果、継続 322 件、激励 67 件、警告 10 件、辞退 8 件、退学(見込)9 件であった。したがって平成 26 年度日本学生支援機構の継続奨学生数は合計 399 名となっている。
- (7) 平成 26 年度の日本学生支援機構奨学金貸与総件数は 543 件である。本学における奨学金貸与者の割合は 6 割を超えており、年々増加傾向にある。

2) 森ノ宮医療大学独自の奨学金制度

(平成 26 年度採用)

(単位:件)

名称	合計
4 年間の学費全額免除型 (特別特待生) 奨学金	5 (内継続 4 件)
ひとり住まい支援奨学金	2
キャリア活用社会人奨学金	0
成績優秀者 (在学生特待生) 奨学金	15
森ノ宮医療大学教育ローン利子補給奨学金	0
合計	22

3) 日本学生支援機構奨学金制度

《平成 26 年度新規採用》

(単位:件)

	第一種 (無利子)	第二種 (有利子)	合計
予約採用	33	110	143
定期採用	12	21	33
追加・臨時採用	1	1	2
緊急・応急採用	0	0	0
合計	46	132	178

《平成 26 年度返還予定》

(単位:件)

	第一種 (無利子)	第二種 (有利子)	合計
貸与満期	17	96	113

《平成 26 年度適格認定》

(単位:件)

	第一種 (無利子)	第二種 (有利子)	合計
継続	73	249	322
激励	11	56	67
警告	0	10	10
廃止	0	0	0
辞退	0	8	8
退学(見込)	0	9	9
合計	84	332	416

《平成 26 年度貸与総数》

(単位:件)

	第一種 (無利子)	第二種 (有利子)	合計
貸与総数	102	441	543

4) 関連規程

以下の奨学金に関する規定を見直した。

【改訂】

- ・森ノ宮医療学園 ファミリー奨学金制度規程

【廃止】

- ・森ノ宮医療大学大学院 給付型奨学金規程
- ・森ノ宮医療大学大学院 給付型奨学金規程施行細則

6. 医務室

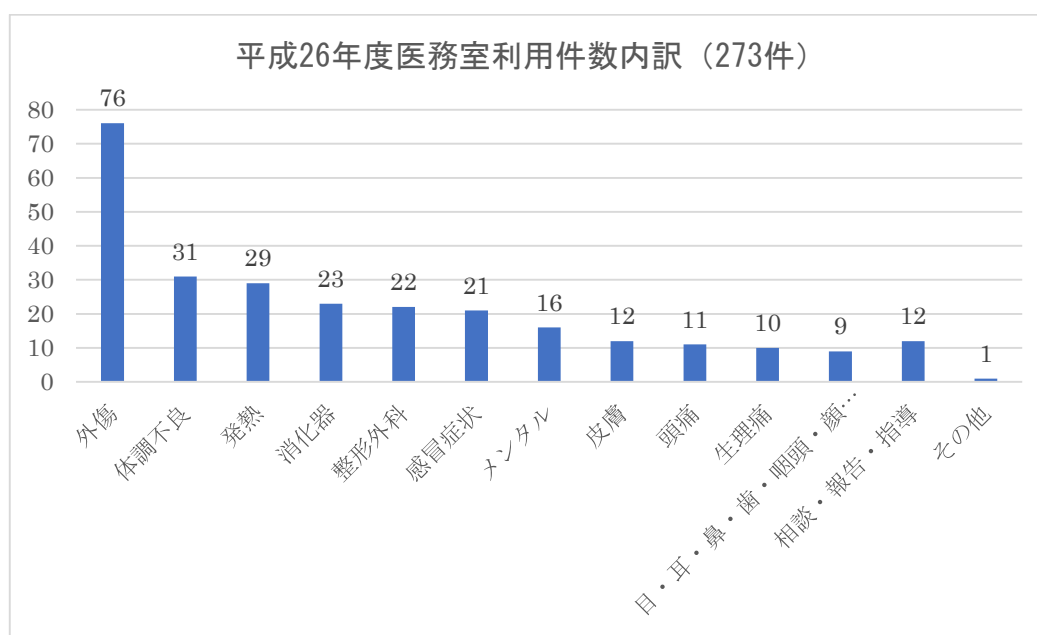
1)平成26年度の医務室利用件数は、273件（学生263件、教職員10件）で、昨年（138件）より、135件利用数が増加している。月別利用件数は昨年と同状況で、件数が多い月は7月（52件）、6月（45件）、5月（41件）、登校者数の少ない8・9月、1・3月は利用者数が減少している。利用内容別にみると、外傷（76件）が最も多いが軽症であり、擦傷・切傷・刺し傷等である。整形外科系（22件）については、捻挫、靭帯損傷、骨折と重症度が高く、医務室では5件の手術報告を受けている。

医務室に来る時間帯は、様々であり、部活動でけがをした学生は、遅くに医務室を訪れることもある。

平成26年度インフルエンザ罹患数は、医務室が把握しているのは19件である。

また、「Will」保険の利用数は、47件（学生42件、教職員5件）で、昨年（24件）より、23件利用数が増加している。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
鍼灸学科	8	18	24	28	5	3	11	8	6	4	5	2	122
理学療法学科	10	7	7	9	0	1	5	9	5	0	2	4	59
看護学科	9	16	14	13	2	3	4	4	4	2	7	1	79
保健医療学研究科	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	2
教職員	0	0	0	2	0	0	0	1	0	1	3	3	10
専門学校	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
月別合計	27	41	45	52	7	7	20	23	15	8	18	10	273



## 7. 情報収集

### 1) 学生満足度調査の実施について

平成 26 年度も在学生向けに学生生活満足度調査を実施した。

実施日：4 年生・・・3 月 12 日

3 年生・・・2 月 12 日、看護学科 3 年生・・・3 月 27 日

2 年生・・・2 月 12 日

1 年生・・・2 月 12 日

※平成 26 年度のアンケート結果は、現在集計中である。

## 8. 印刷物

### 1) 学生便覧

平成 26 年度も引き続き、学生便覧の作成を各部署と連携をとり学生支援室中心で作成をした。昨年度は、キャンパスライフや課外活動、医務室ページの内容充実を図った。また、表紙や原本の紙質の変更等も行ない経費削減に努めた。

### 2) 就職テキスト

平成 26 年度は、各学生がスケジュール管理ページや就職活動状況を把握するためのページを追加する等、学生目線での作成を心掛けた。また、学生が持ち運びできるようにするため、A4 サイズから B5 サイズへ変更も行なった。

### 3) 企業用パンフレット

平成 26 年度も企業訪問および求人依頼用の企業パンフレットを作成した。今年度は企業や施設が興味を持つ、学科別の学生の出身エリア等のページを継続するとともに、本学教員の紹介を増やし、施設との結びつきを増やせるように工夫した。

## 9. 大学関係諸団体との連携

### 1) 学生会

平成 26 年度は、課外活動の活発化および充実化に伴い、各種施設の利用回数増数を行ない学生の声に応じてきた。また、大学祭は第 8 回目を迎え、初めて鍼灸学科、理学療法学科、看護学科すべての学科において 4 学年揃っての実施となった。施設・設備に対する点については、部活動数および部員数の増加に加えて、新校舎建設により南校地の使用が制限されるため、新たな活動施設の確保等、引き続き学生会と連携しながら可能な限り学生の要望に応えたい。

#### (1) 大学祭実行委員会

11 月 2 日（日）の大学祭に向け、6 月 26 日（木）より大学祭までの毎週木曜日昼休みに集まり、学生会および大学祭実行委員を中心に大学祭に向けた話し合いや準備等を行った。

・第 8 回森ノ港祭（大学祭）

実施日時：平成 26 年 11 月 2 日（日）10：00～16：00

場所：森ノ宮医療大学 体育館兼講堂

参加人数：本学学生、教職員、地域住民 約 500 名

#### (2) 平成 27 年度課外活動用予算ヒアリングの実施

部活動団体の増加等により、学生会が中心となり、課外活動費予算ヒアリングを 1 月 7 日（水）～15 日（木）までの 6 日間実施した。合計 14 団体の活動継続および予算申請に対し、平成 27 年度は 12 部・2 公認サークルについては活動継続が認められ、予算が確定した。なお、ハンドボール部については、活動実績および部として承認されるために必要な構成員の人数が満たないため、平成 26 年度をもって廃部となることが承認された。

#### (3) 卒業記念事業

各学科 4 年生の 4 名ずつ、合計 12 名の卒業記念事業実行委員を中心に、6 月下旬より 1 月上旬までの約半年間をかけ、卒業アルバム制作を実施した。また、3 月の卒業式後に

行われる謝恩会や大学への卒業記念品について、卒業記念事業実行委員と協議した上で実施した。

2) 教育後援会

大学と保護者との連携を密にして大学における教育事業を援助し、併せて会員相互の親睦を図ることを目的として運営されている教育後援会は、通算第12回総会を平成26年9月15日(月・祝)に開催し、保護者、役員、教職員合わせて80名が出席された。大学の動向や進路支援に関する情報提供や事業中間報告、新役員の改選が行われ、総会後には学科別懇談会や担当教員による個別面談会等が実施された。また、通算第14回役員会を平成26年9月15日(月・祝)に、第15回役員会を平成27年4月16日(木)に各々開催し、平成26年度事業報告および決算報告、平成27年度事業計画案および予算案等が承認された。

3) 委員会の開催について

平成26年度は、以下の委員会を開催した。

- ①学生支援委員会・・・8回
- ②進路支援部会・・・0回
- ③課外活動部会・・・4回

10. その他

1) 日本赤十字社主催 団体献血の実施について

社会貢献、地域貢献活動の一環として、また医療人として献血運動の推進に取り組むため、団体献血を以下の通り実施し、多くの学生、教職員の皆様に協力していただき、社会貢献の一環として有意義なものとなった。献血への理解を深め、今後も継続して積極的に献血推進に取り組んでいきたい。

	平成26年11月27日
受付数(人)	61
採血数(人)	51

2) オープンキャンパスへの参加について

平成26年度もオープンキャンパスへ参加し、保護者へ奨学金、進路、学習支援センターについて説明会を実施した。また、説明会後は東棟1F学生ホールにて、学費や奨学金の個別相談を受け付けた。

11. 平成26年度学生支援室行事報告

【進路支援】

1) 第1回就職ガイダンス

実施日時：①平成26年4月2日(水) 14:20~15:20  
 ②平成26年4月2日(水) 15:30~16:20  
 場 所：森ノ宮医療大学 東棟415教室、西棟631教室  
 参加人数：210名

2) 大学生活スタートアップ講座

実施日時：平成26年4月3日(木) 13:10~14:20  
 場 所：森ノ宮医療大学 東棟415教室、西棟  
 参加人数：200名  
 講 師：CAREER LABO 小松仁美様 大場淑代様

3) 第2回就職ガイダンス(自己分析と求人探し方)

実施日時：平成26年4月21日(月) 11:00~12:00  
 場 所：森ノ宮医療大学 東棟412教室  
 参加人数：27名

- 4) 第1回キャリア支援セミナー（就職説明会前マナー実践講座）  
実施日時：平成26年4月28日（月）10：00～11：30  
場 所：森ノ宮医療大学 体育館兼講堂  
参加人数：看護学科 62名  
講 師：DOORS PRODUCE 中山美佐子様
- 5) 第1回学内合同就職説明会  
実施日時：平成26年4月28日（月）13：00～15：30  
場 所：森ノ宮医療大学 体育館兼講堂  
参加人数：看護学科 53名  
参加施設：看護師・保健師募集15施設
- 6) 第3回就職ガイダンス（履歴書の書き方と自己PR）  
実施日時：平成26年5月12日（月）11：00～12：00  
場 所：森ノ宮医療大学 東棟412教室  
参加人数：35名
- 7) 第4回就職ガイダンス（就活のためのビジネスマナー）  
実施日時：平成26年5月19日（月）11：00～12：00  
場 所：森ノ宮医療大学 東棟321教室  
参加人数：24名
- 8) 公務員ガイダンス（一般教養試験対策講座説明会）  
実施日時：平成26年5月26日（月）12：20～12：50  
場 所：森ノ宮医療大学 東棟415教室  
参加人数：11名  
講 師：東京アカデミー
- 9) 第5回就職ガイダンス（看護師採用面接対策）  
実施日時：平成26年6月5日（木）9：30～10：30  
場 所：森ノ宮医療大学 西棟533教室  
参加人数：14名
- 10) 病院、鍼灸院、施設、企業等求人票送付  
実施日時：平成26年6月10日（火）  
内 容：学生の就職施策の一環として、求人情報収集の為に、4期生勤務希望地の病院、  
鍼灸院、施設、企業等に対し求人票DMを3,801件送付。
- 11) 第2回キャリア支援セミナー（スポーツトレーナーの仕事）  
実施日時：平成26年6月13日（金）13：00～14：30  
場 所：森ノ宮医療大学 東棟415教室  
参加人数：67名  
講 師：元セレッソ大阪トップチーム専属トレーナー 百地俊文様（鍼灸師）
- 12) 第6回就職ガイダンス（自己分析と求人の探し方）  
実施日時：平成26年6月23日（月）  
場 所：森ノ宮医療大学 東棟412教室  
参加人数：21名
- 13) 専門学校内部推薦説明会  
実施日時：平成26年6月24日（火）



場 所：森ノ宮医療大学 東棟 101 教室 12：20～12：50  
参加人数：3名

- 14) 第7回就職ガイダンス（履歴書の書き方と自己PR）  
実施日時：平成26年6月30日（月）11：00～12：00  
場 所：森ノ宮医療大学 東棟 412 教室  
参加人数：26名
- 15) 第8回就職ガイダンス（就活のためのビジネスマナー）  
実施日時：平成26年7月7日（月）11：00～12：00  
場 所：森ノ宮医療大学 東棟 321 教室  
参加人数：17名
- 16) キャリア支援セミナー（理学療法学科卒業生による就職活動体験談）  
実施日時：平成26年8月6日（水）16：20～17：30  
場 所：森ノ宮医療大学 東棟 311 教室  
参加人数：56名
- 17) 第3回キャリア支援セミナー（就職説明会前マナー実践講座）  
実施日時：平成26年8月9日（土）10：00～11：30  
場 所：森ノ宮医療大学 西棟 531、532 教室  
参加人数：鍼灸学科・理学療法学科 85名  
講 師：DOORS PRODUCE 中山美佐子様 Balance Communion 服部裕子様
- 18) 第2回学内合同就職説明会  
実施日時：平成26年8月9日（土）13：00～15：30  
場 所：森ノ宮医療大学 体育館兼講堂  
参加人数：鍼灸学科・理学療法学科 93名  
参加施設：鍼灸師募集19施設、理学療法士募集33施設、企業2社、森ノ宮医療大学大学院
- 19) 第4回キャリア支援セミナー（医療接遇マナー講座）  
実施日時：平成26年9月19日（金）10：40～12：10  
場 所：森ノ宮医療大学 西棟 531 教室  
参加人数：67名  
講 師：DOORS PRODUCE 中山美佐子様
- 20) 病院、鍼灸院、施設、企業等求人票送付  
実施日時：平成26年10月10日（金）  
内 容：求人情報収集の為に、病院、鍼灸院、施設、企業等に対し求人票DMを3,071件送付した。
- 21) 3回生 第1回就職ガイダンス  
実 施 日：①平成26年11月13日（木）  
          ②平成26年12月17日（月）  
場 所：①森ノ宮医療大学 東棟 221 教室  
          ②森ノ宮医療大学 東棟 304 教室  
参加人数：①鍼灸学科 58名  
          ②理学療法学科 65名

- 22) 第5回キャリア支援セミナー（就職説明会前マナー実践講座）  
実施日時：平成26年11月22日（土）11：30～13：00  
場 所：森ノ宮医療大学 西棟531、532教室  
参加人数：鍼灸学科・理学療法学科 122名  
講 師：CAREER LABO 小松仁美様 大場淑代様
- 23) 第3回学内合同就職説明会  
実施日時：平成26年11月22日（土）14：00～16：30  
場 所：森ノ宮医療大学 体育館兼講堂  
参加人数：鍼灸学科・理学療法学科 126名  
参加施設：鍼灸師募集19施設、理学療法士募集28施設  
森ノ宮医療大学大学院、森ノ宮医療学園専門学校
- 24) 病院、鍼灸院、施設等求人票送付の件  
実施日時：平成27年1月15日（火）  
内 容：求人情報収集の為、鍼灸院等に対し求人票DMを364件送付した。
- 25) 第6回キャリア支援セミナー（新社会人向け講座）  
実施日時：①平成27年2月23日（月）10：30～12：00  
②平成27年2月23日（月）15：00～16：30  
③平成27年3月3日（火）10：30～12：00  
場 所：森ノ宮医療大学 東棟311教室、東棟321教室、西棟631教室  
参加人数：57名

#### 【奨学金】

- 1) 日本学生支援機構 新入生対象 予約採用申込説明会  
実施日時：平成26年4月3日（木）16：30～17：30  
場所：森ノ宮医療大学 西棟532講義室  
参加人数：学生 130名、職員1名
- 2) 日本学生支援機構 新入生対象 定期採用申込説明会  
実施日時：平成26年4月3日（木）16：30～17：30  
場所：森ノ宮医療大学 西棟531講義室  
参加人数：学生 30名、職員1名
- 3) 日本学生支援機構 在学生対象 定期採用申込説明会  
実施日時：①平成26年4月14日（月）12：15～13：00  
②平成26年4月15日（水）12：15～13：00  
場所：森ノ宮医療大学 東棟414講義室  
参加人数：学生 20名、職員1名
- 4) 日本学生支援機構 辞退者対象 返還説明会  
実施日時：平成26年5月29日（木）12：15～13：00  
場所：森ノ宮医療大学 西棟633講義室  
参加人数：学生 14名、教職員1名
- 5) 日本学生支援機構 予約採用決定者 採用説明会  
実施日時：①平成26年6月9日（月）18：00～19：00  
②平成26年6月10日（火）18：00～19：00  
場所：森ノ宮医療大学 東棟415講義室  
参加人数：学生 144名、職員2名

6) 第1回奨学金選考会議

実施日時：平成26年6月5日（木）12：20～12：50

場所：森ノ宮医療大学 東棟102 演習室

参加人数：教員 15名、職員 3名

7) 日本学生支援機構 定期採用決定者 採用説明会

実施日時：①平成26年7月22日（火）12：15～13：00

②平成26年7月25日（金）12：15～13：00

場所：森ノ宮医療大学 東棟412 講義室

参加人数：学生 43名、職員 1名

8) 日本学生支援機構 満期予定者対象 返還説明会

実施日時：①平成26年11月12日（水）14：40～15：40

②平成26年11月13日（木）14：40～15：40

③平成26年11月19日（水）14：40～15：40

場所：森ノ宮医療大学 東棟415 講義室／西棟532 講義室

参加人数：学生 113名、職員 1名

9) 日本学生支援機構 臨時採用申込説明会

実施日時：平成26年12月15日（月）12：15～13：00

場所：森ノ宮医療大学 東棟101 演習室

参加人数：学生 2名、職員 1名

10) 第2回奨学金選考会議

実施日時：平成26年12月15日（木）12：15～12：30

場所：森ノ宮医療大学 東棟102 演習室

参加人数：教員 3名、職員 2名

11) 日本学生支援機構 適格認定継続願説明会

実施日時：平成27年1月5日（月）16：20～17：20

平成27年1月6日（火）10：40～11：40

平成27年1月6日（火）14：40～15：40

平成27年1月7日（水）9：30～10：30

平成27年1月8日（木）12：10～13：00

平成27年1月9日（金）9：30～10：30

場所：森ノ宮医療大学 東棟415 講義室

参加人数：学生 416名、職員 2名

12) 第3回奨学金選考会議

実施日時：平成27年1月19日（月）

参加人数：教員 5名、職員 2名

【教育後援会】

1) 平成26年度第1回（通算第14回）教育後援会役員会

実施日時：平成26年9月15日（月・祝）9：30～9：50

場所：森ノ宮医療大学 東棟会議室

参加人数：役員 12名、職員 3名

2) 平成26年度第1回（通算第12回）教育後援会総会

実施日時：平成26年9月15日（月・祝）10：00～11：00

場所：森ノ宮医療大学 西棟531 講義室

参加人数：役員 12名、保護者(正会員) 50名、教職員 13名

3) 平成26年度第2回(通算第15回)教育後援会役員会

実施日時：平成27年4月16日(木) 18:00~20:00

場所：森ノ宮医療大学 東棟会議室

参加人数：役員 13名、教職員 4名

12. 森ノ宮医療大学 平成26年度部活動活動状況

1. 部活動(大学公認)

1) バドミントン部

顧問：上田喜敏

学生代表者：森和香紗

昇部：平成20年4月

人数：18名

活動日：毎週 火、金

活動場所：①本学体育館 ②舞洲アリーナ ③大阪市中央体育館 ④住吉スポーツセンター ⑤港区スポーツセンター

実績：関西学生連盟リーグ戦出場

2) 柔道部

顧問：宮本忠吉

学生代表者：藤崎龍一

昇部：平成20年4月

人数：6名

活動日：不定期

活動場所：①本学体育館 ②本学スタジオ

実績：昇段試合、学生柔道体重別大会

3) バレーボール部

顧問：在川洋平

学生代表者：福田剛

昇部：平成21年6月

人数：30名

活動日：不定期

活動場所：①舞洲アリーナ ②港スポーツセンター ③大阪市立中央体育館

実績：ドリーマーズカップ参加

4) 陸上部

顧問：三木屋良輔

学生代表者：小嶋秋穂

昇部：平成21年7月

人数：8名

活動日：不定期

活動場所：①コスモスクエア駅周辺 ②本学体育館

実績：咲洲ウォーキング大会、大阪城ナイトラン大会参加

5) 硬式テニス部

顧問：尾崎朋文

学生代表者：高橋一貴

昇部：平成22年6月

人数：28名

活動日：毎週 月、火  
活動場所：①ミズノクリスタテニスコート  
実績：初心者交歓会出場

6) 男子バスケットボール部

顧問：中原英博  
学生代表者：石川智大  
昇部：平成22年6月  
人数：17名  
活動日：不定期  
活動場所：①本学体育館 ②舞洲アリーナ  
実績：関西学生リーグ5部

7) 女子バスケットボール部

顧問：中原英博  
学生代表者：安達美花  
昇部：平成22年6月  
人数：15名  
活動日：毎週 月、水、金  
活動場所：①本学体育館 ②舞洲アリーナ  
実績：関西女子学生バスケットボール連盟3部

8) 軽音楽部

顧問：辻涼太  
学生代表者：楊文寧  
昇部：平成22年11月  
人数：25名  
活動日：不定期  
活動場所：①本学体育館および教室 ②各学外ライブ施設  
実績：大学祭、学内ライブ、学外イベントライブ

9) ライフサポート部

顧問：吉川有葵  
学生代表者：関谷福美  
昇部：平成24年11月  
人数：51名  
活動日：不定期  
活動場所：①本学教室 ②大阪市立大学 ③各種イベント救護班  
実績：学内および学外でのAED講習会

10) サッカー部

顧問：上田真也  
学生代表者：西上壮人  
昇部：平成25年3月  
人数：14名  
活動日：毎週 月、水、金  
活動場所：①舞洲運動広場 ②本学南校地 ③セレッソグラウンド ④J-GREEN 堺  
実績：関西学生サッカーリーグ3部

11) 茶道部

顧問：村上生美

学生代表者：平野恵子  
昇部：平成25年7月  
人数：8名  
活動日：毎週 水、木  
活動場所：①西棟4F 在宅演習室  
実績：茶会開催

12) 準硬式野球部

顧問：木内隆裕  
学生代表者：田中聖大  
昇部：平成26年10月  
人数：21名  
活動日：不定期  
活動場所：①舞洲運動広場、ベースボールスタジアム ②大泉緑地  
実績：京阪神2部連盟リーグ戦出場

13) ハンドボール部

顧問：澤田規  
昇部：平成21年9月  
活動実績および部として承認されるために必要な構成員の人数が満たないため、平成26年度をもって廃部申請（承認済）

2. 公認サークル（大学公認）

1) ボランティアサークル IRIS

顧問：藤本陽子  
学生代表者：千葉泉海  
昇部：平成26年3月  
人数：59名  
活動日：不定期  
活動場所：①本学教室 ②大阪府立急性期総合医療センター ③各種イベント施設  
実績：もりもり広場、病棟ボランティア、ふれあい福祉広場、各種イベントボランティア

2) アコースティックギターサークル

顧問：伊津美孝子  
学生代表者：奥出侑華  
昇部：平成26年10月  
人数：16名  
活動日：不定期  
活動場所：①本学体育館 ②本学教室  
実績：学内ライブ、学外ライブ、各種施設ボランティア

3. 同好会（サークル）

同好会（サークル）は、（吹奏楽、スポーツトレーナー、アコースティックギター、軟式野球、フットサル等）がある。

### 13. 大学の広報・営業活動について

平成26年度は、「ブランド力の確立」を大きな柱として広報活動に取り組んだ。具体的には、「イメージ統一」「学生募集」「在学生・卒業生の愛校心」「社会的認知・評価」「就職先からの評価」を課題とした。その中でも「学生募集」を中核施策として一番力を注いだ。

#### ①資料請求者数（オープンキャンパス・ガイダンス等の直接接者数を含む）

まだ歴史が浅く、知名度が低い本学にとって、受験生・高校生への認知度向上は必須であることから、資料請求数の増加を図る施策をこの数年間強化してきた。その結果、年々資料請求数は増加しており、平成26年も総資料請求数15,805件、昨年比24.9%増と大幅に上昇し、目標数値の13,000件も大きく上回った（平成24年は昨年比13.6%増、平成25年は昨年比24.8%増）。

※目標数値は1月から次年度募集の対象となる高校生からの資料請求が多いこともあり、年度（4月～3月）ではなく、年（1月～12月）での数字となっている。

#### ②オープンキャンパス

オープンキャンパスは、平成25年度は全9回の実施であったが、平成26年度は6月を2回から1回（2日間かけての2学科オープンキャンパスを廃止し、3学科合同で1日開催）、12月を大学説明会（ミニオープンキャンパス）とすることで、全7回と開催数を減らした。また、夏の開催時間を1時間遅らせたほか、AO対策講座・面接対策講座の時期を8月から7月に変更し、プログラムの改善を図った。

来場者数については、6月、7月、9月のオープンキャンパスは昨年度から大幅に伸びずことが出来た（4月は昨年度と同数）が、8月開催の両日は、ともに台風の影響で大幅に来場者数を減らすこととなり、その結果、総来場者数1554名で、昨年度の1603名を下回る数字となった。学科別で見れば、理学療法学科で昨年比9.2%増となったものの、看護学科で7.7%減、鍼灸学科で14.5%減となっている。

その他、オープンキャンパスとは別に実施した大学説明会【ミニオープンキャンパス】（11/2・11/23・12/14）は71名（昨年41名）、推薦・一般入試対策講座（9/15・9/21・12/14・12/21）は408名（昨年229名）、授業見学会（7/25・10/13 ※ただし10/13は暴風警報が発令したため、看護学科・理学療法学科は中止）は27名（昨年48名）の参加者があった。

（注）上述の来場者数は保護者・付添者を除く。

#### ③学外合同進学相談会

学外合同進学相談会は、受験生・高校生と直に接することができる機会として重要な位置付けとしている一方で、費用対効果などからも鑑みて、平成26年度においてガイダンス関係は高校内ガイダンスに比重をシフトし、学外合同進学相談会の参画数を縮小した。具体的には参加会場数を平成25年度の49会場から37会場に減らした。参加する会場については、昨年度の結果なども踏まえてより厳選し、その結果、相談者数合計は600名から516名と減少したものの、1会場あたりの相談者数は12.24人から13.95人と伸びている。

※なお、相談者には後日、次回のイベント告知も兼ねたサンクスレターDMを発送している。

#### ④高校内ガイダンス（大学見学会も含む）

「広報室員の増員」、「各業者からの案内数の増加」、「予算比重を合同学外進学相談会から高校内ガイダンスにシフト」などによって、より多くの高校ガイダンスへの参画が可能となった。実施回数、受講者数とも昨年度を大きく上回る224校・3,821名に対してガイダンスを実施することができ、これまで以上に多くの高校生・保護者に対して、医療分野の理解・本学の認知を高めることができた。また、アンケート等で取得する本学資料送付希望者数（個人情報）は1,354名にのぼり、参加者数からの取得率が35%という高い数字となっている。（55校のアンケート不可のガイダンスも含んだ数字）

⑤ 高校・予備校（塾）訪問

年間を通して広報室員で、近畿2府4県の高等学校428校、看護医療系予備校・塾20校への訪問を行った。1校への訪問回数については、本学への出願・入学実績、エリア等を踏まえて、1～3回に区分けし、のべ訪問数としては941校となった。昨年度よりも訪問校・回数を少し絞ることで、重要校へのより深い情報提供を行えるように努め、本学と高校・予備校・塾とのパイプ強化を図った。

※昨年度は488校（のべ1208校）に訪問。

⑥ 高校・予備校（塾）教員対象説明会

高校・予備校（塾）の教員に本学の入試・教育内容をより理解していただくために開催。平成26年度は、昨年度と同様の3会場（本学・大阪北・大阪南会場）で実施した。しかし、日程については、より高校教員が参加しやすい時期を検討し、5月中旬から下旬にかけての開催とした。また、内容についても改善を図り、高校教員の関心度が高い「国家試験の取り組み、学生の支援体制、入試制度」を大きな柱としたプログラムを展開。このほか、本学会場では、昨年度同様に参加者数の増加を狙い、「はり・きゅう体験・キャンパスツアー」を行った。その結果、3会場での参加者合計は110校114名、うち本学会場の参加者数は33校35名となり、平成25年度の参加者数合計90校92名、本学会場参加者数23校23名から大きく数字を伸ばすことができた。

⑦ 制作物

時期や目的に応じた以下の制作物を作成し、受験生や高校等に幅広く配布を行った。また、学内向けや地域への発信用の制作物作成も行った。

- ・ 大学案内パンフレット…入学案内のパンフレットで平成25年度版を改訂
- ・ 外封筒… 大学案内を発送・配布するための封筒
- ・ 入試要項等一式（入試要項、願書用封筒、振込用紙、YOU-U コンタクトシート）
- ・ 2014年度入試問題集…本学の入試をより理解してもらうためのツール
- ・ イベントガイド…オープンキャンパス等のイベント案内
- ・ A0・スポーツ A0 入試フライヤー…A0・スポーツ A0 入試の案内
- ・ オープンキャンパスポスター&フライヤー…高校掲示・配布用で高校名入りのバリエーション
- ・ エクスプレス（夏・秋号）…本学の最新情報を伝えるリーフレット（年2回発行）
- ・ オープンキャンパス等イベントDM（4・8・9・10・12月）…各時期に応じて案内
- ・ スポーツ特修コースリーフレット：スポーツ特修コースの募集を強化するツール
- ・ 大学院パンフレット・募集要項…データ作成のみで、必要に応じて学内にて出力・製本
- ・ 入試対策指針と傾向…予備校による本学入試分析冊子。必要に応じて学内で出力・製本
- ・ 医療がよくわかるガイドブック…分野理解を目的に高校ガイダンス、高校配布等で使用
- ・ 新学科リーフレット…高校アンケートでの使用を主目的に作成。定期資料発送時も同封
- ・ 鍼灸整骨院用リーフレット…鍼灸整骨院に通う高校生をターゲットにし、治療院に送付
- ・ 奨学金フライヤー：新しく導入した奨学金制度を中心に案内
- ・ 合格者コンテンツフライヤー：合格者だけが閲覧できる専用WEBサイトの案内
- ・ オープンキャンパスプログラム…当日のプログラム案内資料
- ・ オープンキャンパス当日次回告知フライヤー…来場者に次回のイベントを案内
- ・ 学内報（年2回発行）…学生、教職員の学内への関心を高めることを目的に作成



- ・ もりもりひろばフライヤー：月1回開催する子育て支援イベントの案内
- ・ 学园内用の大学院ポスター：学園で掲示する大学院告知ポスター
- ・ 手提げ袋…イベントで資料をいれるバッグとして使用。これまでの紙袋から不織布に変更
- ・ 市民公開講座チラシ（3種）…本学の市民公開講座案内チラシ
- ・ 卓上カレンダー…高等学校や校友会、医療関係に配付するオリジナルカレンダー
- ・ ボールペン／クリアファイル…オープンキャンパスやガイダンスでプレゼントとして使用

#### ⑧WEBサイト・SNS

WEB・SNSは広報活動の重要ツールとして捉え、本学サイトへのアクセス数（新規・リピーター）の向上やWEBサイト内の充実を図るべく、以下のような様々な策を講じた。その結果、訪問者数・ユーザー数ともに平成25年度を上回る数字となった。（アクセス数の目標数値は訪問数220,000件、ユーザー数約100,000件）

- ・ サイトのページ構成・レイアウト・動線の改善
- ・ 受験生専用サイトの改善 ※合格者へのアプローチとして合格者サイトも作成
- ・ リスティング・リマーケティング広告等を実施
- ・ 定期的な情報発信（新着情報、受験生応援ブログ、Facebook、メルマガ、LINE配信）
- ・ スマートフォンへの対応（自動変換ソフト→オリジナルページ作成）

#### ⑨進学媒体（進学雑誌・進学サイト等）

受験生・高校生に対して本学の認知訴求と資料請求の獲得を目的に、進学雑誌および進学サイト等に広告出稿を行った。進学媒体からの資料請求数の合計は昨年度の9173件から12,209件と大きく伸びた。

#### ⑩マスメディア広告・セールスプロモーション広告

本学の認知度向上を目的に、以下について広告出稿を行った。

（略）

#### ⑪資料発送

##### ■個人（資料請求者）発送

資料請求者に本学の魅力を伝え、イベント参加・入試への出願を促すために定期的に各種制作物の資料発送を行った。

4月：春のオープンキャンパスDM

5月：大学案内・募集要項一式

7月：エクспレス夏号

8月：オープンキャンパスDM

9月：エクспレス秋号（イベントフライヤー同封）

10月：秋のイベント&入試告知DM

12月：オープンキャンパス&入試告知DM

##### ■高校発送

高校・予備校には以下の通り、年4回の発送を行った。

（略）

##### ■業者保有のリストでの資料発送

業者保有の医療・スポーツ分野希望者リストを利用して、本学と接触がない高校3年生に対して本学の資料を送付し、新たな受験生層に働きかけを行った。

（略）

⑫地域連携／高大連携

地域貢献・本学認知度の向上を目的に、大学経営企画室等とも連携して以下の地域連携、高大連携イベントに取り組んだ。

- ・みどり健康ウォーキング(5月)
- ・中学生サマーセミナー(8月)
- ・雲雀丘学園アカデミックサマー(8月)
- ・ランフェスタ(10月)
- ・ふれあい病院探検隊(1月)
- ・住之江区民マラソン(2月)

⑬その他

■本学キャッチコピー制定

「想いのすべてを、医療の力に。」を大学のキャッチコピーとして定めた。

また、制作物等については、大学のイメージカラーであるグリーン基調にしたデザイン、またはワンポイントでグリーンを使用するように努めた。

■本学の名入れ菓子の製作

本学の名入れ菓子を製作し、広報室のみならず、学生支援室や各学科も病院先等への菓子折りとして利用した。

⑭まとめ

資料請求数やWEBサイトへのアクセス数からも、本学の認知度は年々向上してきていることは明確である。しかし、決して学生募集が順風満帆というわけではない。平成27年度は、新学科の開設や大学全体の学びの拡充、入試制度の改革など大学が大きく変化するときとなり、これまで以上に本学の知名度を飛躍的に広げるチャンスである。受験生はもとより保護者、また広く一般にも本学の情報・魅力を明確に伝え、既存学科の受験者数増加、新学科の受験生確保に努めることが最大の課題である。

## 14. アドミッションセンターの事項について

### 現在の組織体制と業務の遂行状況

業務分掌としては多岐にわたるが、実質的には、アドミッションセンターが直接業務遂行をしておらず、広報室業務の学内コンセンサス機関となって、広報室業務遂行の支援を中心として、実務遂行できる組織への業務移管が進行している。すなわち、広報室で起案している各種企画の内容的な報告・連絡・相談とその確定および学科内への業務依頼、情報の提供を平成26年度は10回開催したアドミッションセンター会議において確定し、それを各学科および部署にフィードバック報告する体制となっている。また、入試実務については総務室が全学的な実施体制を取っており、教員組織もその指示依頼に応じて入試運営を行っている。アドミッションセンターを構成するメンバーは、法人側からと、各学科、共通教育部門、大学院、及び事務局からメンバーを選抜し、辞令を発令している。

通常の委員会組織とはせず、教職合同の事務組織としているのは、具体的内容について当センター内で内容のチェックや問題点等は構成メンバーに諮問し、審議するが、最終的には、理事長およびセンター長による判断、決定としている。また具体的企画内容について当センターでの意見集約をすることで各種企画がスムーズに運営されることを意図している。具体的な組織構成メンバーと活動内容は以下の通り。

#### 1. アドミッションセンター組織構成メンバー (略)

#### 2. 具体的活動内容

- 1) 各入試日程とそれに付随する手続締め切り日等の提案と確定
- 2) オープンキャンパス、授業見学会、大学説明会の日程の確定
- 3) 広報室起案の学外へ発信する大学パンフレット等各種印刷物の学科内での検討依頼
- 4) 本年度における指定校推薦入試における対象校の決定および当該校の評定平均値の基準の見直しと確定
- 5) 広報室で企画立案しているオープンキャンパス、授業見学会・大学説明の内容のチェック・検討とその決定
- 6) オープンキャンパス以外の会の調整と確定
- 7) 高等学校から本学への見学会の内容調整
- 8) 高大連携の出張講義の内容の検討と学科間調整と確定
- 9) 広報室起案の教員対象説明会の企画実施についてのプレゼン内容打ち合わせと予行演習、企画の最終決定
- 10) 広報室起案の入学生アンケートについての内容のチェックとその結果報告会の実施
- 11) 学内推薦入試の日程の調整と決定
- 12) 広報室起案のWEBサイトの企画充実、調整と各学科への依頼指示
- 13) 本学への志願者のアプローチ状況、オープンキャンパス来学者数等データ報告
- 14) WEBサイト、ブログ訪問者数等のデータ分析結果の報告
- 15) 広報室の高校訪問等の営業活動の報告
- 16) 広報室立案の志願者数減少対策についての検討と学科調整業務について指示依頼
- 17) 広報室起案の広告戦略についての検討報告
- 18) 大学経営企画室、広報室起案の地域貢献・連携イベント（「ふれあい病院探検隊」「食と健康フェスタ」、「住之江区マラソン」、「森ノ宮カップサッカー大会」、「中学生サマーセミナー」、「小中高教員対象オープン講座」、「大阪ウォーク」）の確認と報告
- 19) 広報室提案の入学前教育の検討と確定
- 20) 各入試の志願者状況の報告
- 21) 受験雑誌等を発刊する各事業者への出稿についての内容確認依頼と報告
- 22) ライバル他校の情報収集結果の報告と外的環境分析等情報の共有
- 23) 鍼灸特別入試の実施日程の企画と管理運営会議で承認いただくように提案

- 24) オープンキャンパス、入試等の実施にあたり学生スタッフへの非常時対応相談
- 25) 入試時における保護者説明会の実施

3. アドミッションセンターの業務分掌における現状と課題  
( 略 )

4. 会議開催日と参加者数  
( 略 )

## 15. 地域連携・社会貢献・他組織（病院等との）連携事業について

### (1) 地域連携・社会貢献事業について

#### 1) 市民公開講座

第一線で活躍する大阪府立急性期・総合医療センターの医師と本学の研究者が、身近な病気の治療や予防についてわかりやすく講演する市民公開講座「予防・治療から社会復帰へのケア—最近の進歩—」（年3回シリーズ）を6月、8月、11月に開催した。平成24年度に始まった同センターとの連携事業で、本年度で3年目を迎えた。各回の概要は以下のとおり。

第1回 6月22日（日） 肝炎・肝がん			会場：森ノ宮医療大学 参加人数：54人
基調講演	肝炎・肝がん—診療の進歩	井上敦雄	大阪府立急性期・総合医療センター 消化器内科主任部長
講演Ⅰ	消化器疾患の鍼灸療法	坂本豊次	森ノ宮医療大学保健医療学部 鍼灸学科教授
講演Ⅱ	肝機能障害のリハビリテーション	前田薫	森ノ宮医療大学保健医療学部 理学療法学科准教授
講演Ⅲ	消化器疾患と看護	伊津美孝子	森ノ宮医療大学保健医療学部 看護学科教授

第2回 8月10日（日） 前立腺肥大・前立腺がん			会場：森ノ宮医療大学 参加人数：25人
基調講演	前立腺肥大・前立腺がん—診療の進歩	山口誓司	大阪府立急性期・総合医療センター 泌尿器科主任部長
講演Ⅰ	排尿障害と鍼灸治療	松熊秀明	森ノ宮医療大学保健医療学部 鍼灸学科准教授
講演Ⅱ	尿失禁と理学療法	上田喜敏	森ノ宮医療大学保健医療学部 理学療法学科教授
講演Ⅲ	排尿障害と看護	吉川有葵	森ノ宮医療大学保健医療学部 看護学科講師

第3回 11月2日（日） 慢性腎臓病			会場：森ノ宮医療大学 参加人数：35人
基調講演	慢性腎臓病—診療の進歩	林晃正	大阪府立急性期・総合医療センター 腎臓・高血圧内科主任部長
講演Ⅰ	慢性腎臓病の予防と看護	西村千年	森ノ宮医療大学保健医療学部 看護学科講師
講演Ⅱ	高血圧と鍼灸療法	鍋田智之	森ノ宮医療大学保健医療学部 鍼灸学科教授
講演Ⅲ	慢性腎臓病と理学療法	角田晃啓	森ノ宮医療大学保健医療学部 理学療法学科講師

#### 2) もりもりひろば

本学看護学科の教員が中心となり、近隣に住む0歳～1歳半の子どもとその家族を対象に絵本の読み聞かせや交流などを行う「もりもりひろば」を、平成23年11月からほぼ毎月1回のペースで開催しており、平成26年度も10回にわたって実施した。平成26年度の開催日程とテーマは次のとおり。

回	開催日			テーマ
第27回	平成26年	4月5日	(土)	鯉のぼりを作ろう!
第28回		5月10日	(土)	ベビーマッサージ
第29回		6月7日	(土)	気をつけたい子どもの熱中症
第30回		7月5日	(土)	赤ちゃんや子どもの「あせも」対策
第31回		8月2日	(土)	こどもの事故防止
第32回		9月13日	(土)	小児鍼から学ぶファミリーケア
第33回		10月4日	(土)	赤ちゃんもママもリラックス!
第34回		11月8日	(土)	赤ちゃんの冬の体調管理と薬の飲ませ方
第35回	平成27年	1月10日	(土)	赤ちゃんの運動発達と遊び方
第36回		3月14日	(土)	育児疲れをふきとばせ!

### 3) 森ノ宮医療大学サッカー大会 (通称: 森ノ宮カップ)

開催日: U-13・U-15 大会 (各12チーム参加)

平成26年8月27日(水) 予選リーグ、8月28日(木) 決勝トーナメント

U-10 大会 (16チーム参加)

平成26年9月14日(日)

U-12 卒業記念大会 (24チーム参加)

平成27年2月14日(土) 予選リーグ、2月15日(日) 決勝トーナメント

開催場所: 舞洲運動広場

主催: 森ノ宮医療大学

協力: 一般社団法人セレッソ大阪スポーツクラブ

概要: 本学が主催し、セレッソ大阪スポーツクラブの協力を得て開催する少年サッカー大会。健全なサッカー少年の育成し、技術向上とコンディショニングの大切さを啓蒙することに加え、サッカーを通じて友情の輪を広げてもらい、同年代の選手の交流を図ることを目的に、本年度から開催された。

### 4) みどりと海の咲洲ファミリーウォーキング 2014

開催日時: 平成26年5月11日(日) 10時半開会

開催場所(コース): 相愛大学(スタート) → A T C (ゴール)

主催: 大阪府、相愛大学、森ノ宮医療大学

参加者(一般): 178人

はり灸体験利用者: 76人

本学からの参加: 教員2人(鍼灸学科: 辻、高崎)、学生8人(鍼灸学科)、職員3人(小島、廣澤、大塚) …合計13人

概要: 3kmの初級コースと、6kmの一般コースに分かれ、大阪府咲洲庁舎などを経由するウォーキングイベント。本学はゴール地点(A T C)のハーバーアトリウムにて、血圧測定とはり灸無料体験を実施。体験者には、お灸サンプルをプレゼントした。ウォーキング参加者には、ひざ付近(足三里)へのお灸を中心に、一般客には、症状に応じて手や足へのお灸を中心に行った。

### 5) OSAKA ハッピーランフェスタ

開催日時: 平成26年10月4日(土) 12時半~19時

開催場所: 舞洲スポーツアイランド

主催: 読売新聞大阪本社

後援: 大阪市、一般財団法人大阪スポーツみどり財団

協力: 一般社団法人ランガール、FM802、旭松食品、日本トリム、マンダム、森ノ宮医療大学・森ノ宮医療学園専門学校など

参加者(一般): 約1000人

本学からの参加: 専門学校教員1人(松下)、専門学校卒業生3人(須賀+助手2人)、学生スタッフ10人(鍼灸学科1、2年生)、職員3人(小島、金、大塚) …計17人。

概要：女性を対象としたランニングイベント。5キロの部（定員400名）と10キロの部（定員600名）があり、本学は森ノ宮医療学園専門学校と協力し、発着点となった太陽の広場で「森ノ宮医療学園プロデュース Happy Run LABO」を出展し、美容鍼灸と美肌講座を行った。美容鍼灸は、むくみ美脚カッサ、顔への美容鍼、腰への箱灸など。美肌講座では、須賀講師が紫外線対策などをレクチャーした。

#### 6) 咲洲子どもフェスタ

開催日：平成26年11月1日（土）～3日（月・祝）

開催場所：ATC、大阪府咲洲庁舎、ミズノスポーツロジックギャラリー等

主催：咲洲子どもフェスタ実行委員会（アジア太平洋トレードセンター株式会社、ミズノ株式会社、財団法人大阪デザインセンター、学校法人森ノ宮医療学園、学校法人上田学園、大阪府、大阪市）

参加者（一般）：170人（AED&心肺蘇生教室110人、アコースティックギター演奏会&教室60人）

本学からの参加：教員3人（鍼灸学科：辻、高崎 看護学科：吉川有）、学生スタッフ23人（AED&心肺蘇生教室とアコースティックギター演奏会&教室の合計）、職員1人（森川）…計27人

概要：咲洲地区の官民が連携し、子どものチャレンジを応援していく催し。本学は、学生が中心となって「AED&心肺蘇生教室」、「アコースティックギター演奏会&教室」等を開催したほか、期間中に行われた本学の大学祭も同イベントの一環として位置づけられた。また、ジュニアフットサル大会に協賛し、鍼灸学科教員による鍼体験を行った。「将来の夢」をテーマにした小学生対象の絵画コンテストでは、「森ノ宮医療大学賞」の受賞者に記念品を贈呈した。

#### 7) 階段垂直マラソン&ウォーキング THE RISE 256

開催日：平成26年12月23日（火祝）

開催場所：大阪府咲洲庁舎

主催：光のワンダーランド実行委員会（アジア太平洋トレードセンター、さざんか花の町協議会、大阪エンタテインメントデザイン専門学校、相愛大学、森ノ宮医療大学、住之江区役所）

協力：アジア太平洋トレードセンター（ATC）、大阪市住之江区役所、株式会社ウィル、株式会社アストラカン、相愛大学、森ノ宮医療大学、森ノ宮医療学園専門学校

参加者（一般）：112人（マラソン参加者）

本学からの参加：学生スタッフ23人（鍼灸学科12人、理学療法学科1人、看護学科10人）、職員2人（小島、岩澤）…計25人。ほかに専門学校から6人（教員3人：松下、伊黒、由良 学生3人）も参加。

概要：大阪府咲洲庁舎256mの非常階段1176段を登るといふ、日本の階段マラソン&ウォーキングとしては一番の高さを誇るイベント。12月20日（土）から6日間ATC周辺で開催された、住之江区40周年記念事業「大阪 光の饗宴 2014 光のワンダーランド」の一環で行われた。本学からは、学生が大会運営スタッフとして参加者の誘導等に当たった。また、森ノ宮医療学園専門学校の教員・学生スタッフが「鍼灸・テーピングブース」を担当した。

#### 8) ふれあい病院探検隊

開催日時：平成27年1月11日（日）10時～16時

開催場所：大阪府立急性期・総合医療センター

主催：大阪府立急性期・総合医療センター

協力：大阪府立大学、相愛大学、森ノ宮医療大学

（以下略）

概要：医療機関の仕事に興味を持つ高校1、2年生を対象とした、病院内での職業体験イベントにおいて、本学は「体験してみよう！看護技術・・・手も頭も体もフルに使おう！」（看護学科）、「あなたの立位姿勢をチェックしてみよう！」（理学療法学科）、「東洋医学でわかる健康チェック」（鍼灸学科）、「はり・きゅう体験とツボの取り方」（同）と題したコーナーを設置した。

9) 認知症チェックと脳活性化

開催日時：平成27年1月24日（土）12時～14時

開催場所：ポートタウン西ビル

本学からの参加：教員2人（理学療法学科：三木屋、渡辺）、職員1人（大塚）…計3人

概要：住之江区内各地域包括支援センターと、住之江区認知症高齢者支援ネットワーク連絡会が主催して開催した、映画「ペコロスの母に会いに行く」の上映会にあわせ、上映前の時間を利用して開かれた、認知症の予防や対策を学んでもらう市民向けの健康イベント。本学は「運動で認知症予防」と題したコーナーを設け、理学療法学科の教員が、認知症を予防する簡単な運動を紹介し、訪れた高齢者に実際に体験してもらった。

10) 住之江区民マラソン

開催日：平成27年2月11日（水祝）

開催場所：南港中央公園～ポートタウン

主催：住之江区体育厚生協会、一般財団法人大阪市コミュニティ協会住之江区支部協議会、住之江区役所

本学からの参加：教員1人（大月）、学生15人（すべて鍼灸学科）、職員2人（小島、石塚）…計18人

概要：南港中央公園からポートタウン内をコースとする10km、5km、3km、2km、1.5km、2km×5名の各部門で競うマラソン大会。本学は、大会運営のサポートを行ったほか、大阪府鍼灸師会の協力を得て、ランナーを対象とした「はり・きゅう体験」コーナーを開設した。

11) 学術公開講座「青春と老春～人生を健康で豊かに生きるために～」

開催日時：平成27年2月4日（水）～10日（火）＜5回連続＞ 14時～16時

開催場所：森ノ宮医療大学

参加者（一般）：86人（5回の延べ人数）

概要：人生90年という長寿の時代を迎えた今、健康で豊かに生きることの意味やその秘儀について考えることを目的にした市民向けの講座。本学の教員4名と日本教育法学会理事の浪本勝年氏が講演を行い、教育学や生理学などそれぞれの専門的立場から問題提起を行った。計5回の講座内容は以下の通り。

第1回 平成27年2月4日（水） 14：00～16：00	
「年齢という才能について ー心理学と生理学から考えるー」	永瀬 佳孝（森ノ宮医療大学保健医療学部鍼灸学科教授）
第2回 平成27年2月5日（木） 14：00～16：00	
「憲法精神の実践ー家永三郎の生き方に学ぶー」	浪本 勝年（日本教育法学会理事）
第3回 平成27年2月6日（金） 14：00～16：00	
「随喜の心を求めてー塩尻公明の生き方に学ぶー」	中谷 彪（森ノ宮医療大学保健医療学部鍼灸学科教授）
第4回 平成27年2月9日（月） 14：00～16：00	
「『哲学する』生き方のすすめ ーヤスパースの学的歩みに学ぶー」	榊井 靖之（森ノ宮医療大学保健医療学部鍼灸学科准教授）
第5回 平成27年2月10日（火） 14：00～16：00	
「庶民の夢の実現ー小林一三の生き方に学ぶー」	安田 実（森ノ宮医療大学保健医療学部鍼灸学科教授）

12) うめだカレッジ

開催日時：平成27年3月21日（土）14時～15時半

開催場所：大阪市立総合生涯学習センター

主催：大学サテライトオフィス会 OSAKA、大阪市立総合生涯学習センター

後援：大阪市北区

参加者数：75人



本学からの参加：教員1人（鍼灸学科：増山）、学生1人（鍼灸学科）、卒業生2人（鍼灸学科）、職員3人（小島、井上、大塚）…計7人

概要：大阪市内にキャンパスやサテライトオフィスを構える大学の集合体で、本学も加盟する「大阪サテライトオフィス会 OSAKA」等の主催で本年度から始まった、市民向けの連続公開講座。第6回目として本学鍼灸学科の増山祥子講師が「女性のためのツボ療法～症状緩和から健康増進・美容まで～」と題して講演した。東洋医学の概念や、更年期などに見られる女性特有の症状緩和に効くツボ、美容に効果があるツボなどを紹介し、会場は美容や健康に関心の高い女性たちでにぎわった。

## （2）他組織との連携について

### 1）高槻市教育委員会

平成26年6月3日、本学は高槻市教育委員会と相互連携協定を締結し、本学で調印式を行った。協定書では、以下の事業を行うことを確認した。

- ①大学による市立学校児童・生徒を対象とした新たな学びの機会を提供すること
- ②大学生（院生を含む）に市立学校の教育現場を体験する機会を提供すること
- ③大学生（院生を含む）に市立学校の教育活動及び地域の各種活動への支援を推進すること
- ④大学と市立学校の教職員相互の交流・研修を促進すること
- ⑤その他、双方が必要と認める事項

### 2）東大阪病院（本学保健医療学部との連携）

平成26年11月19日、森ノ宮医療大学保健医療学部は、医療法人社団有隣会東大阪病院と相互連携協定を締結し、覚書で以下の事業を行うことを確認した。

- ①森ノ宮医療大学保健医療学部学生の実習の東大阪病院への受け入れ
- ②森ノ宮医療大学からの教員等派遣による医療活動・技術指導
- ③双方の施設の相互有効活用
- ④保健医療・医学分野に関する講義・講演、研究活動等を通じた人材の相互派遣
- ⑤森ノ宮医療大学卒業生に対する、東大阪病院への就職斡旋

### 3）吹田市教育委員会

平成26年11月25日、本学は吹田市教育委員会と相互連携協定を締結し、本学で調印式を行った。協定書では、以下の事業を行うことを確認した。

- ①学校現場のニーズに応える教員養成の推進に関する事
- ②教職員の資質向上のために必要な研修の推進に関する事
- ③乙の学生による吹田市立学校園の教育活動の支援の推進に関する事
- ④教育上の諸課題に係る研究の実施に関する事
- ⑤その他双方が必要と認める事

### 4）相愛大学

平成27年2月19日、本学は相愛大学と包括連携協定を締結し、相愛大学で調印式を行った。協定書では以下の事業を行うことを確認した。

- ①教育研究活動の向上に関する事
- ②大学行事の連携に関する事
- ③学生自治活動及びクラブ活動の連携に関する事
- ④地域の活性化・まちづくりに関する事
- ⑤地域の医療・福祉・健康の向上に関する事
- ⑥その他前条の目的を達成するために必要な分野に関する事

### 5）南大阪病院

平成27年3月9日、本学は社会医療法人景岳会南大阪病院と相互連携協定を締結し、南大阪病院で調印式を行った。覚書では、以下の事業を行うことを確認した。

- ①森ノ宮医療大学保健医療学部学生の実習の南大阪病院への受け入れ
- ②森ノ宮医療大学からの教員派遣等による医療活動・技術指導・研究活動
- ③森ノ宮医療大学と南大阪病院双方の施設の相互有効活用
- ④保健医療・医学分野に関する講義・講演を通じた人材の相互派遣
- ⑤森ノ宮医療大学卒業生に対する南大阪病院への就職斡旋

## 16. 学習支援センターの事項について

### 1. 学習支援センター利用に関する説明会

①平成26年度オリエンテーション時に、新入生に対し学習支援センター員より学習支援センターの概要等を説明した。

### 2. 学習支援センター会議の運営について

①平成25年度は下記の通り学習支援センター運営のための会議を行った。

回数	日程	時限	場所
第1回学習支援センター会議	平成26年5月8日(木)	15:00～15:20	東棟101教室
第2回学習支援センター会議	平成26年7月10日(木)	15:00～15:20	東棟102教室
第3回学習支援センター会議	平成26年11月13日(木)	15:00～15:30	東棟102教室
第4回学習支援センター会議	平成26年3月5日(木)	16:30～16:50	東棟101教室

### 3. 平成26年度学習支援センターアドバイザーについて

(略)

### 4. 平成26年度学習支援センターアシスタントについて

#### ①鍼灸学科センターアシスタント

期間：平成26年6月4日(木)～平成27年2月27日(金)

(略)

#### ②理学療法学科センターアシスタント

(略)

#### ③看護学科センターアシスタント

(略)

#### 1) 鍼灸学科

平成26年度は卒業生を中心とした学習支援センターアシスタント体制で業務に臨んだが、定期的実施される国家試験模擬試験成績の下位20%の学生を中心にきめ細やかな少人数制指導を行った。その結果、センターアシスタント利用満足度アンケート結果では90%の利用学生が大変満足、10%の学生が満足との回答を得ており、国家試験の結果にも結び付いたと感じている。平成27年度も継続していきたい。

#### 2) 理学療法学科

平成25年度同様、担当制はとらず成績下位の学生や秋卒業の学生を中心に学生フォローを実施した。センターアシスタント利用満足度アンケート結果では、64%の学生が大変満足、36%の学生が満足との回答を得ることができた。しかし、2名のセンターアシスタントより平成27年度の担当辞退の申し出があったため、平成27年度は卒業生を含め、再度体制を立て直していく予定である。

#### 3) 看護学科

今年度初めて学習支援センターアシスタント制度を導入した。鍼灸学科の卒業生が担当した経緯もあり、実質機能させることが難しかったため、平成27年度は木田先生を中心に大阪大学大学院生によるセンターアシスタント導入を検討している。

### 4-2. 学習支援センターアシスタント利用対象者のアンケート結果

(略)

5. 学習支援センター主催のステップアップ講座について

低学年の学生の利用を中心とした、専任教員や兼任講師、学習支援センターアドバイザーによる、「やりなおし解剖生理学（2・3年生対象）」、「理学療法士に必要な物理学講座」、「レポートの書き方講座」など多彩な学習関係の講座（ステップアップ講座）を開講した。

1) 解剖学・生理学の復習について

永瀬センターアドバイザーより解剖学・生理学に関する講習を実施した。

	日時	場所	タイトル
第1回	平成26年4月14日（月） 18:00～19:00	東棟102教室	解剖学・生理学の復習
第2回	平成26年4月15日（火） 18:00～19:00	東棟102教室	解剖学・生理学の復習
第3回	平成26年5月12日（月） 18:00～19:00	東棟102教室	解剖学・生理学の復習
第4回	平成26年5月13日（火） 18:00～19:00	東棟101教室	解剖学・生理学の復習
第5回	平成26年6月10日（火） 18:00～19:00	東棟101教室	解剖学・生理学の復習
第6回	平成26年9月24日（水） 18:00～19:00	東棟102教室	解剖学・生理学の復習
第7回	平成26年10月1日（水） 18:00～19:00	東棟102教室	解剖学・生理学の復習
第7回	平成26年11月5日（水） 18:00～19:00	東棟102教室	解剖学・生理学の復習

2) 基礎から学ぼう物理学について

角田センターアドバイザーより物理学の基礎についての講習を実施した。

	日時	場所	タイトル
第1回	平成26年4月17日（木） 18:00～19:00	東棟102教室	基礎から学ぼう物理学
第2回	平成26年5月15日（木） 18:00～19:00	東棟102教室	基礎から学ぼう物理学
第3回	平成26年6月19日（木） 18:00～19:00	東棟102教室	基礎から学ぼう物理学

3) 人体の理解に必要な化学の基礎知識

木田センターアドバイザーより人体の理解に必要な化学についての講習を実施した。

	日時	場所	タイトル
第1回	平成26年4月22日（火） 18:00～19:00	東棟102教室	人体の理解に必要な化学の基礎知識
第2回	平成26年5月13日（火） 18:00～19:00	東棟102教室	人体の理解に必要な化学の基礎知識
第3回	平成26年6月10日（火） 18:00～19:00	東棟102教室	人体の理解に必要な化学の基礎知識
第3回 追加分	平成26年6月12日（木） 18:00～19:00	東棟102教室	人体の理解に必要な化学の基礎知識
第4回	平成26年7月8日（火） 18:00～19:00	東棟102教室	人体の理解に必要な化学の基礎知識

4) レポートの書き方講座

森川アドバイザーよりレポートの書き方講座を実施した。

	日時	場所	タイトル
第1回	平成26年5月7日(水) 18:00~19:00	東棟102教室	レポートの書き方講座
第2回	平成26年5月14日(水) 18:00~19:00	東棟102教室	レポートの書き方講座
第3回	平成26年5月21日(水) 18:00~19:00	東棟102教室	レポートの書き方講座
第4回	平成26年6月4日(水) 18:00~19:00	東棟102教室	レポートの書き方講座
第5回	平成26年6月25日(水) 18:00~19:00	東棟102教室	レポートの書き方講座

5) 医療組織の中で「正しい判断とは何か」

榊井アドバイザーより医療組織の中で「正しい判断とは何か」講座を実施した。

	日時	場所	タイトル
第1回	平成26年5月14日(水) 18:00~19:00	東棟414教室	マイケル・サンデル哲学講義(DVD)から考える①
第2回	平成26年6月4日(水) 18:00~19:00	東棟414教室	マイケル・サンデル哲学講義(DVD)から考える②

6) 授業への臨み方と学習のコツ

来栖アドバイザー、看護学科2~4年生の学生により「授業への臨み方と学習のコツ」について講座を実施した。

	日時	場所	タイトル
第1回	平成26年5月20日(火) 18:00~19:00	東棟102教室	授業への臨み方と学習のコツ
第2回	平成26年6月3日(火) 18:00~19:00	東棟102教室	授業への臨み方と学習のコツ
第3回	平成26年7月1日(火) 18:00~19:00	東棟102教室	授業への臨み方と学習のコツ

7) チーム医療と医療哲学

榊井アドバイザーより「チーム医療と医療哲学」について講座を実施した。

	日時	場所	タイトル
第1回	平成26年9月24日(水) 18:00~19:00	東棟414教室	チーム医療と医療哲学
第2回	平成26年12月3日(水) 18:00~19:00	東棟414教室	授業への臨み方と学習のコツ

## 17. 共通教育部門の活動について

1) 事業期間 平成26年4月1日～平成27年3月31日

2) 事業の成果・実施状況

本年度よりカリキュラムが改正され、それに伴い事業を一部変更した。

教育事業では、カリキュラム変更に伴い、追加が必要な科目および日必要な科目を選出し、一般教養教育の低下が生じないような方策を教務委員会に提案した。

研究事業では、総説、原著論文、報告、各一編を本学紀要に投稿する教員を決定し、投稿を行った。

講座開設事業では、平成27年2月4日～10日に一般向けの公開講座（「精神と老春」）を開催した。

3) 共通教育部門会議の開催状況

当該事業期間中、下記の通り共通教育部門会議を開催した。

第1回共通教育部門会議

日時 平成25年4月24日(木) 午後3時～5時

会場 412 教室

○第一号議案 平成25年度事業計画の説明

第2回共通教育部門会議

日時 平成25年11月27日(木) 午後3時～5時

会場 412 教室

○第一号議案 平成25年度事業中間報告

○第二号議案 平成26年度事業計画

## 18. 附属図書館の活動について

### 1) 図書館利用状況

#### ①開館日数

開館日数： 283日 [オープンキャンパスも含む]

※平日 8:00~20:30 / 土曜日 11:00~17:00

#### ②入館者数

	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度
入館者数	データなし	28,141	49,233	72,126	79,346	72,034	63,759	76,238

(人)

#### ③-1 貸出件数

	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度
鍼灸学科	191	484	893	1492	1,143	946	1,063	1,447
理学学科	471	1,859	3,832	5,283	4,759	3,700	2,803	3,528
看護学科	0	0	0	0	374	1,029	2,889	4,923
大学院生	0	0	0	0	103	83	51	133
教職員	246	851	803	735	1,113	1,132	1,587	1,525
校友会員	0	4	10	31	256	333	192	577
その他	0	0	0	10	7	3	3	15
計	908	3,198	5,538	7,551	7,755	7,226	8,588	12,148

(冊)

#### ③-2 閲覧貸出件数

	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度
鍼灸学科	31	116	215	366	281	426	667	567
理学学科	151	592	1,457	2,953	3,068	2,399	1,693	2,533
看護学科	0	0	0	0	9	143	783	1,123
大学院生	0	0	0	0	15	16	4	20
教職員	94	260	234	266	373	390	457	328
校友会員	0	0	6	2	162	205	120	606
その他	0	0	1	5	2	0	0	0
計	276	968	1,913	3,592	3,910	3,579	3,724	5,177

#### ④館内複写

	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度
冊数(冊)	データなし	460	797	1,079	637	1,124	2,258	3,158
複写枚数(枚)	1,529	3,540	17,441	32,030	11,860	21,700	14,659	22,910

(見開き計算)

#### ⑤-1 相互利用

他館へ依頼

	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度
文献複写	33	169	391	498	468	468	693	1,380
相互貸借	0	3	1	4	0	0	0	6
相互利用	0	0	0	1	0	0	0	1

⑤-2 他館から受付

	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度
文献複写	1	26	61	62	76	76	116	141
相互貸借	0	0	0	1	4	4	8	10
相互利用	0	2	0	1	0	0	0	0

⑥データベース

(文献ダウンロード件数)

	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度
Medical Online		43	275	540	967	1,546	8,138	9,089
CiNii			117	168	435	453	517	
CiNAHL(シナール)					39	86	123	214
計	0	43	392	708	1,441	2,085	8,778	

2) 所蔵資料

① 図書

新規登録

	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度
登録数	4,814	1,605	1,055	4,223	2,970	1,678	3,078	3,764

寄贈受入

	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度
冊数	1,478	575	535	3,103	1,166	573	485	166

蔵書構成 [資料区分 図書・製本雑誌・映像資料]

	総記	哲学	歴史	社会科学	自然科学	技術	産業	芸術	言語	文学	合計
所蔵冊数	312	829	271	2,628	15,014	232	79	952	277	1,427	22,021

② 雑誌タイトル数

	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度
冊子体	91	110	135	153	225	249	326	352
電子ジャーナル	0	0	0	0	8	11	10	10
合計	91	110	135	153	233	260	336	362

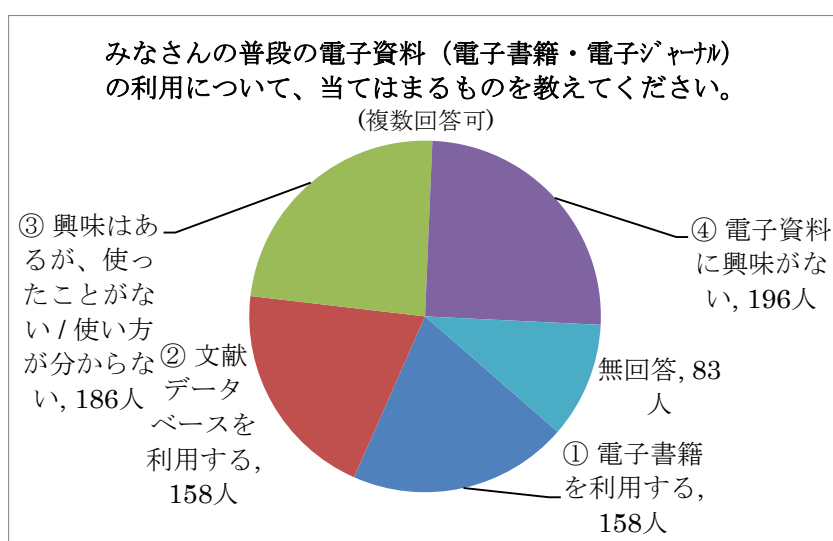
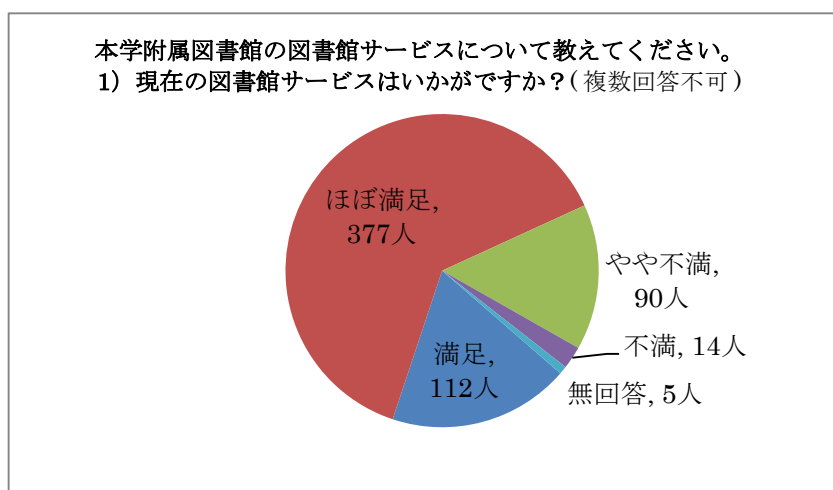
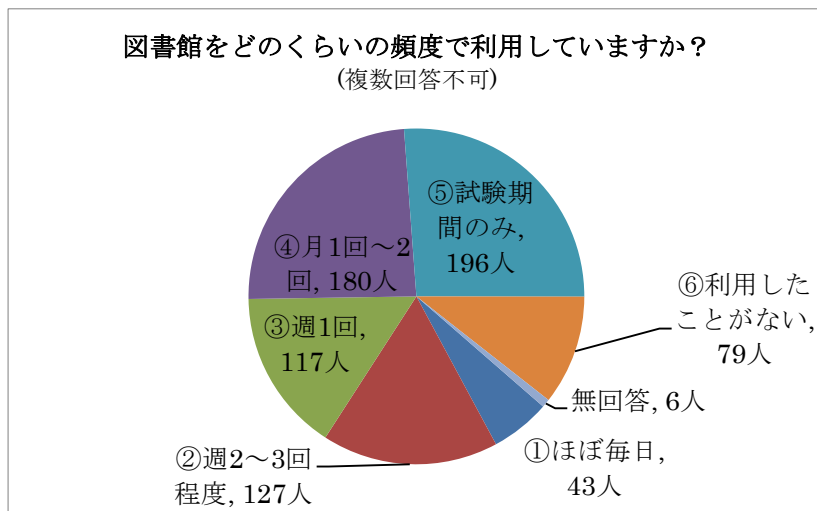
3) 図書館の活動

① 学内

日程	実施	概要
4月	新学年オリエンテーション	図書館利用について説明
4月～5月	図書館利用ガイダンス(1年生学習方法論)	東401、図書館
4月～5月	OPAC・文献検索ガイダンス(1年生学基礎ゼミ)	東401、図書館
6月	文献検索ガイダンス中級(医中誌 Web)	東401
7月	第13回ブックハンティング(MARUZEN ジュンク堂)	学生による選書イベント
7月～8月	教職員対象アンケート(配布、回収)	教職員の図書館利用について調査
	プロクエスト講習会	データベース利用法の説明
8月	シナール講習会	データベース利用法の説明
9月～10月	指定図書・推薦図書の案内	教員による選書受付
11月	第14回ブックハンティング(MARUZEN ジュンク堂)	学生による選書イベント
12月	学生対象利用者アンケート	図書館サービスについて調査
3月	蔵書点検(3/23～3/27)	資産確認



4) 図書館アンケート



## 19. 森ノ宮医療大学 附属鍼灸施術所(はり・きゅうコスモス治療院)について

### 1. 組織

鍼灸師免許を有する鍼灸学科専任教員および技術職員、卒後研修生がローテーションで、鍼灸施術を行った。施術者の内訳は、鍼灸学科専任教員12名(坂本、澤田、仲西、鍋田、山下、松熊、辻丸、増山、涌田、辻、高崎、大月)、技術職員1名(紀野)、研修生1名(メリッサ)、卒後研修生5名(中村、森木、作間、梶浦、里道)である。人員配置の平均は1日の各時間帯平均2.9名で実施した。

### 2. 施術時間および料金体系

#### 施術時間

曜日 \ 施術時間	10時～12時	13時～16時	16時～18時
月(学生実習)			
火(学生実習)			
水(大学院生実習)			
木			
金(学生実習)			

(※担当者名 略)

#### 料金体系

(1) 初診料(初診時のみ)	1,000円(消費税込)
(2) 通常料金	3,000円(消費税込)
(3) 提携施設・団体料金	2,000円(消費税込)
(4) 学園職員	1,000円(消費税込)
(5) 学園学生(初診料免除)	500円(消費税込)
(6) 小児鍼	500円(消費税込)

実習協力料金の設定：臨床実習への協力を承諾した上記(2)(3)の患者は1,500円

提携施設・団体：近隣で社会的連携が緊密になると予想される、あるいは患者紹介をしていただけそうな施設や団体などを提携施設・団体として施術料の優遇を行っている。(以下略)

### 3. 主な宣伝活動

大学正面玄関の看板、大学ホームページ、学園校友会報への掲載などを行った。

### 4. 地域医療活動

大阪府立急性期・総合医療センター「ふれあい病院探検隊」、市民参加型のイベントに鍼灸治療ブースを開設し、鍼灸治療に対する啓発を行った。

5. 本学学生の健康管理

2014年4月から2015年3月までに学生患者数は延べ人数で527名が来院され、鍼灸治療を受けられた。

6. 鍼灸学科学生臨床実習(大学院1年生)

前期後期に実施する3年生の附属施術所基礎実習は月曜日(1・2時限目)、火曜日(3・4時限目)、4年生の施術所応用実習は月曜日(3・4時限目)、金曜日(3・4時限目)に実施した。また、曜日ごとに症例報告会であるカンファレンスを実施した。

2年生の施術所見学実習は2015年2月から3月前半の期間にかけて集中実習を実施した。

大学院の1年生は水曜日(1・2・3・4時限目)に実施した。

4年生に対しては施術の総まとめとして OSCE を夏季期間中に実施した。

7. 卒後研修制度の導入

5名の研修鍼灸師ならびに1名の研究生(山下)の受け入れ、4名の研修が3月をもって終了した。また、研修鍼灸師の募集についてホームページ上に記載を行った。

8. 鍼灸臨床研究

臨床鍼灸懇話会に研修鍼灸師の発表と臨床鍼灸に症例報告を行った。

9. その他

施術所・実習科目での事故の防止策を検討するため実技実習ガイドラインの作成を行った。

10. 患者統計

略

## 20. 森ノ宮医療大学 鍼灸情報センターの活動について

### 1. 概要

①鍼灸に関する学術・臨床・マスメディア情報の収集と発信、②本学園所蔵代田カルテの調査、整理、および出版、③はりきゅうミュージアム所蔵品の Web 発信の役割を担い、鍼灸界および社会に貢献するとともに、結果的に国内における鍼灸の認知度を上げ、本学および本学園の鍼灸に関する信頼性を確保するため、鍼灸情報センター (MUMSAIC) を設置した。

MUMSAIC は 3 名の教員および 6 名の客員教員等で平成 26 年度から活動を開始した。

### 2. MUMSAIC 立ち上げと環境整備

( 略 )

### 3. 専用 Web サイトの開設

( 略 )

### 4. 代田カルテの整理

( 略 )

### 5. ミュージアム所蔵品の大学展示

( 略 )

### 6. 事業の評価指標の模索

( 略 )

### 7. その他

( 略 )

## 21. 森ノ宮医療大学 内部監査の活動について

### (1) 計画対比

予定していた監査活動については、期初にテーマ設定をしていなかった活動を除き全て実施する事ができた。

区分	事項	概要	監査目的との関係					対象	手法	実績		
			コンプライアンス	情報の信頼性	業務の有効性・効率性	資産の保全	ガバナンス				リスクマネジメント	
1 定期監査	1 中期計画の進捗状況監査	定期的に中核施策の進捗状況や課題等を把握する。			◎		○	○	所管部門長	①所管部門長へのヒアリング(全体中核施策) ②経営管理室へのヒアリング(部門中核施策)	済	
	2 教学部門における教育研究事業に対するマネジメントシステムの整備・運用監査	中期計画に定められた目標および施策を推進するためのメカニズム(仕組み)の整備・運用状況を確認する(教学の内容自体は対象としない)。			◎				学部長、全学課長、大学教務室長、専門学校教務部長	①ヒアリングによる整備・運用状況の確認 ②自己点検・FD委員会等の活動状況分析	済	
	3 規程体系、プログラム条項の履行状況等監査	規程の体系、メンテナンス状況、プログラム事項(「別途…を定める」等)の履行状況等を確認する。	◎	○	○	○			規程等所管部門長	①規程等所管部門の特定、規程体系、論点・確認点の整理・確認 ②所管部門長へのヒアリング	済	
	4 業務リスクの棚卸・業務改善監査	事務部門ごとの業務内容とリスクの存否・程度を把握・改善指導	◎	◎	◎	◎		◎	事務部門全部門長	①ツール(ROM等)のフォーマット検討 ②上記フォーマットの作成依頼 ③全部門長ヒアリングによるリスク把握 ④評価・改善指導	済	
	5 業務改善監査	上記のフォロー	◎	◎	◎	◎		◎	改善対象部門長	①部門長ヒアリングによる改善状況の確認	済	
	6 経営決定メカニズムの整備・運用状況	最高意思決定機関(省)の意思決定が、いわゆる「経営判断の原則」(必要な事項に対して、適切な情報・プロセス・時間に基づく決定)に則って行われるように設計・運用されているかを確認する。						◎	○	理事会、理事会から業務決定権限の委任ないし復任を受けた者	①規程等で定められた意思決定メカニズムの確認(2項、3項を含め) ②平成25年度および平成26年度の監査実施時点までの議事録および添付資料等の閲覧・部門長ヒアリング等による情報伝達状況(IR)の可視化 ③理事会等の傍聴	済
	7 経営決定事項の履行メカニズムの整備・運用状況監査	意思決定された事項が確実に迅速に履行されるように設計・運用されているかを確認する。						◎	○	意思決定事項に該当する事務分掌の部門長	①議事録による意思決定事項の確認 ②該当部門長へのヒアリング、実査	済
	8 監事・会計監査人・内部監査人による監視機能の整備・運用状況監査	意思決定メカニズムの適正性を確保するための監査機能の状況を確認する。						◎	○	監事・会計監査人・内部監査室長、理事長	①平成25年度の監事、会計監査人、内部監査室の監査報告書の閲覧による監査活動実績および指摘内容の確認 ②理事長ヒアリングによる監査指摘事項に対する意思決定状況の確認	済
2 テーマ監査	1 競争的資金等の取扱い状況監査1	改定ガイドラインの発効を踏まえ、競争的資金等の取扱い実態を確認する。	◎						平成25年度完了分全件	①現行ルールの確認・論点整理 ②当該研究者および取引業者等に対する実査	済	
	2 競争的資金等の取扱い状況監査2	改定規程等の履行状況を確認する。	◎						各学科金額上位2件、共同研究1件程度	①当該研究者および取引業者等に対する実査	済	
	3 研究活動における不正行為等の防止活動の運用実態監査	研究活動における不正行為等の防止活動の運用実態確認	◎	○					統括責任者	①現行ルールの確認・論点整理 ②統括責任者に対するヒアリング	済	
3 総括	1 固定資産管理状況監査	固定資産管理制度の整備・運用状況を確認する。			○	◎			大学、専門学校、法人、診療所、各教件	①固定資産管理制度の改定案策定 ②実査	済	
	2 リスクマネジメント・システムに対する対応メカニズムの整備・運用状況監査	特に事故や事件、資産の保全リスク(ES等人的資産含む)に対する対応メカニズムの整備・運用状況を確認する。	○	○	○	◎		◎	担当部門長	①現行メカニズムの確認 ②担当部門への運用状況のヒアリング・実査 ③実査	済	
	3 テーマ未定	上期の監査結果を踏まえて2~3程度のテーマを設定して監査を実施する。								①テーマ設定、下期監査計画の策定 ②監査実施	未実施	
3 総括	1 中間総括	上期の監査結果を総括(リスク評価)するとともに、マーケティング監査結果、中期計画の進捗・成果状況等を踏まえ、平成27年度事業計画・予算編成に向けた報告提言書に取りまとめる。									済	
	2 年度総括	今期の監査結果を総括し報告書に取りまとめる。									済	

### (2) 活動成果

監査結果を踏まえて、以下の提言を行った。

	提言事項等	対応状況
1	人事給与制度の再構築	法人総務室を中心に検討中。平成27年度より段階的に実施。
2	財務政策、情報政策基本方針策定	平成27年度教育成果報告に合わせて財務G、情報システムGで検討中。
3	管理会計、予実管理	平成27年度より実施予定
4	専門学校の中期ビジョンの明確化	「真のプロが真のプロを育てる日本一の専門学校」をコンセプトに検討中

5	教職員の意識や業務実施姿勢の改革 ①基本的なオフィス・マナー等の徹底	理事長下期メッセージ、スケジューラーへの入力徹底等を実施。
	②教育研修体系の見直し	学園総務室にて計画策定中。平成27年度より実施予定。
	③参画の場づくり（10周年事業PT等）	平成26年3月「大学をよりよくするPT」組成
9	学科経営支援体制の整備	平成26年7月から「学科長連絡会」として取り組み中
10	個別教員へのFDサポート強化	平成27年1月、SFD委員会内に「授業方法改善研究部会」を設置
11	「必要な情報」の流通整備	平成27年2月より「IRレポート」を実施
12	稟議、支出願等の実質化	平成27年4月より「承認チェックリスト」実施
13	「換金性の高い物品」の管理強化	大学総務室、経理課
14	機材・事務用品等のリユース促進	平成26年3月より実施中
15	業務フロー、業務手順書の整備	各部署にて取組中

(3) 反省点と改善方策

反省点		原因・改善方策
1	内部監査として最も基本的な業務である規程等の内容および遵守状況の監査が十分に行えなかった。	下期から太田が法人本部を兼務したことによる人的パワーの低下が原因。平成27年度より葉廣室長代理が専任となることに加え、規程等管理規程で所管部署によるメンテがルール化されたため、平成27年度上期の重点テーマとして取り組む。
2	提言事項のフォローが不足しており、「言い放し」になる危険性がある。特に業務改善や業務レベルのリスク管理、属人化の防止等を図るために「業務フロー」あるいは「業務手順書」の整備を重点テーマに掲げていたが、ほとんど進まなかった。	原因は上記同様。平成27年度の重点テーマとして取り組む。
3	前頁に記載した提言の実施について、内部監査室自らが手出しすることも多く、自己監査の危険とともに、現業部署の能力開発をさまたげる危険性がある。	原因は上記同様。今後は、内部監査室としては、極力、進捗確認と助言にとどめ、組織全体としての自律性の強化を図る。

## IV. 学校法人森ノ宮医療学園附属診療所 平成26年度事業報告書

### 1. 業務日程

#### ●みどりの風クリニック

- ①診療日数 244日
- ②休診日
  - 休日・祝日 67日
  - 土曜休診日(第1, 3土曜日) 24日
  - 木曜休診日(第2, 4木曜日) 24日
  - 夏季休診日 4日(8月12日～15日)
  - 年末年始休診日 6日(12月29日～1月3日)
  - 森ノ宮医療学園新年会 1日(1月4日)
  - 内科・整形両学会のため休診 1日(6月28日)
- ③職員健康診断
- ④専門学校学生検診
- ⑤日本東洋医学会
- ⑥日本肩関節学会
- ⑦日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会
- ⑧毎月第4(or第5)土曜：クリニック・鍼灸院定例会議
- ⑨専門学校柔道整復学科臨床実習(昼間部・夜間部)
- ⑩大学理学療法学科臨床実習・大学鍼灸学科内科見学実習

#### ●みどりの風鍼灸院

- ①診療日数 244日
- ②休診日
  - a) 日曜・祝日 67日
  - b) 土曜休診日(第1・第3) 24日
  - c) 木曜休診日(第2・第4) 24日
  - d) 夏期休診日 3日(8/12～8/15)
  - e) 年末年始休診日 6日(12/29～1/3)
  - f) 森ノ宮医療学園新年会 1日(1/4)
  - g) 全日本鍼灸学会：愛媛大会 1日(5/16)
- ③全日本鍼灸学会 愛媛大会(愛媛県)：3日間(平成26年5月16日～18日)
- ④日本臨床鍼灸懇話会全国集会(大阪大会)：2日間(10月11日、12日)
- ⑤みどりの風鍼灸院「東洋医学基礎ゼミ」(専門学校2・3年対象)
- ⑥毎月第4土曜：クリニック・鍼灸院合同定例会議
- ⑦隔月：みどりの風クリニック・鍼灸院、漢方専門医師と鍼灸師による勉強会
- ⑧専門学校鍼灸学科臨床実習(午前コース・昼間コース・医療資格者コース・夜間コース)

### 2. 診療体制について

#### ●みどりの風クリニック診療体制

標榜科

内科：一般内科・漢方内科・心療内科

整形外科：整形外科・リハビリテーション科

診療受付時間	月	火	水	木	金	土
午前 9:00～11:00(内科、整形)	○	○	○	○	○	○
午後 1:30～ 4:30(内科)	○	○	○	○(整形も)	○	×
夜間 4:30～ 7:30(整形)	○	○	○	×	○	×

休診日(日曜・祝日・第1, 3土曜日、第2, 4木曜日) 内科、水曜日午後診予約制

●みどりの風鍼灸院施術体制

受付時間	月	火	水	木	金	土
午前診 9:00～11:00	○	○	○	○	○	○
午後診 1:30～4:00	○	○	○	○	○	×
夜間診 4:30～7:30	○	○	○	×	○	×
休診日	日曜日、祝日、第1・3土曜日、第2・4木曜日					

3. 人事について

●みどりの風クリニック

(略)

●みどりの風鍼灸院

(略)

4. 平成26年度患者動向について

●みどりの風クリニック

(略)

●みどりの風鍼灸院

(略)

5. 平成26年度収入動向について

●みどりの風クリニック

(略)

●みどりの風クリニック その他の収入

(略)

●みどりの風鍼灸院

(略)

●みどりの風鍼灸院 その他の収入

(略)

6. 主な支払について

●みどりの風クリニックの主な支出

(略)

●みどりの風鍼灸院材料費

(略)



## V. 学校法人森ノ宮医療学園出版部 平成26年度事業報告書

### 1. 概況報告

平成26年度前半は、部員2名体制を基本として、看板雑誌である『鍼灸 OSAKA』4号発行に尽力するとともに、26年度企画のテーマに従い業務に取り組んだ。

結果として、売上では標記のように予算比で75.9%達成、昨年と比較して、500万円強マイナスという結果となった。主な要因としては、森ノ宮医療大学図書館・専門学校図書室からの書籍の受注が滞ったことが大きく影響しているが、26年度方針で記載したように、書物離れの傾向が止まらず、書籍全般の売上微減の累積によるものといえる。そういう状況のなか、他校からの定期購読が増加したことは朗報である。その他具体的な売上内訳は下記の項目別各売上表等に詳らかにした。

出版部として26年度のトピックは、尾崎朋文副校長を出版部部長に迎え、組織として整備されたことである。このことは、東洋医学・鍼灸分野において、横山浩之森ノ宮医療大准教授を出版部に迎えたことに続く体制強化となる。今後これまで以上に『鍼灸 OSAKA』はもとより制作物の内容充実と深化が期待される。

出版部事業として、東洋医学等の発展に資するための企画として、イベントの実施を挙げているが、26年度は「モクサアフリカ」の日本活動への支援を通じて業界のみならず一般の方へも直接灸の効果をアピールした。全日本鍼灸学会シンポジウム参加のコーディネーターや本学園のみならず他の養成校等での講演もコーディネーターし、この活動は27年度、紀伊國屋書店本町店での学園広報を兼ねた同講演や単行本の企画となった。また、他医療分野とのコラボレーションとしては、フェルデンクライスメソッドCD発行を契機に学内外向けの講演会を実施し、一定の評価を得ることができた。

次年度については、継続企画の実行を第一に、『鍼灸 OSAKA』の新たな展開を必須項目として取り組むとともに、東洋医学の普及発展＝本学園の発展という思いのもと、医療界をボーダレスとする出版ならではの企画を提案していく所存である。

なお、検討事項として掲出した「森ノ宮医療大学出版会」については、状況を鑑み、引き続き検討していく。

### 2. 制作・出版物報告

#### 1) 「鍼灸 OSAKA」の発行 〈113～116号 各1800部 発行〉

No	発行日	特 集
第113号	2014/5/15 発行	原因不明の腰痛を治す
第114号	2014/9/26 発行	眩暈、それとも鍼当たり
第115号	2014/12/12 発行	今こそ「補腎」!
第116号	2015/03/7 発行	往診・往療・出張施術

#### 2) 26年度発行の単行本等編集・制作

- \* フェルデンクライスメソッド顎篇 CD
- \* 「校友会報」(年1回 No.14) ・グリーティングカード1点
- \* 『ポケット鍼灸臨床ガイド』改定第3版 発行 (※発行日は27年)

#### 3) 27年度継続制作予定の出版物

- \* 『中国針灸学術史大綱』(黄龍祥著 日本語訳) : 第1部翻訳完了・校正進行中
- \* 『治療家の経営術』(山下 健著) : 制作進行中
- \* 『はりきゅう Q&A』(森ノ宮医療学園出版部編)
- \* 『小児はりを「はり」以外の言葉で説明する本』(仮題) : 進行中
- \* 『経絡経穴取穴 Study』 : 編集制作中

- \* 『柔道整復理論サブノート』改定第4版：進行中
- \* 『モクサフリカ 小さなお灸で世界を変える』：進行中 他

### 3. 平成26年度事業計画進捗状況

	26年度計画制作物・事業	実績・進捗状況	
季刊誌	鍼灸 OSAKA113	発刊	了
季刊誌	鍼灸 OSAKA114	発刊	了
季刊誌	鍼灸 OSAKA115	発刊	了
季刊誌	鍼灸 OSAKA116	発刊	了
書籍販売	教科書・参考書販売	予定通り完了	了
書籍販売	図書室図書販売	受注なし	—
単行本	中国針灸学術史大綱第1巻	27年度に校了予定	継続
単行本	はりきゅう Q&A	27年度に出版予定	継続
単行本	経絡経穴取穴 Study	27年度に出版予定	継続
単行本	治療家の経営術	27年度初頭に発行予定	継続
CD	フェルデンクライスメソッド顎編	26年度に出版	了
デジタル	ツボ暗記カードアプリ他言語（ポルトガル語等）版	制作発行凍結	—
デジタル	鍼灸 OSAKA 絶版号	27年度発売予定	継
デジタル	鍼灸臨床ポケットガイド アプリ	27年度出版予定	継
制作受託	校友会報ほか	制作済み	了

### 4. 売上報告 (略)

### 5. 営業活動 (略)